

市民意識調査

平成 26 年 8 月

座間市

はじめに

座間市では、行財政改革や地方分権など大きな課題を抱えながらも、将来の都市像「ともに織りなす 活力と個性 きらめくまち」の実現に向け、諸施策に積極的に取り組んでいるところであります。

このような状況のなか、市民の皆さまの意識やご要望を的確に把握し、今後の市政に反映させるため「市民意識調査」を実施いたしました。

前回の平成20年の調査同様、定住意識や市政に関する基礎事項についてお尋ねしたほか、将来のまちづくり計画や都市環境、資源循環社会などの課題についても調査させていただき、たくさんの貴重なご意見をいただくことができました。

この調査結果は、市政推進の参考とさせていただきながら、諸計画立案の貴重な基礎資料として活用させていただきます。

調査にご協力いただきました多くの皆さまに心からお礼申し上げますとともに、今後も市政に対する一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成26年8月

座間市長 遠藤 三紀夫

も く じ

I 調査概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の仕様.....	1
3 回収結果.....	1
4 調査結果をみる上での注意事項.....	2
II 調査結果の概要	3
III 調査結果	8
1 回答者の属性.....	8
(1) 性別.....	8
(2) 年齢.....	8
(3) 職業.....	9
(4) 勤務地(通学地).....	9
(5) 家族構成.....	10
(6) 住まいの形態.....	11
(7) 在住年数.....	12
(8) 住まいの地域.....	13
2 生活環境について.....	14
(1) 座間市に住んだ理由.....	14
(2) 定住意識.....	15
(3) 今の場所に住み続けたい理由.....	19
(4) 他のところに移りたい主な理由.....	20
(5) 住まいの周辺環境についての満足度.....	21
(6) 総合的なまわりの環境.....	34
3 健康づくりについて.....	36
(1) 健康づくりのために重要だと思うこと.....	36
4 コミュニティ活動について.....	38
(1) 今後の近所づきあい.....	38
(2) 実際に参加している団体・活動.....	42
(3) 地域活動をしていない主な理由.....	46
5 市民生活・広報について.....	48
(1) 要求や問題を市政に反映させる方法.....	48
(2) 日常生活に役立つ情報を得るための媒体(メディア).....	50
(3) 市のお知らせの便利な伝達方法.....	53
(4) 座間市のホームページの閲覧経験.....	55
(5) 座間市のホームページの満足度.....	57
6 男女共同参画について.....	59
(1) 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて.....	59
(2) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由.....	61
(3) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由.....	63
(4) パートナー(配偶者・恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験.....	65
7 防災について.....	68
(1) 地震や火災に備えてとっている対策.....	68
(2) 防災対策として力を入れるべき施策.....	70
(3) 防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度.....	72

8 禁煙マナーについて	74
(1) 路上の喫煙防止に係る条例の必要性について	74
9 景観形成について	76
(1) 良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこと	76
(2) 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方	78
(3) 中高層建築物の具体的問題点	81
(4) 建築物の高さ制限の必要性について	83
10 公園・広場・緑地について	85
(1) 自宅周辺の緑の満足度	85
11 資源循環社会について	87
(1) ごみの減量化や資源化を推進していくうえで力を入れていくべき施策	87
12 自由時間(余暇)について	89
(1) 自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設	89
13 環境問題について	91
(1) 一番気になる環境問題	91
(2) 環境に配慮した取組みを行ったかどうか	93
14 自由意見	100
IV 調査票	113

I 調査概要

1 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望などを的確に把握し、今後の市政運営に反映させることを目的とする。

2 調査の仕様

調査の仕様は以下の表に示すとおりである。

(1)調査地域	座間市全域
(2)調査対象	平成26年4月1日現在、座間市在住の18歳以上の男女個人
(3)対象者数	2,500人
(4)抽出方法	住民基本台帳から単純無作為抽出
(5)調査方法	郵送調査法(回答者は無記名)
(6)調査期間	平成26年4月26日(土)～5月30日(金)

3 回収結果

全体の回収結果

抽出数	回収数	不明戻り	無効票数	有効回収数	有効回収率
2,500	1,037	12	6	1,031	41.2%

地区別回収数・回収率

地域名	新田宿・四ツ谷	座間	入谷・明王	立野台	緑ヶ丘	相武台・栗原・広野台	相模が丘	小松原	ひばりが丘	東原・さがみ野	南栗原 栗原中央・西栗原・	地域名無回答	全体
抽出数	102	100	366	103	166	272	477	79	316	224	295		2,500
回収数	42	53	152	42	64	110	205	30	121	89	117	6	1,031
回収率	41.2%	53.0%	41.5%	40.8%	38.6%	40.4%	43.0%	38.0%	38.3%	39.7%	39.7%		41.2%

4 調査結果をみる上での注意事項

- ①本文、表、グラフなどに使われる n は、質問の回答者数を表す。
- ②百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ③複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える。
- ④文、表、グラフの表示の都合上、項目名を省略して表現する場合がある。
- ⑤標本誤差

本調査は、調査対象となる母集団(座間市在住の18歳以上の男女)から一部を抽出した標本(サンプル)の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っているため、母集団に対して標本誤差が生じることがある。

本報告書で表現された百分率には、95%の信頼度(信頼度係数1.96)で、下表のような誤差がある。例えば、n=1,031 のとき、ある設問の「はい」という回答比率が20%であった場合、真の値は20%を中心に±2.4%の範囲内に、つまり17.6%~22.4%の間に入ることとなる。

回答者数(n)	1,031	1,000	800	600	400	200	100
回答比率	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±	誤差±
10%, 90%	1.8	1.9	2.1	2.4	2.9	4.2	5.9
20%, 80%	2.4	2.5	2.8	3.2	3.9	5.5	7.8
30%, 70%	2.8	2.8	3.2	3.7	4.5	6.3	9.0
40%, 60%	3.0	3.0	3.4	3.9	4.8	6.8	9.6
50%	3.0	3.1	3.5	4.0	4.9	6.9	9.8

◆標本誤差の算出式

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{\text{座間市の人口} - \text{質問の回答者数}}{\text{座間市の人口} - 1} \times \frac{\text{回答比率} \times (1 - \text{回答比率})}{\text{質問の回答者数}}}$$

- ⑥本報告書に掲載している地域図の空欄部分は、米軍キャンプ座間及び企業用地である。

Ⅱ 調査結果の概要

1 回答者の属性

(1) 性別

「男性」(45.8%)、「女性」(50.2%)、「無回答」(4.0%)

(2) 年齢

「18～29歳」(7.6%)、「30～39歳」(12.2%)、「40～49歳」(15.1%)、「50～59歳」(15.6%)、「60～69歳」(23.6%)、「70歳以上」(25.4%)、「無回答」(0.5%)

(3) 職業

「商工業」(2.8%)、「サービス業」(7.6%)、「農林業」(0.1%)、「専門・技術職」(10.1%)、「事務職」(9.7%)、「労務職」(4.6%)、「人材派遣会社への登録」(0.8%)、「パート、アルバイト」(13.6%)、「学生」(2.8%)、「専業主婦」(22.1%)、「無職」(21.7%)、「その他」(3.2%)、「無回答」(1.0%)

(4) 勤務地（通学地）

「自宅」(6.7%)、「座間市内」(21.9%)、「県央地域」(31.1%)、「横浜市・川崎市」(11.3%)、「その他の県内」(5.5%)、「東京都内」(19.1%)、「その他」(1.5%)、「無回答」(2.9%)

(5) 家族構成

「単身世帯」(11.3%)、「夫婦のみ」(30.1%)、「二世帯世帯(親と子)」(50.0%)、「三世帯世帯(親と子と孫)」(5.8%)、「その他」(1.5%)、「無回答」(1.4%)

(6) 住まいの形態

「持家(一戸建て)」(60.6%)、「持家(共同住宅)」(24.2%)、「民営借家(一戸建て)」(1.1%)、「民営借家(共同住宅)」(10.3%)、「公営住宅」(1.8%)、「官・公舎」(0.0%)、「その他」(1.0%)、「無回答」(1.1%)

(7) 在住年数

「昭和19年以前」(1.9%)、「昭和20年～昭和29年」(2.3%)、「昭和30年～昭和39年」(4.8%)、「昭和40年～昭和49年」(15.9%)、「昭和50年～昭和59年」(19.1%)、「昭和60年～平成6年」(18.5%)、「平成7～平成16年」(17.5%)、「平成17年～平成21年」(10.2%)、「平成22年以降」(8.1%)、「無回答」(1.6%)

(8) 住まいの地域

「新田宿・四ツ谷」(4.1%)、「座間」(5.1%)、「入谷・明王」(14.7%)、「立野台」(4.1%)、「緑ヶ丘」(6.2%)、「相武台・栗原・広野台」(10.7%)、「相模が丘」(19.9%)、「小松原」(2.9%)、「ひばりが丘」(11.7%)、「東原・さがみ野」(8.6%)、「栗原中央・西栗原・南栗原」(11.3%)、「無回答」(0.6%)

2 生活環境について

(1) 座間市に住んだ理由

座間市に住んだ理由を聞いた結果最も多かったのは「手ごろな家や土地があったから」(32.5%)であった。

(2) 定住意識

定住意識を聞いた結果最も多かったのは、「住み続けたい」(59.5%)であった。過去の調査結果と比較すると、「住み続けたい」は前回から引き続き増加傾向がみられる。

住まいの地域別にみると、「住み続けたい」の比率は11地域中すべてで 5 割を超え、最も高い地域は、70%以上を示した入谷・明王となった。

(3) 今の場所に住み続けたい理由

今の場所に住み続けたい理由を聞いた結果最も多かったのは、「自分の家や土地があるから」(51.7%)であった。

過去の調査結果と比較すると「自分の家や土地があるから」の比率は前回よりも高くなった。「人間関係が良いから」は年々比率が低くなっていく傾向がみられる。

(4) 他のあるところに移りたい主な理由

他のあるところに移りたい主な理由を聞いた結果最も多かったのは、「通勤・通学などが不便だから」(16.5%)であった。

過去の調査結果と比較すると、「通勤・通学などが不便だから」、「日常の買い物が不便だから」、「人間関係が良くないから」、「高級店や娯楽施設が少ないから」、「地代・家賃が高いから」は年々増加する傾向にある。「航空機騒音がひどいから」、「子どもの教育の関係で」は、前回より高くなっている。

(5) 住まいの周辺環境についての満足度

周辺環境を18項目について評価してもらった結果、「満足」+「まあ満足」-（「やや不満」+「不満」）の比率を《住まいの周辺環境についての満足度》とすると、30ポイントを超える評価だった項目は、「飲み水」、「日当たりや風通しなど」、「台所・風呂などの排水処理」、「ごみ処理」、「日常の買い物」、「周囲の自然環境」であった。-30ポイントを下回る評価だった項目は、「騒音・大気汚染など」となった。

(6) 総合的なまわりの環境

総合的なまわりの環境を聞いた結果最も多かったのは、「まあ住みやすい」(55.0%)であった。（「住みやすい」+「まあ住みやすい」）-（「やや住みにくい」+「住みにくい」）の比率を《住みやすさ》とすると、《住みやすさ》は55.1ポイントであった。

過去の調査と比較すると、《住みやすさ》は44.4ポイントから55.1ポイントへ増加している。

3 健康づくりについて

(1) 健康づくりのために重要だと思うこと

健康づくりのために重要だと思うことを聞いた結果最も多かったのは、「定期検診などによる健康管理」(66.4%)であった。次いで、「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」(39.1%)、「過労防止のための適切な休養」(21.0%)となっている。

過去の調査と比較すると、「特にない」が年々高くなっている傾向がみられる。

4 コミュニティ活動について

(1) 今後の近所づきあい

今後の近所づきあいを聞いた結果最も多かったのは、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」(50.3%)であった。

過去の調査結果と比較すると、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」、「あいさつ程度のつきあいをしたい」、「近所づきあいはしたくない」で比率が高くなっており、反対に「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」は比率が低くなった。

(2) 実際に参加している団体・活動

実際に参加している団体・活動を聞いた結果最も多かったのは、「自治会」(42.1%)であった。また、「特に活動していない」(44.6%)も高い比率となっている。

職業別にみると、「特に活動していない」の比率が最も高かったのは学生で7割を超えている。反対に少なかったのは、専業主婦となった。

性別・年齢別にみると、「特に活動していない」は男女とも加齢にともなって減少する傾向がみられる。また、「趣味・学習・伝統文化などの団体活動」は男女とも70歳以上で高くなっている。

(3) 地域活動をしていない主な理由

地域活動をしていない主な理由を聞いた結果最も多かったのは、「活動する時間がないから」(39.1%)であった。次いで、「どのような活動が行われているのかあまり知らないから」(38.7%)となっている。

5 市民生活・広報について

(1) 要求や問題を市政に反映させる方法

要求や問題を市政に反映させる方法を聞いた結果最も多かったのは、「自分で直接市役所に連絡する」(39.7%)であった。次いで、「自治会を通して連絡する」(17.4%)が続く。また、「言っても無駄だと思う」(22.5%)の比率も高くなっている。

過去の調査と比較すると、「自分で直接市役所に連絡する」の比率が年々増加している傾向がみられる。

(2) 日常生活に役立つ情報を得るための媒体(メディア)

日常生活に役立つ情報を得るため1番よく使う媒体(メディア)を聞いた結果最も多かったのは、「テレビ」(35.9%)であった。

過去の調査と比較すると、「インターネット」が急速に増加し続けているのが目立ち、反対に、『広報ざま』などの広報紙、「新聞・雑誌」、「自治会の回覧板」、「書籍・チラシ」など活字媒体で減少している傾向がみられる。

(3) 市のお知らせの便利な伝達方法

市のお知らせの便利な伝達方法を聞いた結果最も多かったのは、「ケーブルテレビ」(23.5%)であった。次いで、「ツイッターなど」(17.7%)、「録音テープによる電話サービス」(16.9%)、「市役所や各出張所などでのビデオ上映」(13.0%)となっている。

性別・年齢別にみると、「ツイッターなど」は、男女ともに18～29歳、30歳代で最も比率が高く、特に若年層でツイッターといったインターネットを利用した方法が求められている様子が見えてくる。

(4) 座間市のホームページの閲覧経験

座間市のホームページの閲覧経験を聞いた結果は、「ある」とした人は46.4%であった。

年齢別にみると、閲覧経験が「ある」と回答した比率について、59歳以下ではどの年代も5割を超えている。反対に、60歳以上では3割台以下になり、高齢層の閲覧が少ないことが見受けられる。

(5) 座間市のホームページの満足度

座間市のホームページの満足度を聞いた結果最も多かったのは、「ふつう」(65.5%)であった。「満足」+「まあ満足」-「やや不満」+「不満」の比率を《座間市のホームページの満足度》とすると、《座間市ホームページの満足度》は3.5ポイントであり、前回(平成20年)の調査よりも満足度は高くなっている。

6 男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

「男は仕事、女は家庭」といった考えについて聞いた結果最も多かったのは、「どちらかといえば反対」(32.4%)であった。次いで、「反対」(22.6%)、「どちらかといえば賛成」(22.4%)、「わからない」(14.4%)、「賛成」(5.3%)が続く。「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた《反対派》が、半数を超える結果となった。また、すべての性別・年齢で、《反対派》が《賛成派》を上回っている。

(2) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由

「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由を聞いた結果最も多かったのは、「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」(34.2%)であった。次いで、「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」(23.6%)、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」(22.2%)となっている。

(3) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由

「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由を聞いた結果最も多かったのは、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」(60.1%)であった。次いで、「従来の経験や習慣から」(15.7%)、「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」(15.0%)となっている。

(4) パートナー（配偶者・恋人）からされたドメスティック・バイオレンスの経験

パートナー（配偶者・恋人）からされたドメスティック・バイオレンスの経験を聞いた結果最も多かったのは、身体的暴力、心理的暴力、性的暴力、経済的暴力、その他被害のすべての項目で「まったくない」であった。項目別に比べると、心理的暴力を受けた経験がある人の比率が他と比べて高い。

性別にみると、どの項目でも男性よりも女性の方で被害にあっている比率が高い。

7 防災について

(1) 地震や火災に備えてとっている対策

地震や火災に備えてとっている対策を聞いた結果、多かったのは「飲料水や食料を準備している」(56.8%)、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(48.5%)などとなった。

過去の調査と比較すると、「特に何もしていない」以外のすべての項目で前回より比率が高くなり、また、「特に何もしていない」は前回より急激に減少している。

(2) 防災対策として力を入れるべき施策

防災対策として力を入れるべき施策を聞いた結果最も多かったのは、「正確な情報を伝達する体制づくり」(40.0%)であった。次いで、「飲料水、食料などの確保」(20.8%)、「市民の防災・減災意識の高揚」(12.4%)となっている。

(3) 防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度

防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度を聞いた結果最も多かったのは、「防災行政無線（スピーカー放送）」(62.3%)であった。次いで、「防災マップ（配布）」(43.6%)となっている。反対に「音声自動応答サービス」(3.2%)は極端に認知度が低くなっている。

8 禁煙マナーについて

(1) 路上の喫煙防止に係る条例の必要性について

路上の喫煙防止に係る条例の必要性について聞いた結果最も多かったのは、「タバコのポイ捨て防止の啓発や喫煙マナーの指導をすべきだ」(56.7%)であった。次いで、「市で路上喫煙防止の条例を検討すべきだ」(47.5%)、「公共の場所を路上喫煙防止の場所として検討すべきだ」(37.4%)、「全ての路上を路上喫煙防止の場所として検討すべきだ」(30.2%)が続く。

「市で路上喫煙防止の条例を検討すべきではない」は 6.1%と最も低くなっている。

9 景観形成について

(1) 良好な都市景観、都市環境を形成するのに必要なこと

良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なことを聞いた結果最も多かったのは、「緑地の保全」(43.7%)であった。次いで、「建築物の高さ規制の導入」(14.5%)、「並木の創出」(8.1%)、「屋外広告物対策」(5.6%)が続く。

(2) 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方を聞いた結果最も多かったのは、「大変気になる」(38.6%)であった。また、「大変気になる」と「気になる」を合わせた《気になる》は 70%以上となっている。

過去調査と比較すると、前回（平成20年）より、《気になる》は 7.4 ポイント減少した。

(3) 中高層建築物の具体的問題点

中高層建築物の具体的な問題点を聞いた結果最も多かったのは、「日照」(81.1%)であった。次いで、「圧迫感」(52.6%)、「電波障害」(38.7%)、「風害」(32.7%)、「周辺との不調和」(29.0%)となっている。

(4) 建築物の高さ制限の必要性について

建築物の高さ制限の必要性について聞いた結果最も多かったのは、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」(49.5%)であった。次いで、「どちらともいえない」(22.7%)、「わからない」(13.6%)、「現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない」(8.4%)が続く。

過去の調査と比較すると、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」は前回より12.1ポイント減少している。

10 公園・広場・緑地について

(1) 自宅周辺の緑の満足度

自宅周辺の緑の満足度を聞いた結果最も多かったのは、「まあ満足」(34.4%)であった。「満足」と「まあ満足」を合わせた《満足》の回答は44.7%となっている。また、「満足」+「まあ満足」-「やや不満」+「不満」を《自宅周辺の緑の満足度》とすると、《自宅周辺の緑の満足度》は24.7ポイントとなった。

住まいの地域別にみると、《満足》の回答は、緑ヶ丘、新田宿・四ツ谷、入谷・明王、座間、立野台で比較的高く、反対に相模が丘、ひばりが丘、栗原中央・西栗原・南栗原、相武台・栗原・広野台、小松原で比較的低くなっており、座間市の西部と東部で比率に差がみられる。

11 資源循環社会について

(1) ごみの減量化や資源化を推進していくうえで力を入れていくべき施策

ごみの減量化や資源化を推進していくうえで力を入れていくべき施策を聞いた結果最も多かったのは、「生ごみの減量化、資源化対策」(37.2%)であった。次いで、「レジ袋や食品ロスの削減など事業者と連携した取組の推進」(26.9%)、「分別品目の拡充」(24.9%)、「周知、啓発活動の推進」(24.8%)となっている。

12 自由時間（余暇）について

(1) 自由時間（余暇）を過ごすために必要な施策・施設

自由時間（余暇）を過ごすために必要な施策・施設を聞いた結果最も多かったのは、「趣味・教養講座の開催」(34.8%)であった。次いで、「スポーツ施設の整備」(30.8%)、「公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供」(25.5%)、「市民農園の整備」(15.7%)、「スポーツ教室やレクリエーション教室の開催」(15.6%)となっている。

13 環境問題について

(1) 一番気になる環境問題

一番気になる環境問題を聞いた結果最も多かったのは、「航空機騒音」(75.1%)であった。次いで、「地下水の保全」(38.6%)、「不法投棄」(31.3%)となっている。

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「航空機騒音」は、すべての地域で1位となっており、栗原中央・西栗原・南栗原が最も高く9割を超えた。

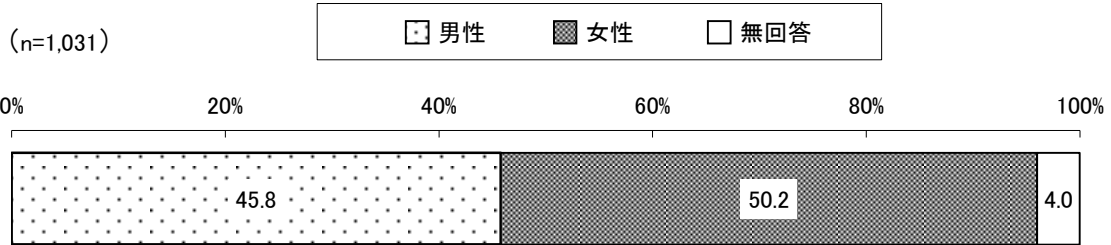
(2) 環境に配慮した取組みを行ったかどうか

最近1～2年の間に、環境に配慮した取組みを行ったかどうかを聞いた結果、「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいる」を合わせた《取組みを行った》とする回答が最も多かった項目は、「ごみの減量化やリサイクル活動」で、7割を超えた。

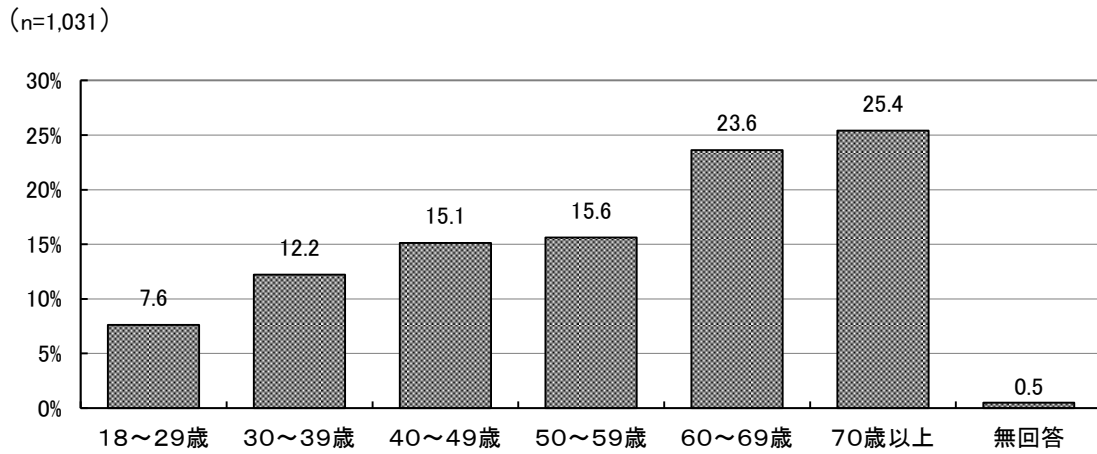
Ⅲ 調査結果

1 回答者の属性

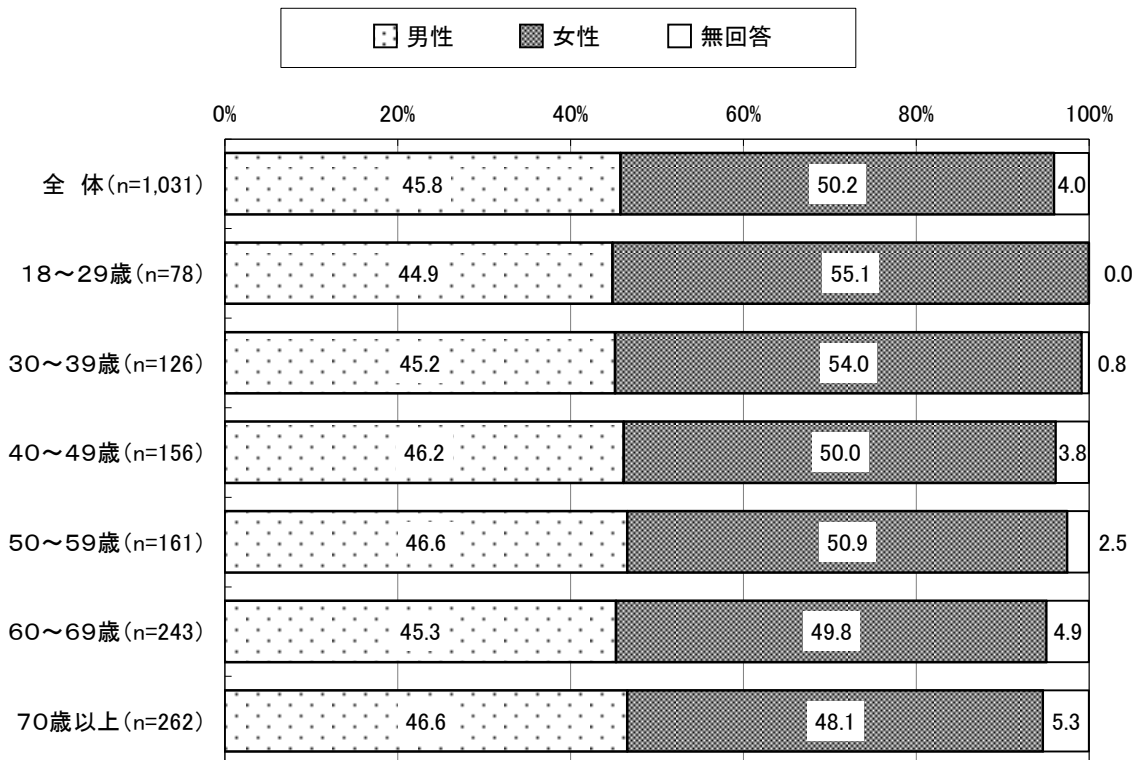
(1) 性別



(2) 年齢

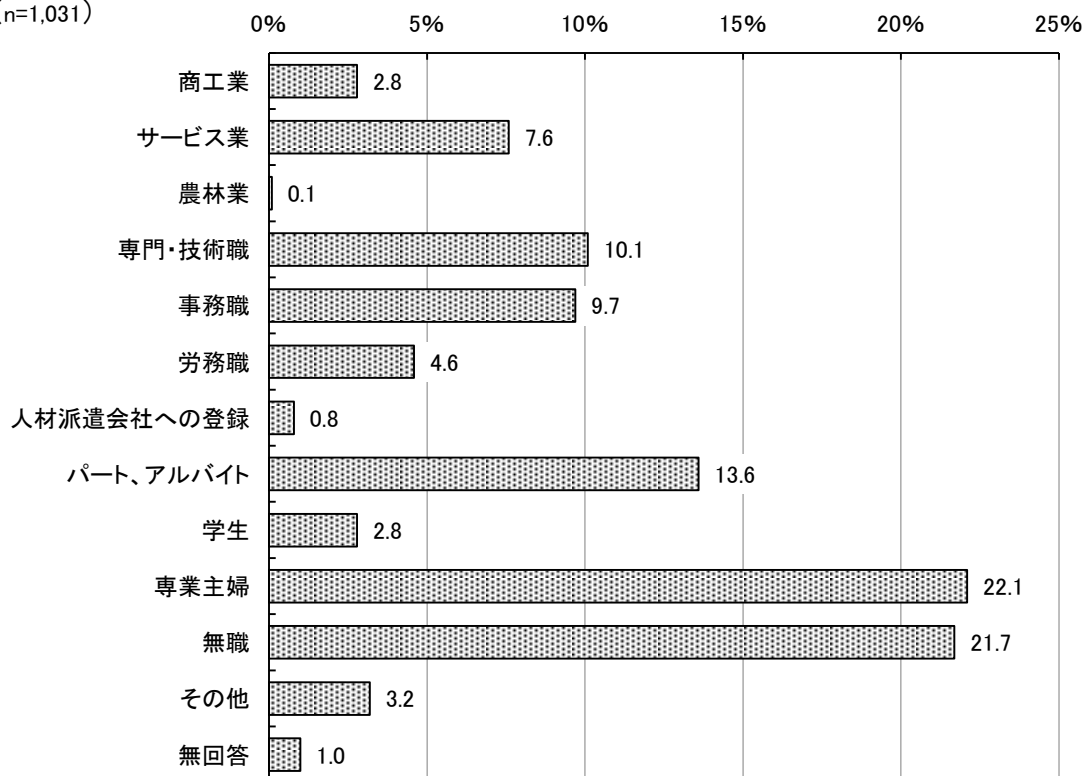


【年齢別】性別



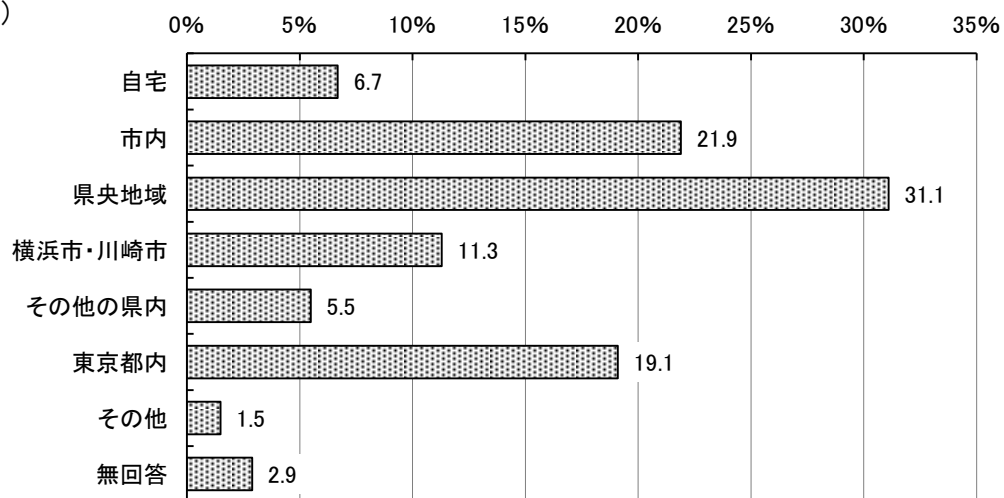
(3) 職業

(n=1,031)



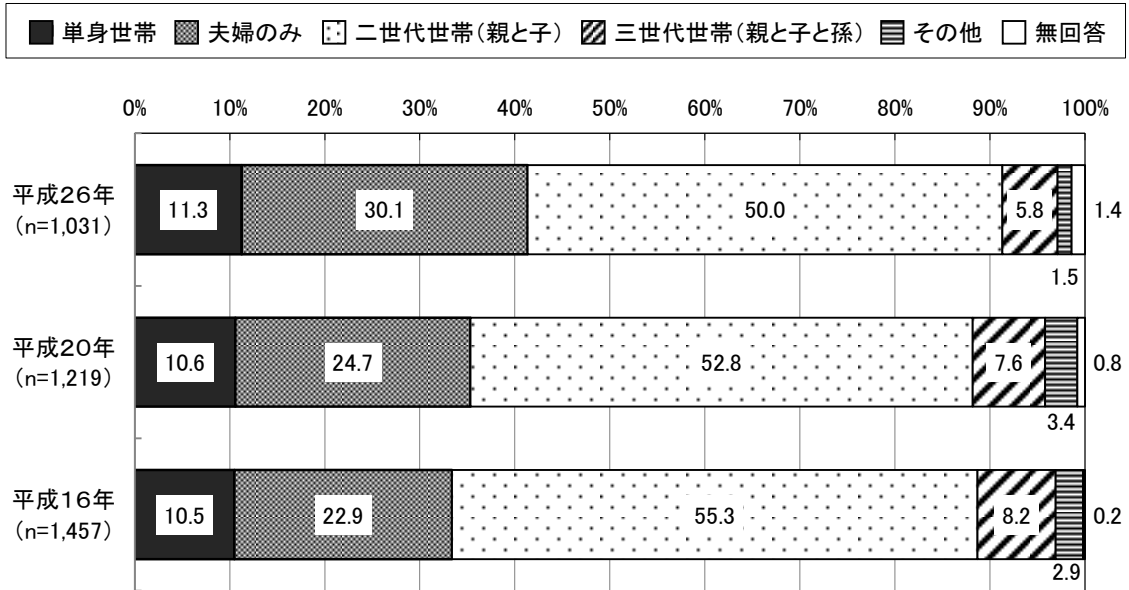
(4) 勤務地（通学地）

(n=1,031)

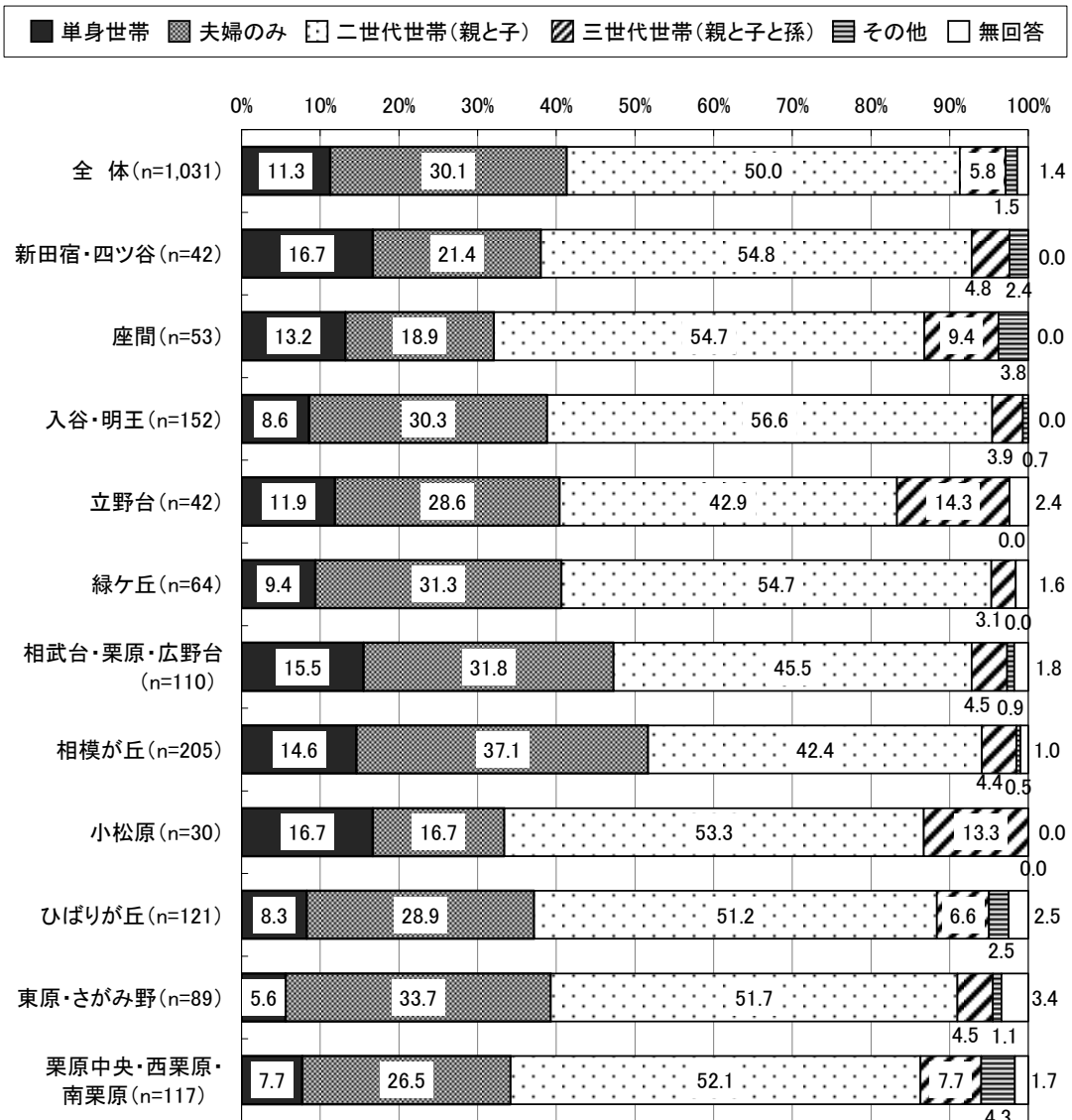


※県央地域(相模原市・厚木市・大和市・海老名市・綾瀬市・愛川町・清川町)

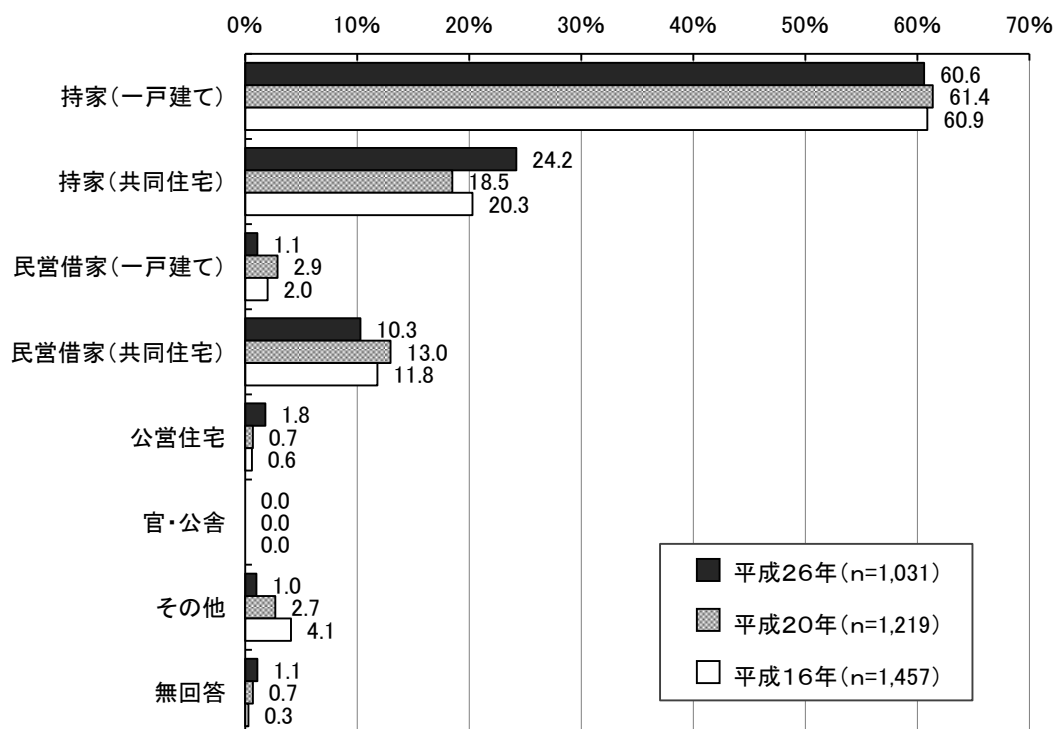
(5) 家族構成



【住まいの地域別】 家族構成



(6) 住まいの形態



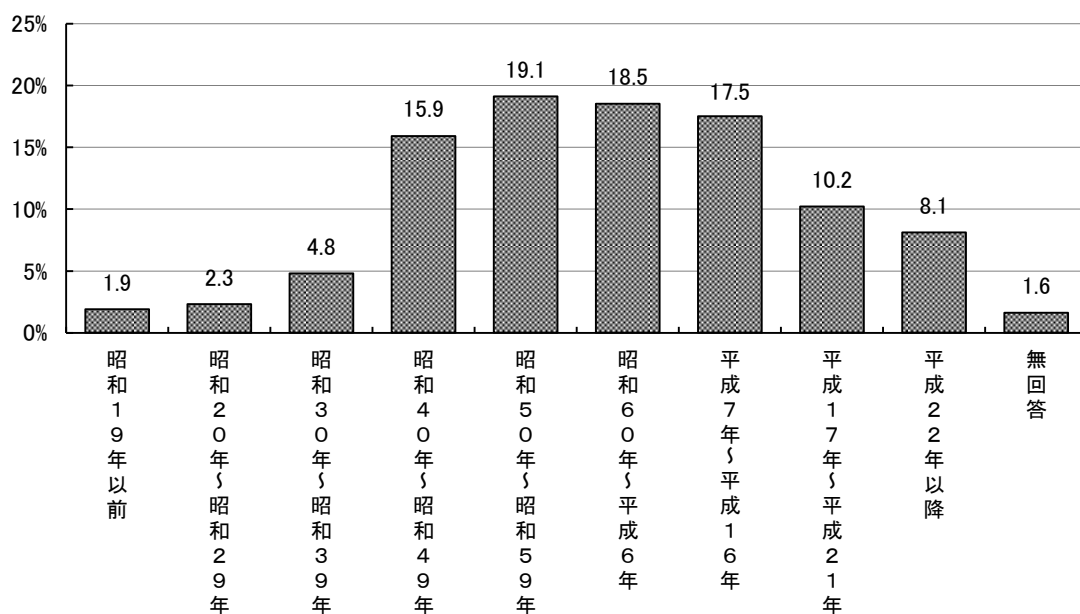
※平成20年調査まで調査項目であった「公社・公団の共同住宅」は、平成26年調査より削除されたため、過去データ分は「その他」へ分類している。

【住まいの地域別】住まいの形態

	%	全 体 【実 数 】	持 家 (一 戸 建 て)	持 家 (共 同 住 宅)	民 営 借 家 (一 戸 建 て)	民 営 借 家 (共 同 住 宅)	公 営 住 宅	官 ・ 公 舎	そ の 他	無 回 答
全 体		1,031	60.6	24.2	1.1	10.3	1.8	-	1.0	1.1
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	42	88.1	2.4	-	7.1	-	-	2.4	-
	座間	53	73.6	7.5	3.8	7.5	3.8	-	1.9	1.9
	入谷・明王	152	57.9	34.2	0.7	5.3	1.3	-	-	0.7
	立野台	42	92.9	-	-	4.8	2.4	-	-	-
	緑ヶ丘	64	73.4	7.8	3.1	14.1	-	-	-	1.6
	相武台・栗原・広野台	110	46.4	31.8	-	18.2	1.8	-	-	1.8
	相模が丘	205	47.8	36.1	0.5	12.7	0.5	-	2.0	0.5
	小松原	30	50.0	33.3	-	13.3	-	-	3.3	-
	ひばりが丘	121	65.3	22.3	-	8.3	2.5	-	-	1.7
	東原・さがみ野	89	44.9	31.5	1.1	10.1	9.0	-	1.1	2.2
	栗原中央・西栗原・南栗原	117	76.1	8.5	3.4	9.4	-	-	1.7	0.9
無回答		6	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-

(7) 在住年数

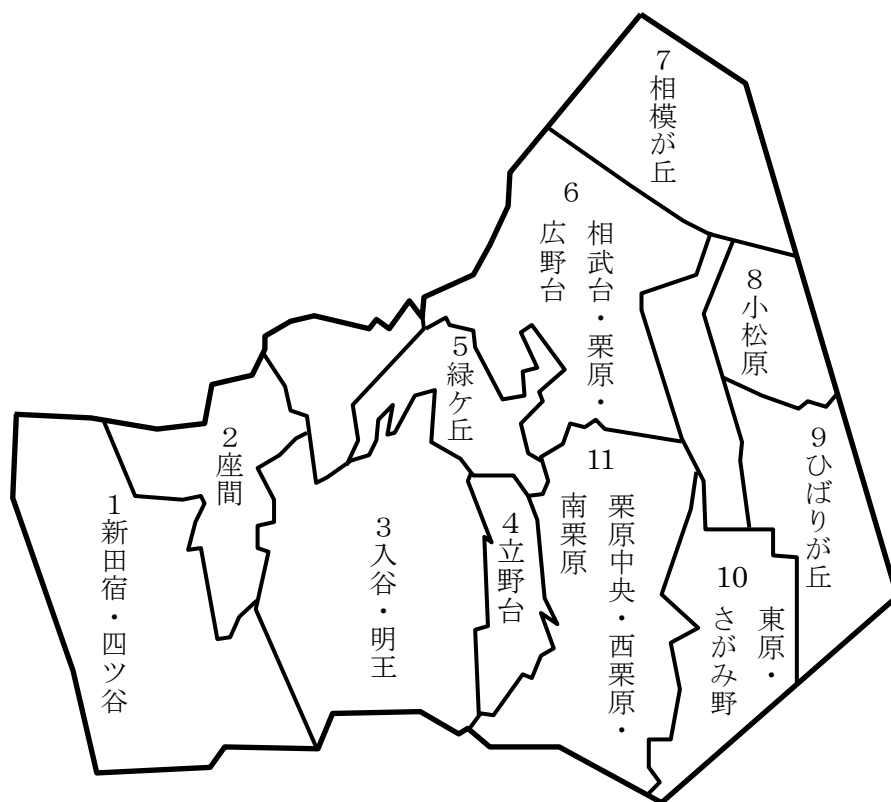
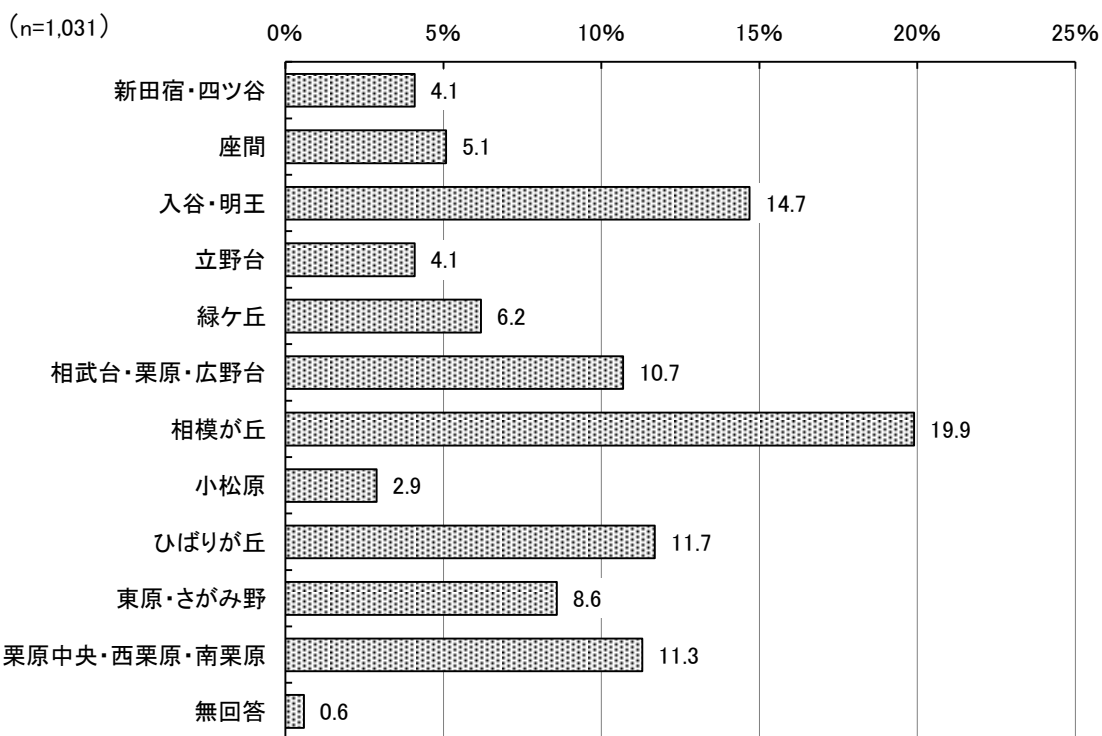
(n=1,031)



【住まいの地域別】在住年数

	%	全 体 【実数】	昭	昭	昭	昭	昭	昭	平	平	平	無 回 答
			和 1 9 年 以 前	和 2 0 年 ～ 昭 和 2 9 年	和 3 0 年 ～ 昭 和 3 9 年	和 4 0 年 ～ 昭 和 4 9 年	和 5 0 年 ～ 昭 和 5 9 年	和 6 0 年 ～ 平 成 6 年	成 7 年 ～ 平 成 1 6 年	成 1 7 年 ～ 平 成 2 1 年	成 2 2 年 以 降	
全 体		1,031	1.9	2.3	4.8	15.9	19.1	18.5	17.5	10.2	8.1	1.6
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	42	2.4	4.8	4.8	7.1	21.4	26.2	11.9	9.5	11.9	-
	座間	53	3.8	9.4	5.7	9.4	15.1	22.6	13.2	7.5	9.4	3.8
	入谷・明王	152	2.0	4.6	4.6	10.5	29.6	19.1	13.2	11.2	4.6	0.7
	立野台	42	-	2.4	14.3	14.3	31.0	9.5	19.0	7.1	2.4	-
	緑ヶ丘	64	1.6	-	4.7	28.1	12.5	14.1	21.9	14.1	3.1	-
	相武台・栗原・広野台	110	1.8	-	4.5	15.5	13.6	15.5	18.2	11.8	18.2	0.9
	相模が丘	205	1.0	2.4	3.9	16.6	13.2	16.6	23.9	10.2	11.7	0.5
	小松原	30	3.3	6.7	-	13.3	26.7	20.0	10.0	10.0	10.0	-
	ひばりが丘	121	0.8	-	3.3	22.3	19.0	19.0	18.2	8.3	6.6	2.5
	東原・さがみ野	89	3.4	1.1	6.7	12.4	13.5	24.7	12.4	18.0	5.6	2.2
	栗原中央・西栗原・南栗原	117	3.4	0.9	5.1	19.7	24.8	20.5	17.1	4.3	3.4	0.9
	無回答	6	-	-	-	-	-	-	16.7	-	-	83.3

(8) 住まいの地域

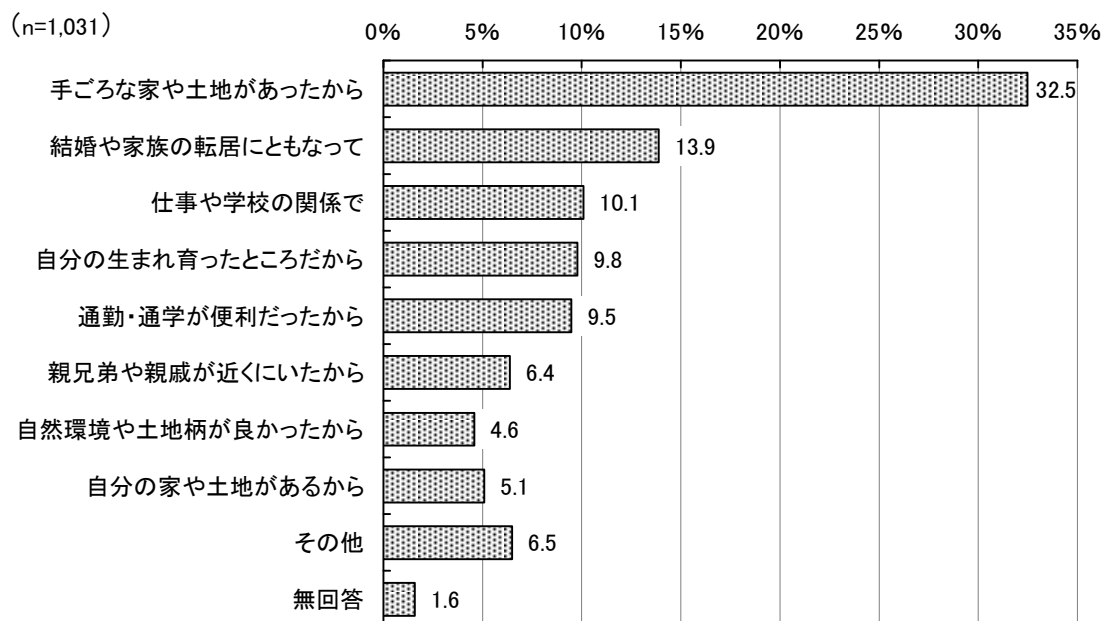


2 生活環境について

(1) 座間市に住んだ理由

問9 あなたが座間市にお住まいになった主な理由は何ですか。
【1つだけ選んでください。】

座間市に住んだ理由を聞いた結果、最も多かったのは、「手ごろな家や土地があったから」(32.5%)であった。次いで、「結婚や家族の転居にともなって」(13.9%)、「仕事や学校の関係で」(10.1%)、「自分の生まれ育ったところだから」(9.8%)が続く。

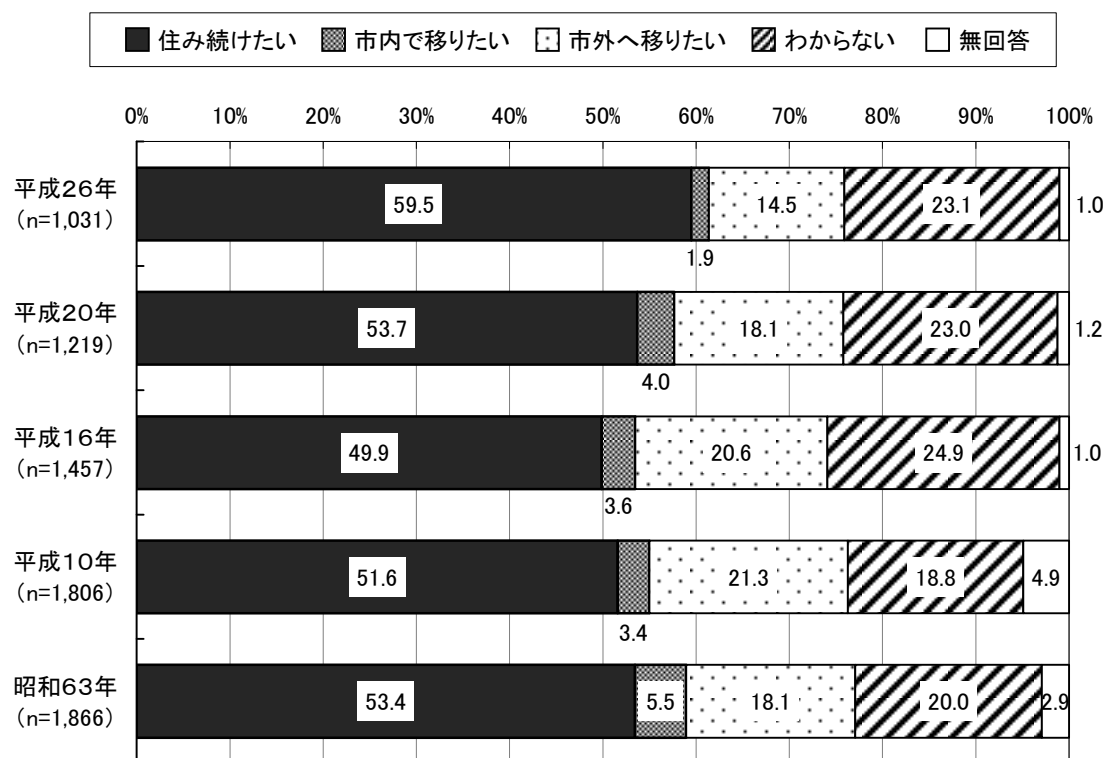


(2) 定住意識

問10 あなたは、これからも今の場所に住み続けたいと思いますか。それとも他へ移りたいと思いますか。【1つだけ選んでください】

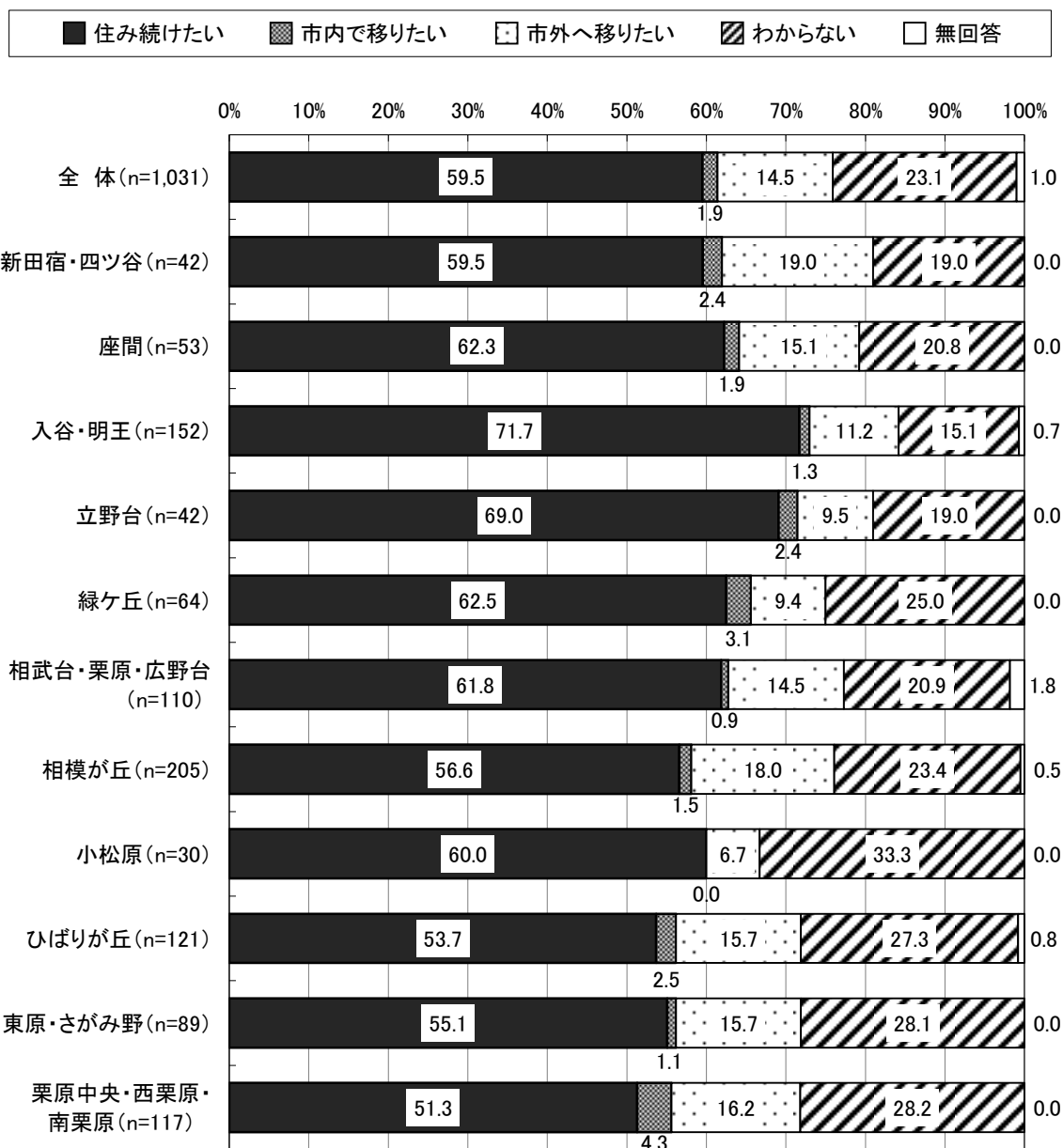
これからも今の場所に住み続けたいかを聞いた結果、最も多かったのは、「住み続けたい」(59.5%)であった。次いで、「わからない」(23.1%)、「市外へ移りたい」(14.5%)、「市内で移りたい」(1.9%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「住み続けたい」は前回(平成20年)の調査より5.8ポイント増え、引き続き増加傾向がみられる。また、「市内で移りたい」は2.1ポイント、「市外へ移りたい」は3.6ポイントの減少となっている。



【住まいの地域別】定住意識

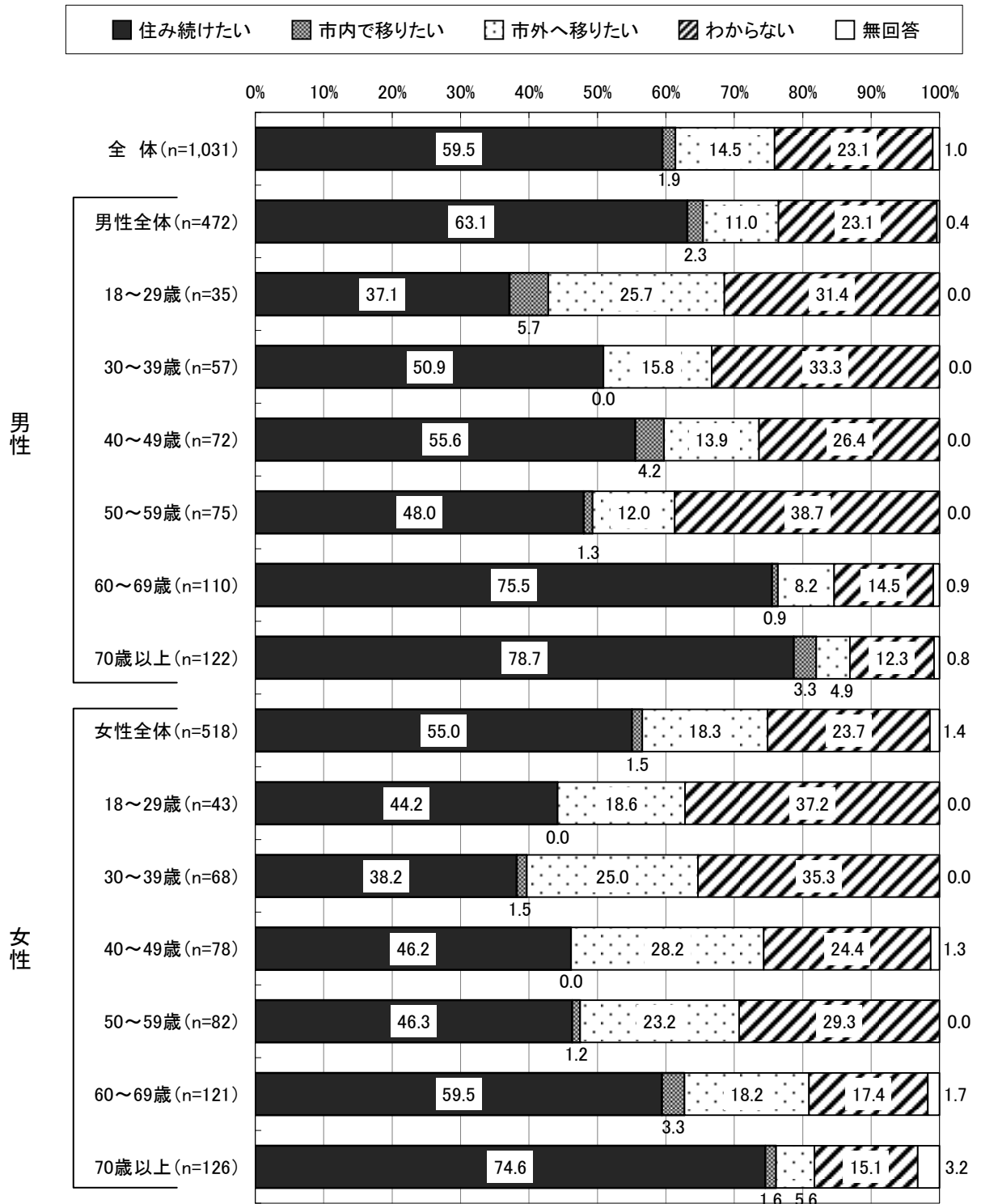
住まいの地域別にみると、「住み続けたい」の比率が高い地域は入谷・明王で、70%以上の比率であった。最も低い比率の栗原中央・西栗原・南栗原でも51.3%であり、11地域すべてで5割を超える結果となった。



【性別・年齢別】定住意識

性別・年齢別にみると、男女とも60歳代と70歳以上で「住み続けたい」比率が高く、高齢になると定住意向が高まる傾向がみられる。

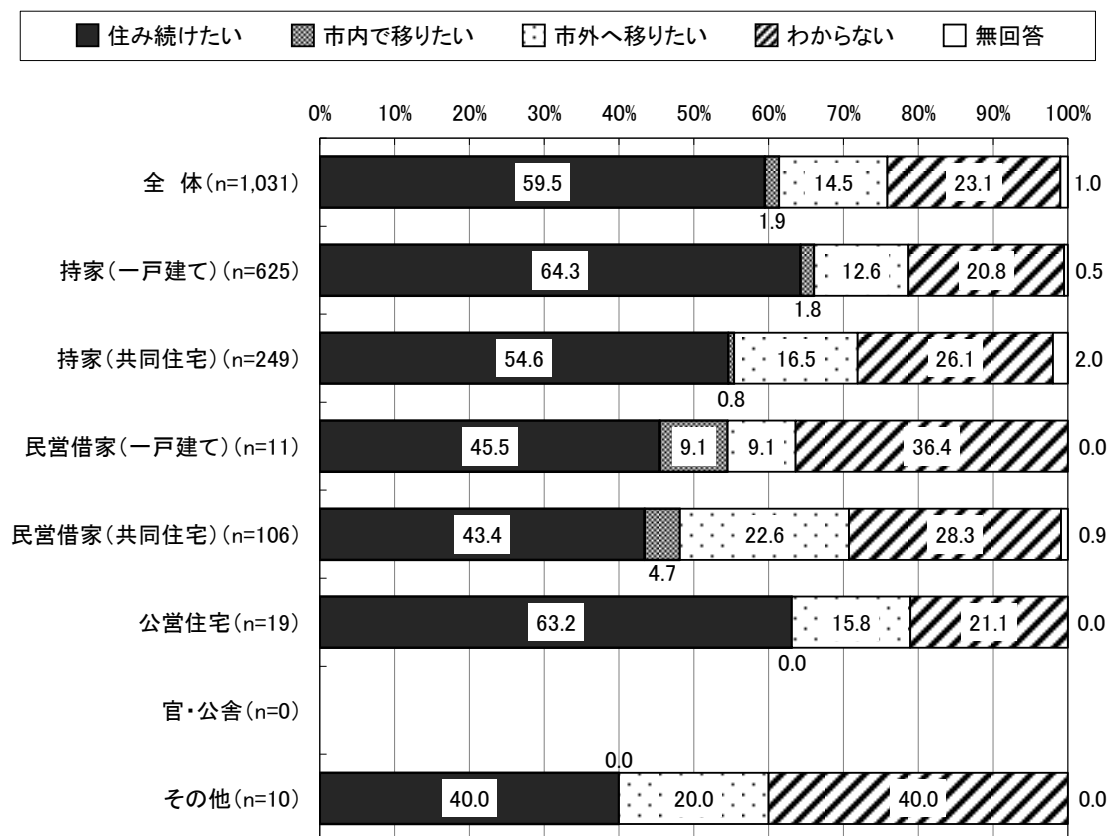
「住み続けたい」比率を男性と女性で比べると、18～29歳以外のすべての年代で、女性が男性を下回っており、男性に比べて女性の定住意向が低い傾向がみられる。



【住まいの形態別】定住意識

住まいの形態別にみると、持家の方が民営借家よりも「住み続けたい」の比率が高く、定住意識が高い傾向がみられる。また、持家、民営借家ともに、一戸建ての方が共同住宅よりも「住み続けたい」の比率が高く、定住意識が高い傾向がみられる。

※ただし、「民営借家(一戸建て)」と「公営住宅」はサンプル数が少ないため、極端な結果になりやすいことに留意する必要がある。



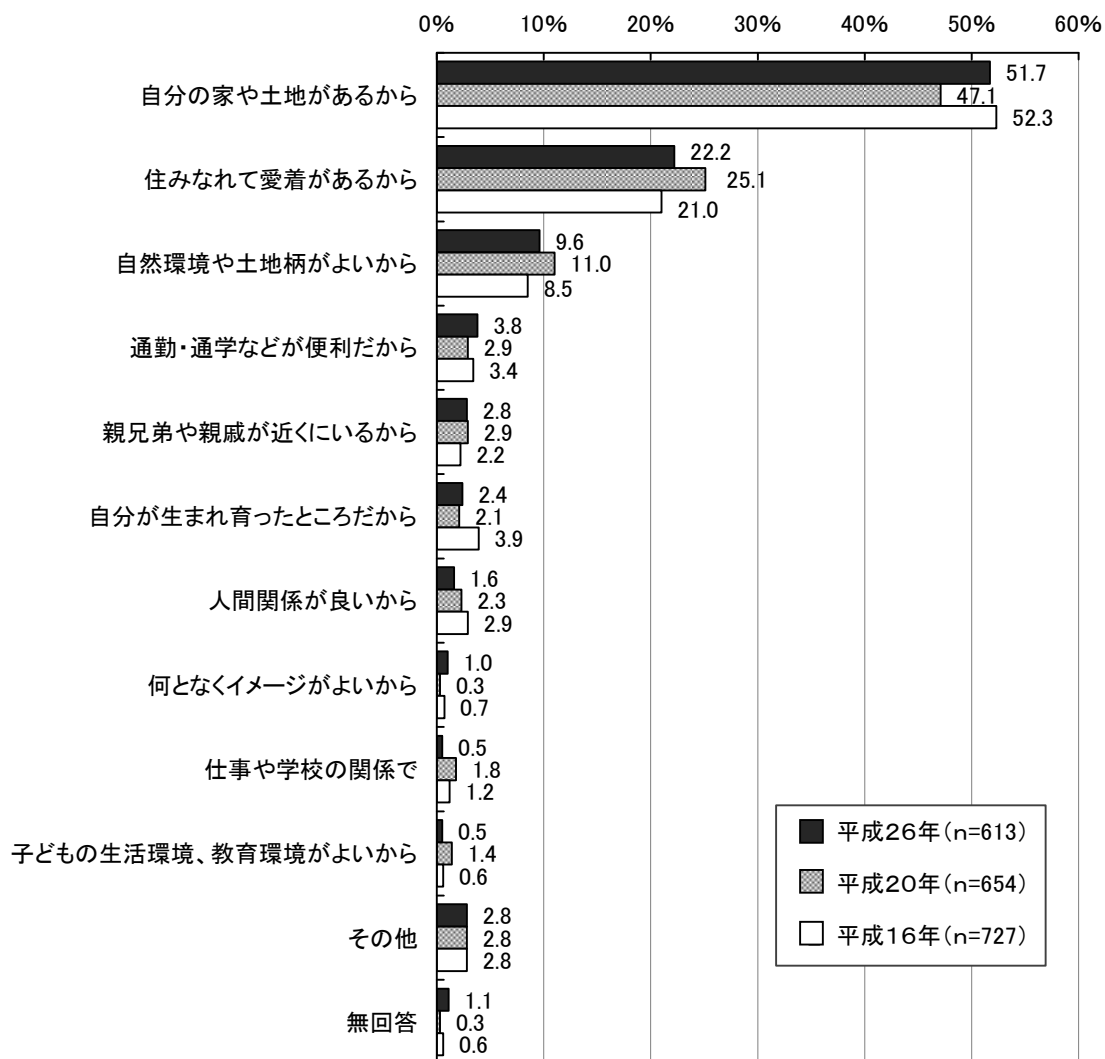
(3) 今の場所に住み続けたい理由

問11 問10で「1.住み続けたい」とお答えの方にお伺いします。今の場所に住み続けたい理由は何ですか。【1つだけ選んでください】

今の場所に住み続けたい理由を聞いた結果、最も多かったのは、「自分の家や土地があるから」(51.7%)であった。次いで、「住みなれて愛着があるから」(22.2%)、「自然環境や土地柄がよいから」(9.6%)、「通勤・通学などが便利だから」(3.8%)、「親兄弟や親戚が近くにいるから」(2.8%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「自分の家や土地があるから」の比率は前回(平成20年)より高まり、前々回(平成16年)とほぼ同じ水準となった。また、「住みなれて愛着があるから」と「自然環境や土地柄がよいから」は前回よりもやや低い比率となっている。

「人間関係が良いから」は年々比率が低くなっていく傾向がみられる。



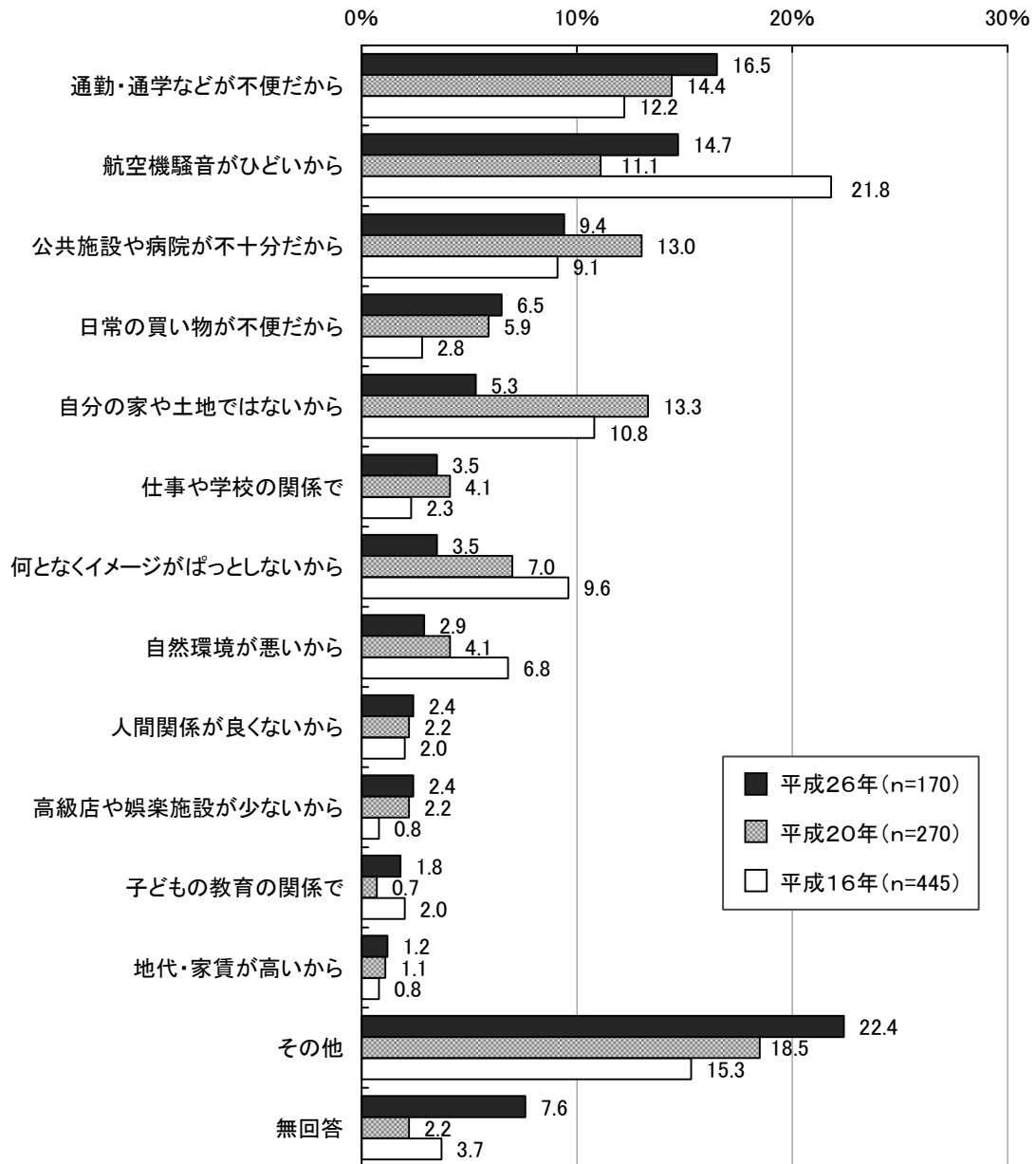
(4) 他のところに移りたい主な理由

問12 問10で「2.市内で移りたい」または「3.市外へ移りたい」とお答えの方にお伺いします。他のところに移りたい主な理由は何ですか。
【1つだけ選んでください】

他のところに移りたい主な理由を聞いた結果、最も多かったのは「通勤・通学などが不便だから」(16.5%)であった。次いで、「航空機騒音がひどいから」(14.7%)、「公共施設や病院が不十分だから」(9.4%)、「日常の買い物が不便だから」(6.5%)、「自分の家や土地ではないから」(5.3%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「通勤・通学などが不便だから」、「日常の買い物が不便だから」、「人間関係が良くないから」、「高級店や娯楽施設が少ないから」、「地代・家賃が高いから」は年々増加する傾向にある。反対に、「なんとなくイメージがぱっとしないから」、「自然環境が悪いから」は減少傾向にある。

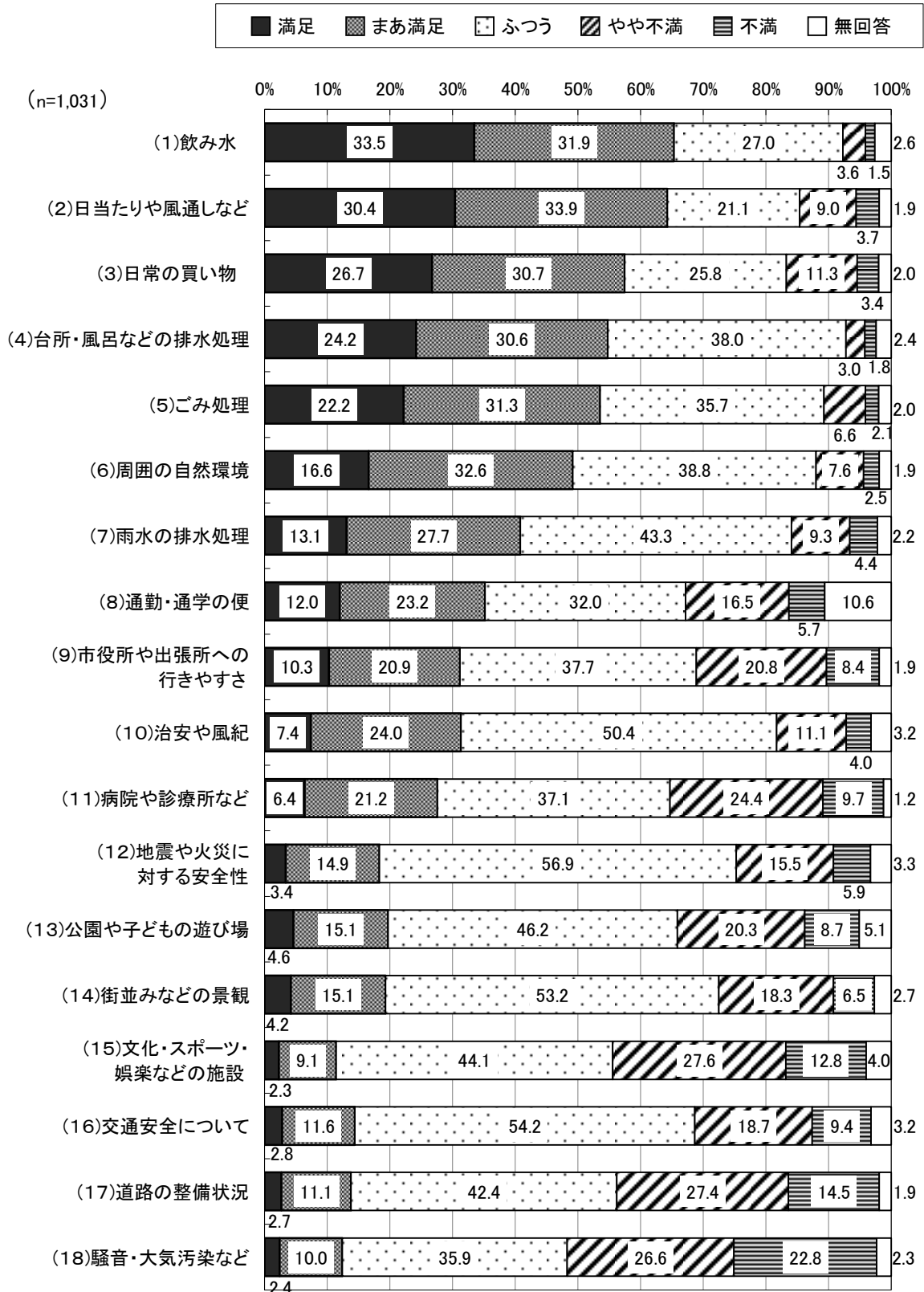
また、前々回(平成16年)最も比率が高かった「航空機騒音がひどいから」は、前回(平成20年)で低下したものの、今回(平成26年)で再び高くなっている。



(5) 住まいの周辺環境についての満足度

周辺環境を下記の18項目について評価してもらった結果、「満足」+「まあ満足」-（「やや不満」+「不満」）の比率を《住まいの周辺環境についての満足度》とすると、30ポイントを超える評価だった項目は、評価が高い順に「(1) 飲み水」、「(2) 日当たりや風通しなど」、「(4) 台所・風呂などの排水処理」、「(5) ごみ処理」、「(3) 日常の買い物」、「(6) 周囲の自然環境」の6項目であった。

反対に-30ポイントを下回る評価だった項目は、「(18) 騒音・大気汚染など」の1項目であった。

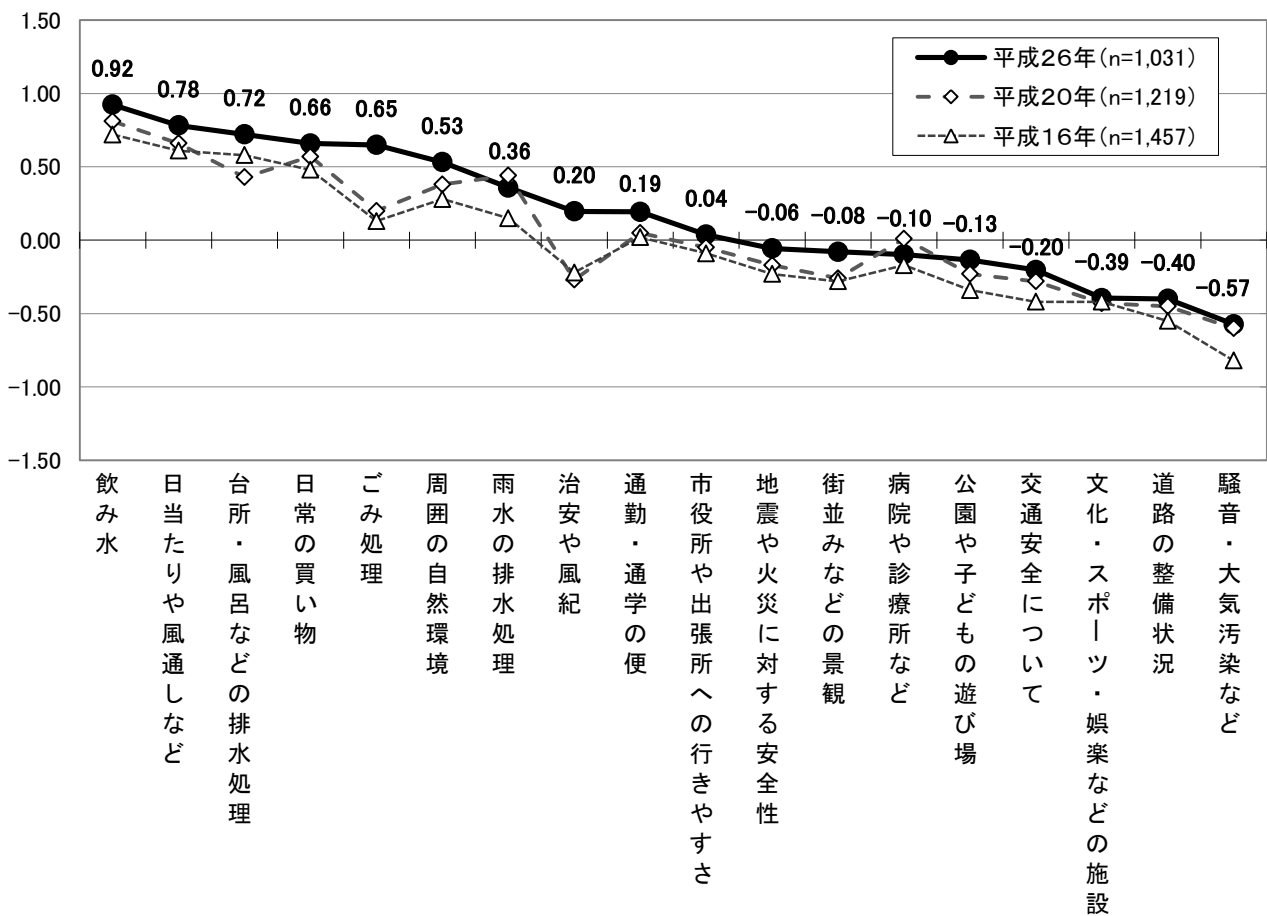


周辺環境を下の評価(加重平均)によって平均点を算出し、今回(平成26年)の調査で平均点の高い順に左から並べて過去の調査と比較したものが下のグラフと表である。

$$\text{平均点} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあ満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

今回(平成26年)の調査で平均点が高かった項目は、「飲み水」、「日当たりや風通しなど」、「台所・風呂などの排水処理」などで、低かった項目は、「騒音・大気汚染など」、「道路の整備状況」、「文化・スポーツ・娯楽などの施設」などであった。

過去の調査結果と平均点を比較すると、ほとんどの項目で今回が最も高くなっており、とくに「ごみ処理」と「治安や風紀」の上昇が目立つ。過去より平均点が低くなったものは、「雨水の排水処理」、「病院や診療所など」の2項目であった。

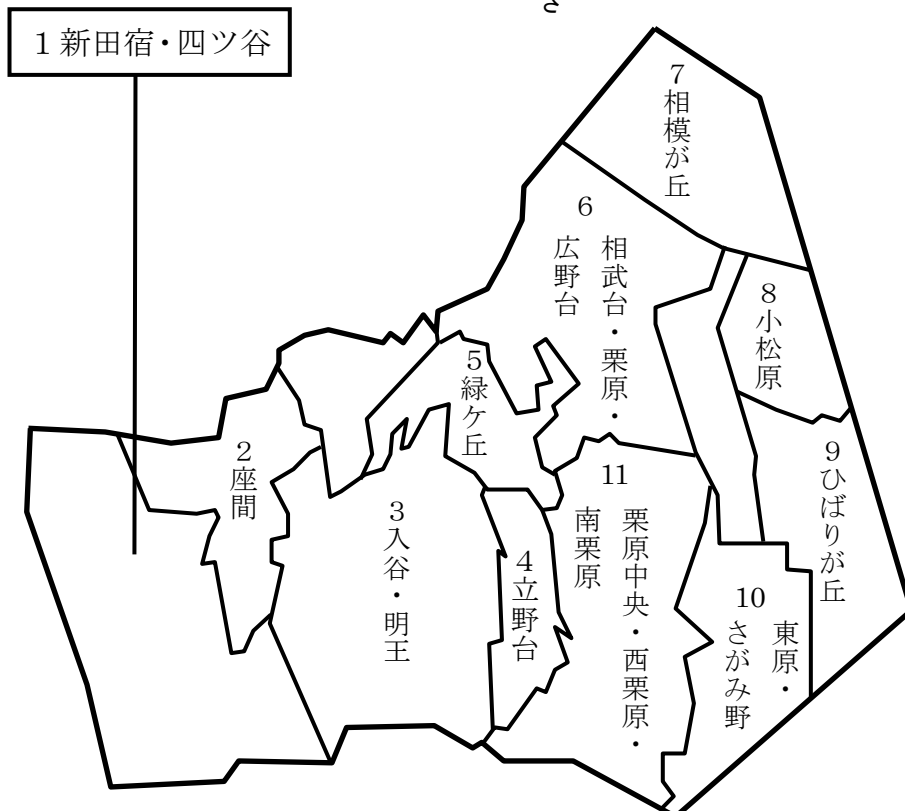
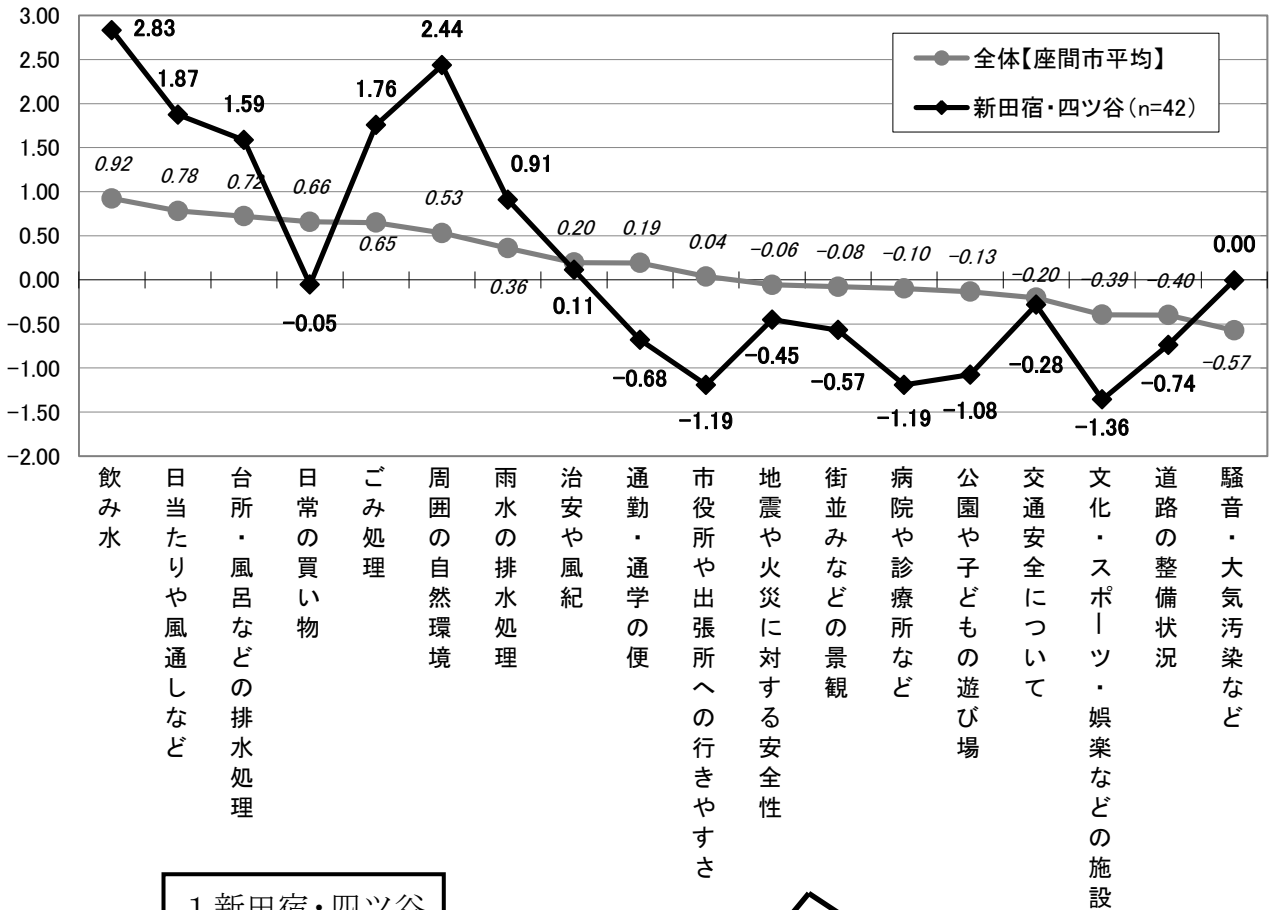


調査項目	飲み水	日当たりや風通しなど	台所・風呂などの排水処理	日常の買い物	ごみ処理	周囲の自然環境	雨水の排水処理	治安や風紀	通勤・通学の便	市役所や出張所への行きやすさ	地震や火災に対する安全性	街並みなどの景観	病院や診療所など	公園や子どもの遊び場	交通安全について	文化・スポーツ・娯楽などの施設	道路の整備状況	騒音・大気汚染など
平成26年 (n=1,031)	0.92	0.78	0.72	0.66	0.65	0.53	0.36	0.20	0.19	0.04	-0.06	-0.08	-0.10	-0.13	-0.20	-0.39	-0.40	-0.57
平成20年 (n=1,219)	0.81	0.66	0.43	0.57	0.20	0.38	0.44	-0.27	0.05	-0.05	-0.17	-0.26	0.01	-0.23	-0.28	-0.43	-0.45	-0.60
平成16年 (n=1,457)	0.72	0.61	0.58	0.48	0.13	0.28	0.15	-0.22	0.02	-0.09	-0.23	-0.28	-0.17	-0.34	-0.42	-0.42	-0.55	-0.82

今回(平成26年)の調査の平均点を各住まいの地域(11地域)別にみると、以下のようになる。

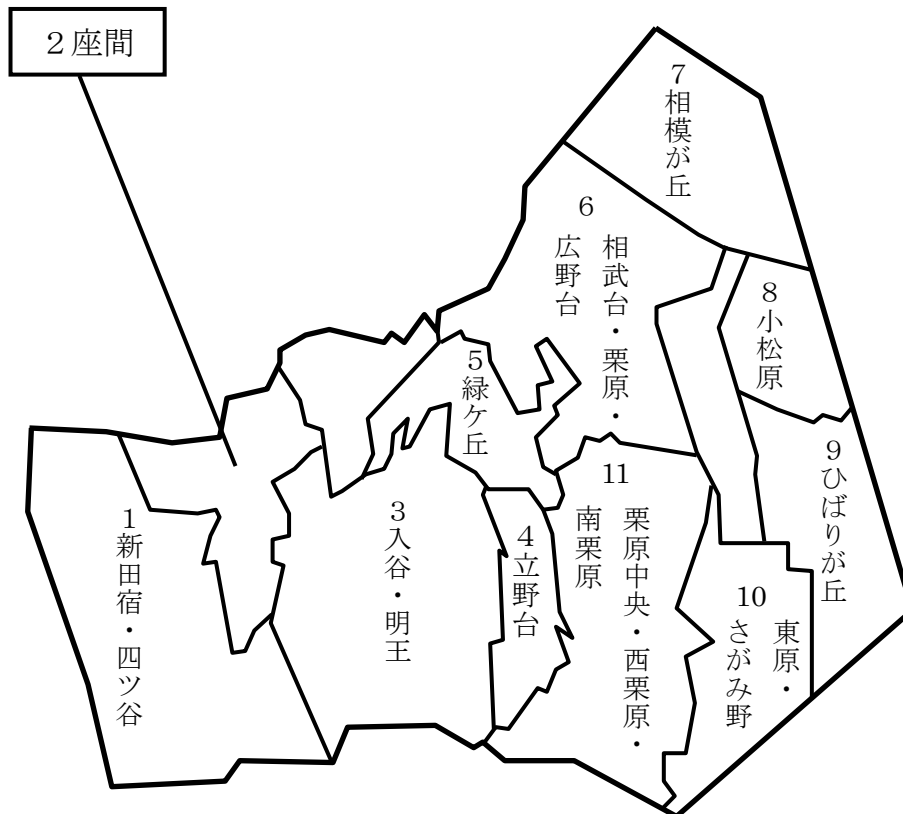
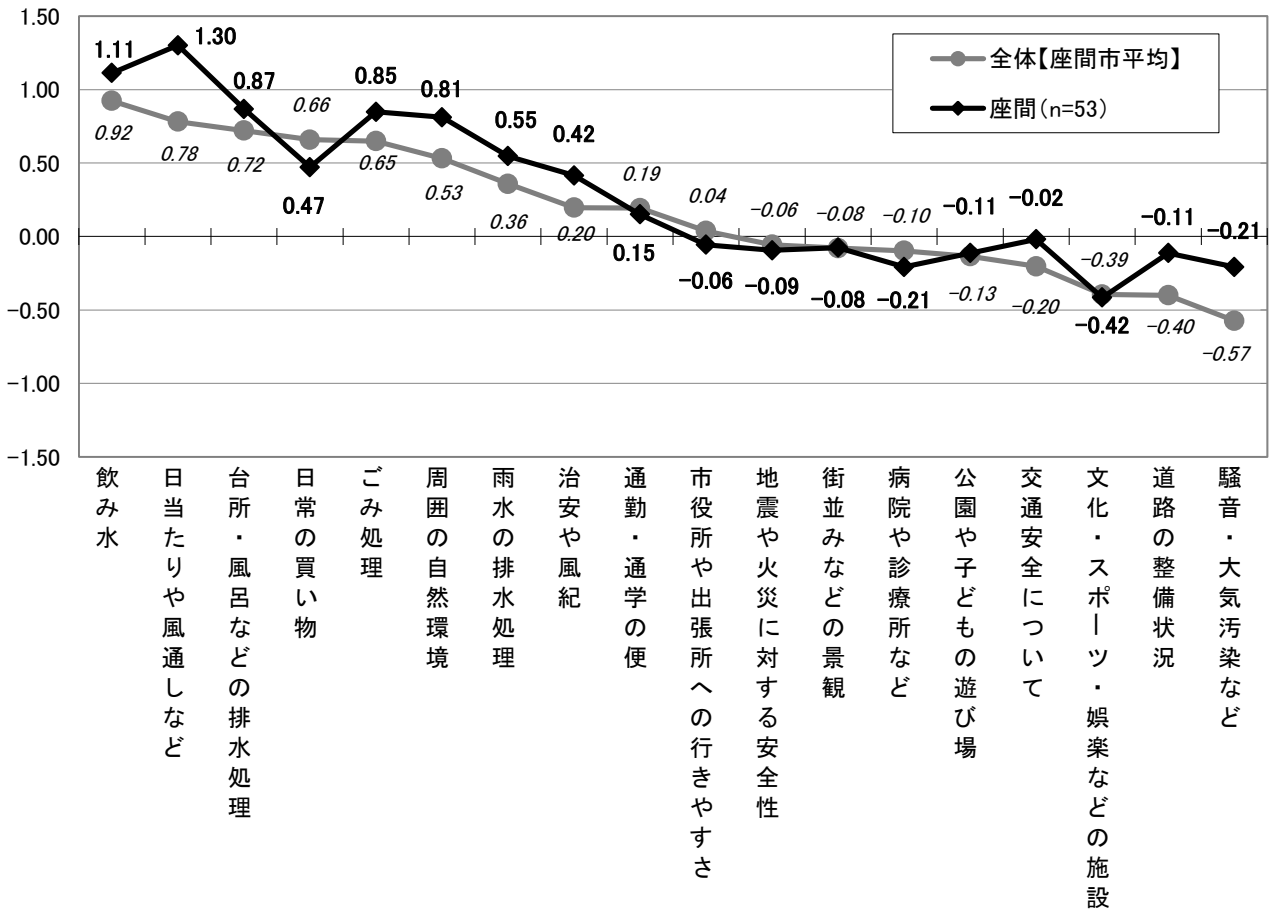
【新田宿・四ツ谷地区】

新田宿・四ツ谷地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「飲み水」、「周囲の自然環境」、「ごみ処理」、「日当たりや風通しなど」などで、評価が低かったのは「市役所や出張所への行きやすさ」、「病院や診療所など」などであった。



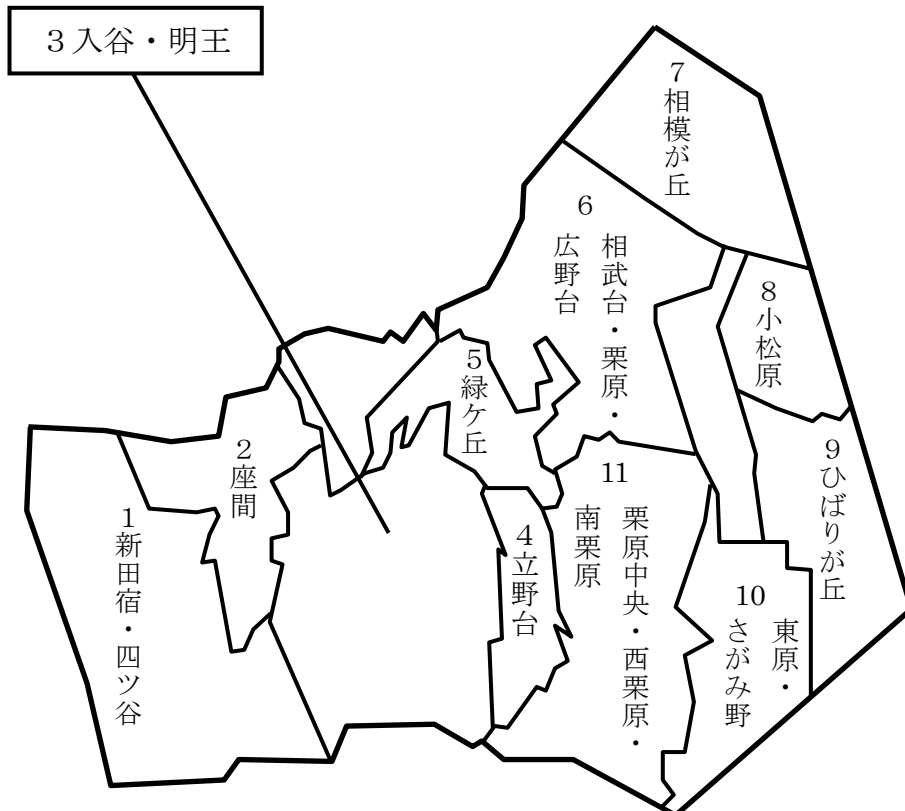
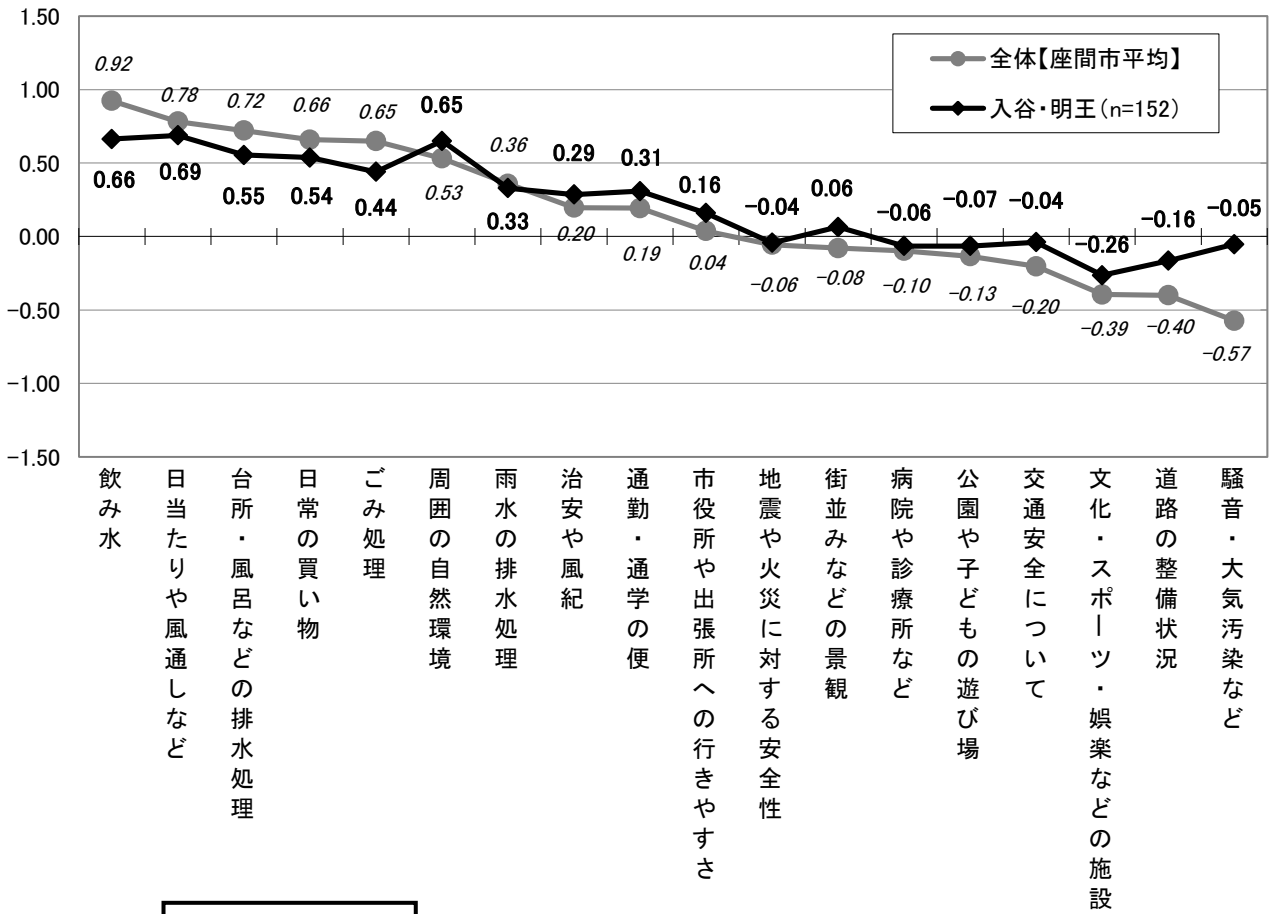
【座間地区】

座間地域で全体より比較的评价が高かった項目は、「日当たりや風通しなど」、「騒音・大気汚染など」などで、評価が低かったのは「日常の買い物」、「病院や診療所など」であった。



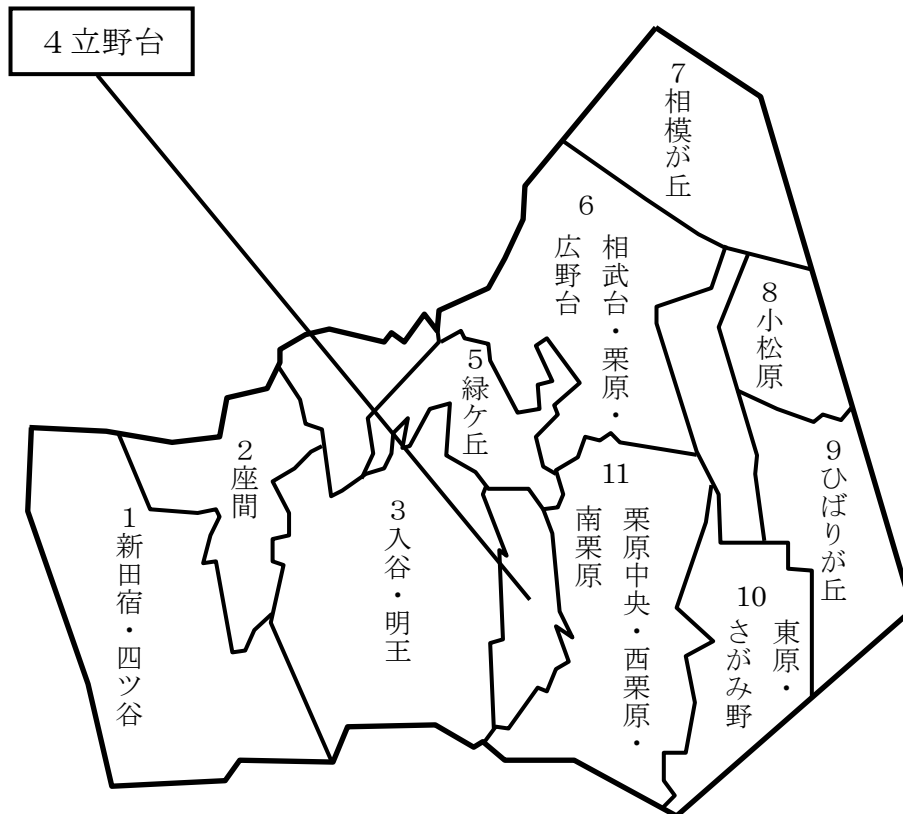
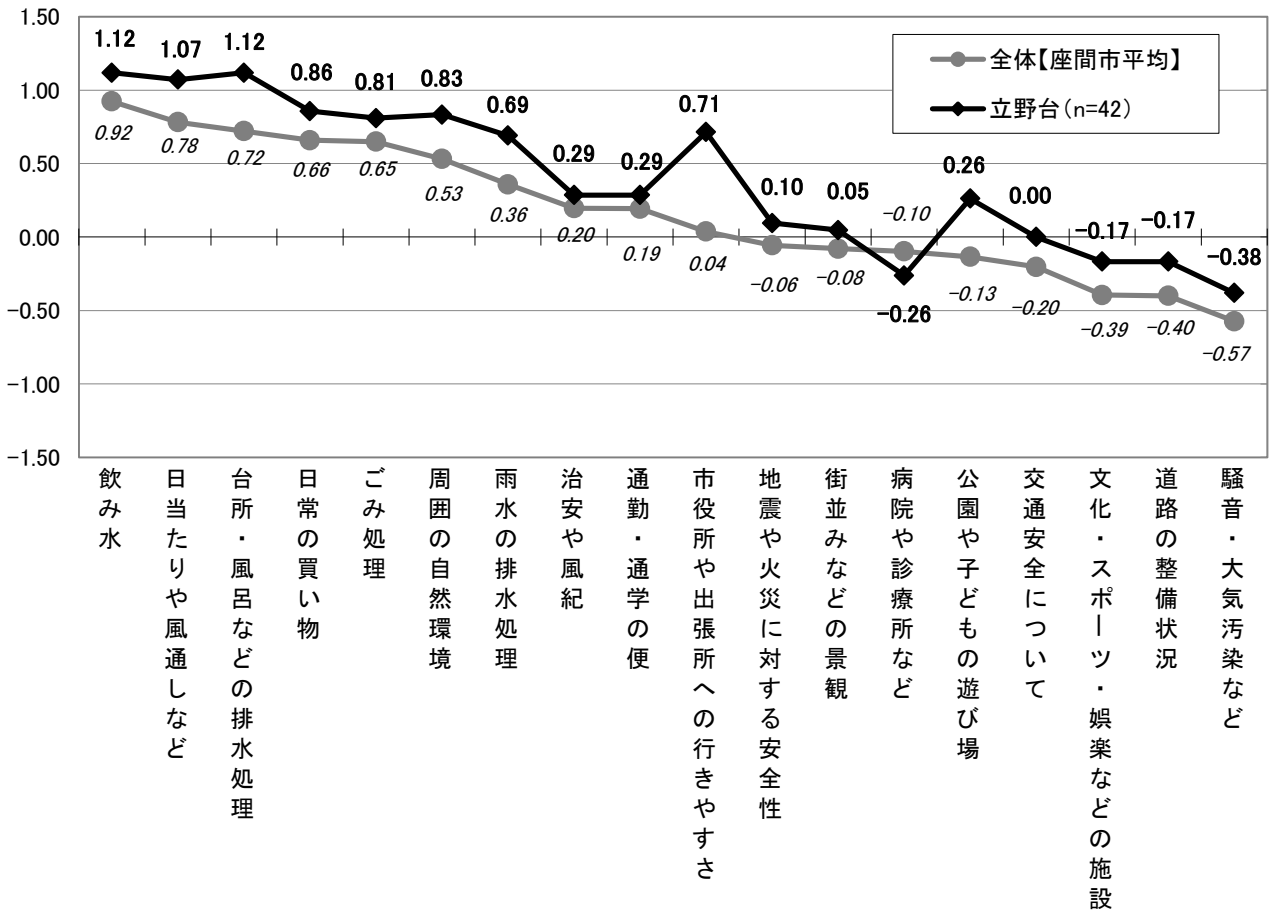
【入谷・明王地区】

入谷・明王地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「騒音・大気汚染など」、「道路の整備状況」などで、評価が低かったのは「飲み水」、「ごみ処理」などであった。



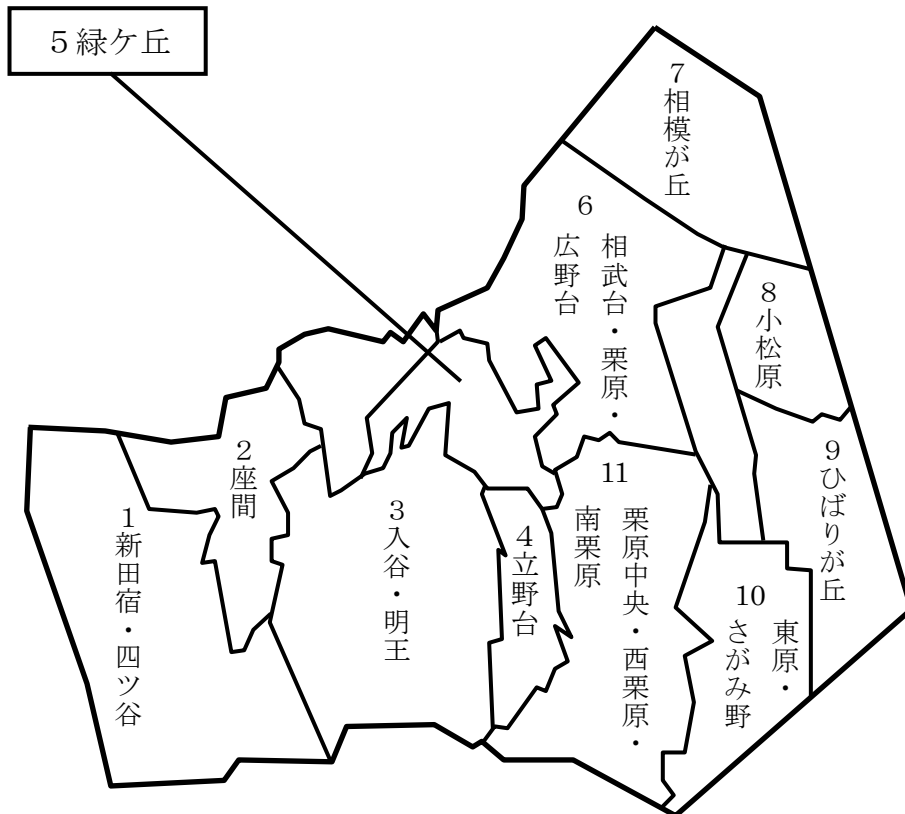
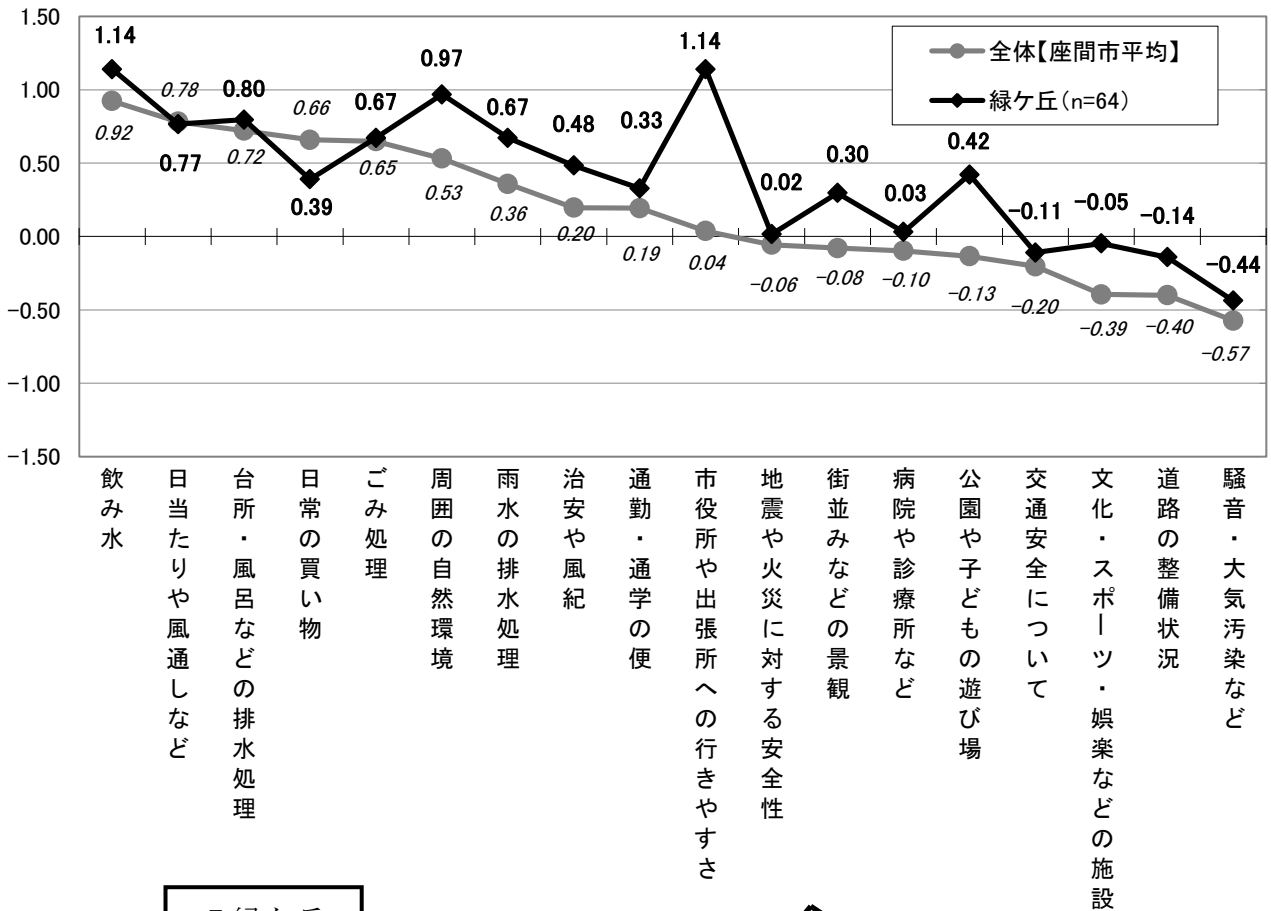
【立野台地区】

立野台地域では、18項目中17項目で全体より評価が高く、評価が低かったのは「病院や診療所など」のみであった。高かった項目の中でも、特に「市役所や出張所への行きやすさ」、「台所・風呂などの排水処理」、「公園や子どもの遊び場」などの高さが目立つ。



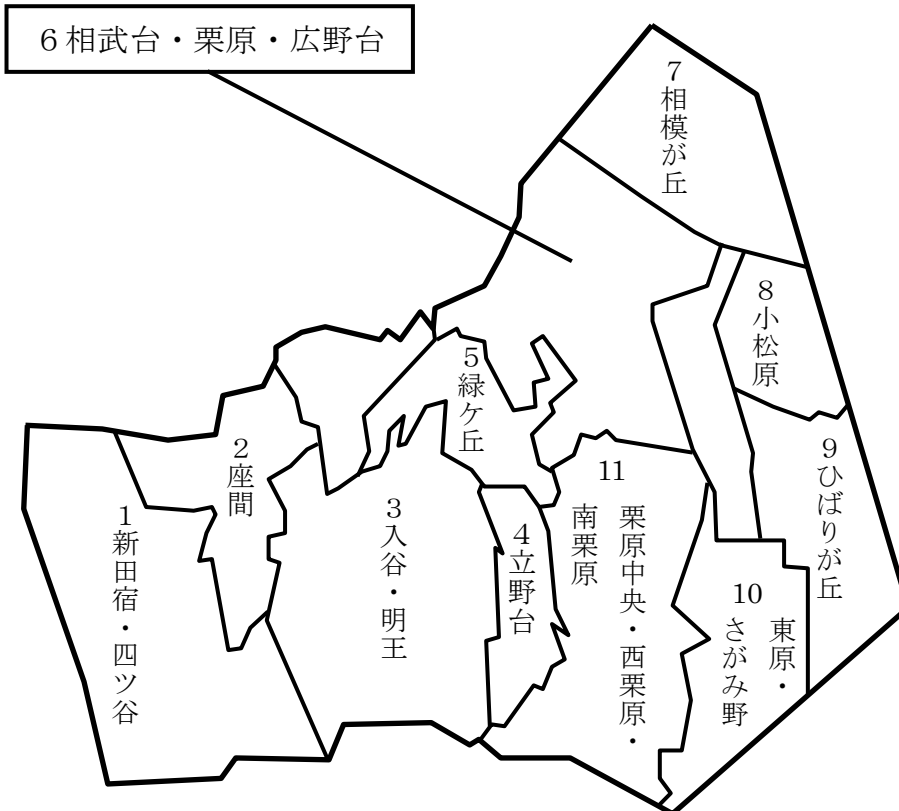
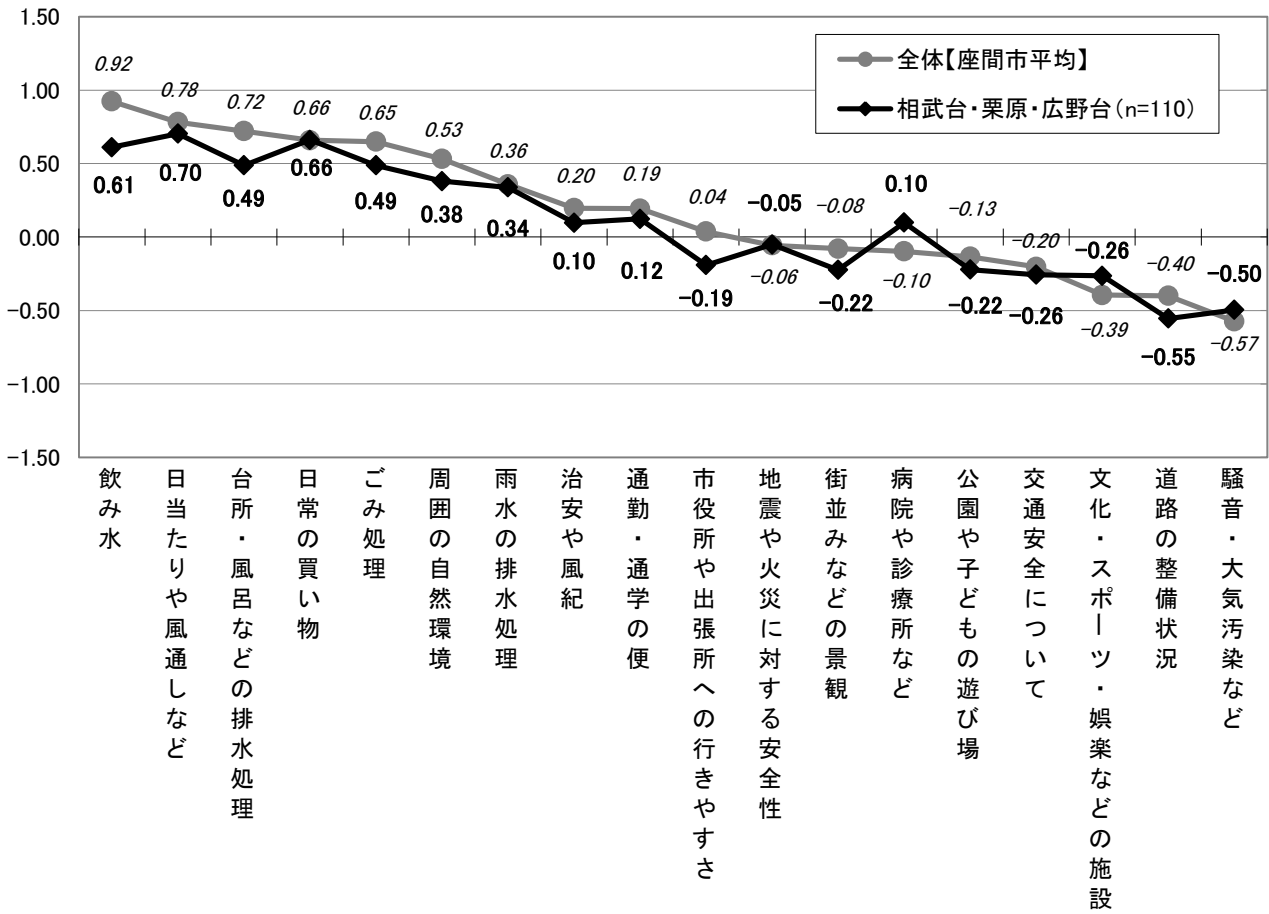
【緑ヶ丘地区】

緑ヶ丘地域では、18項目中16項目で全体より評価が高く、評価が低かったのは「日常の買い物」、「日当たりや風通しなど」であった。高かった項目の中でも、特に「市役所や出張所への行きやすさ」、「公園や子どもの遊び場」、「周囲の自然環境」、「街並みなどの景観」などの高さが目立つ。



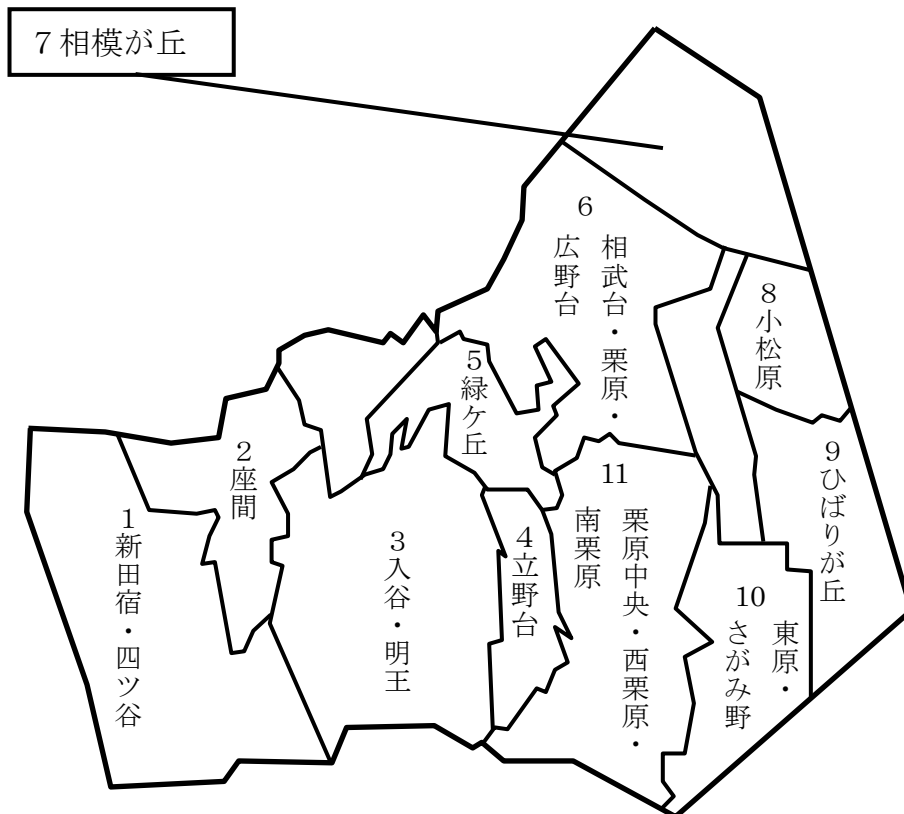
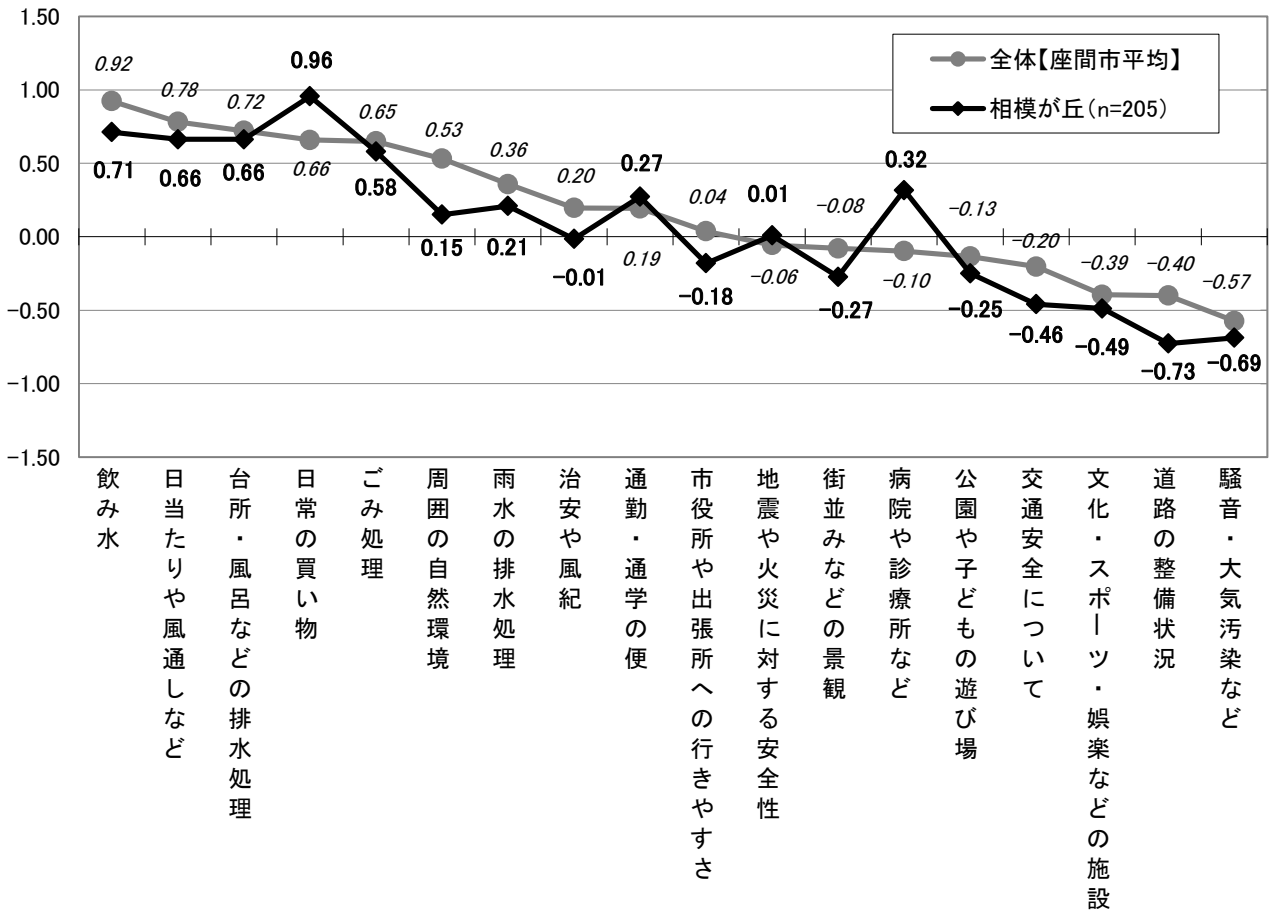
【相武台・栗原・広野台地区】

相武台・栗原・広野台地域で全体より比較的評価が高かった項目は、「病院や診療所など」、「文化・スポーツ・娯楽などの施設」などで、評価が低かったのは「飲み水」、「台所・風呂などの排水処理」、「市役所や出張所への行きやすさ」などであった。



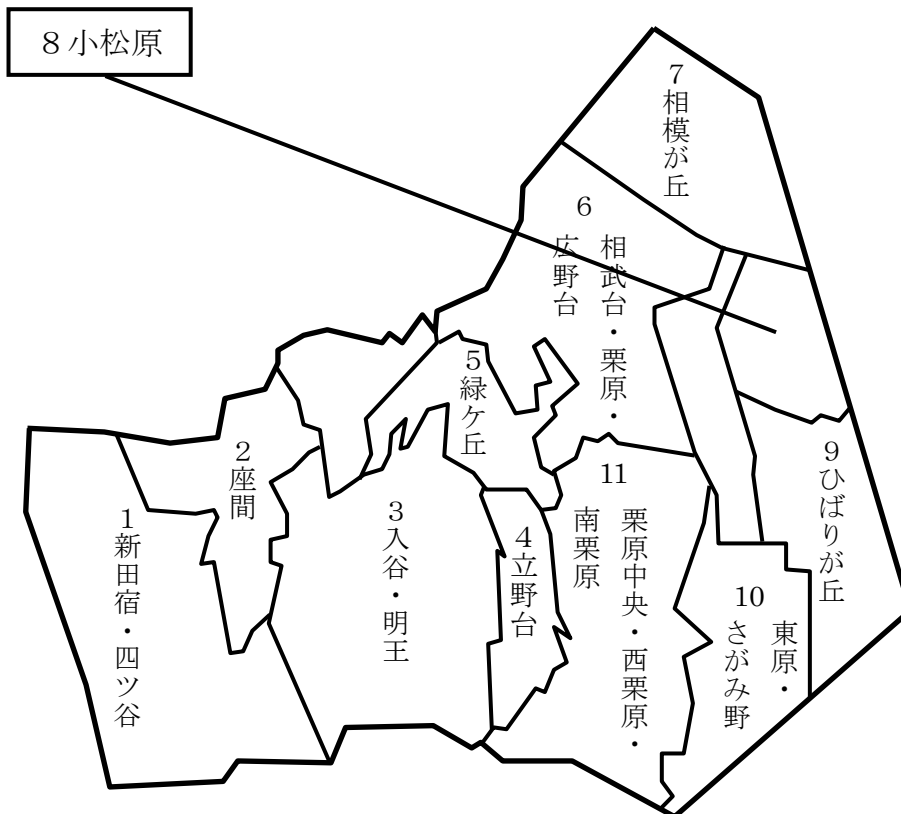
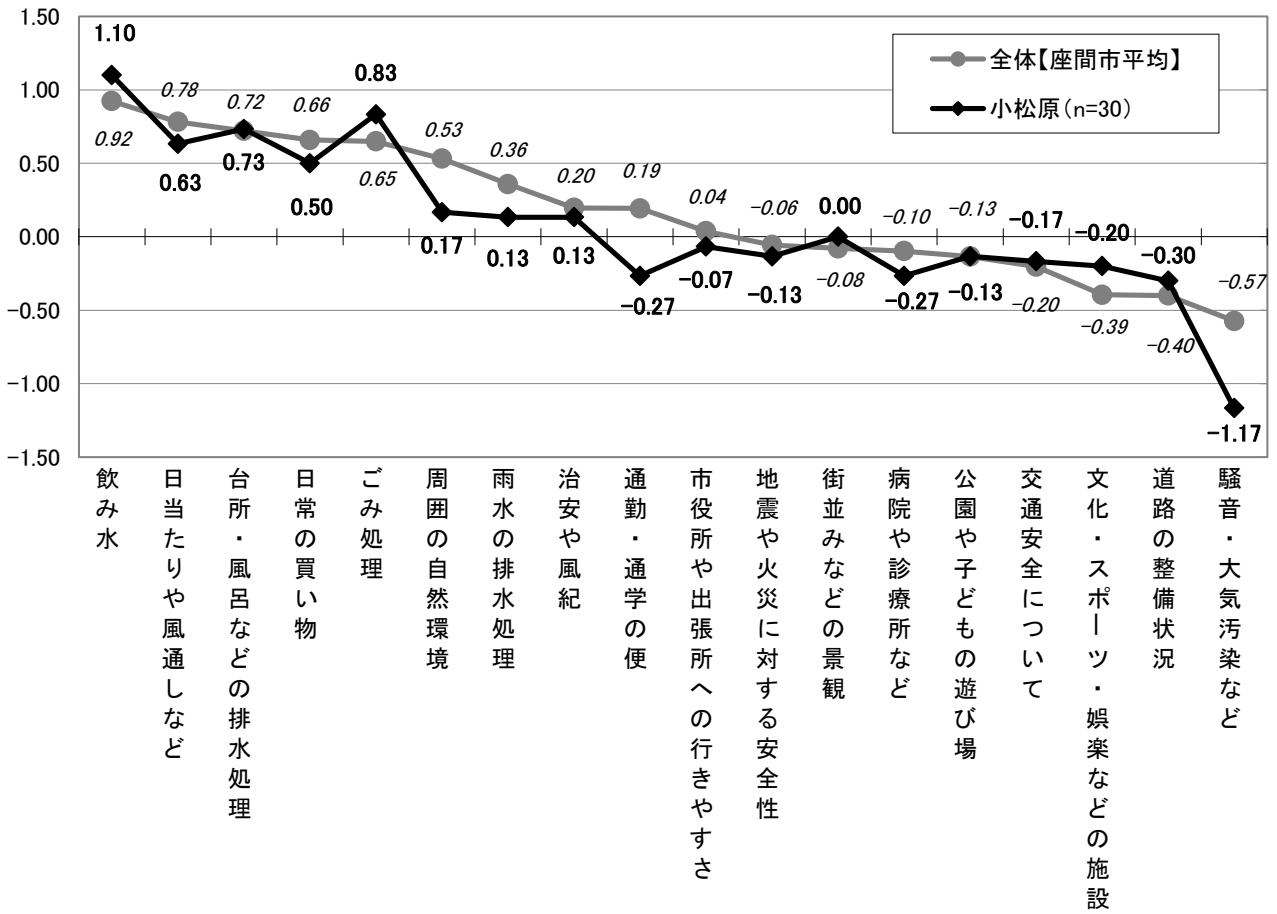
【相模が丘地区】

相模が丘地域で全体より評価が高かった項目は、「病院や診療所など」、「日常の買い物」、「通勤・通学の便」、「地震や火災に対する安全性」で、その他の項目については全体よりも低く、特に「周囲の自然環境」、「道路の整備状況」などの低さが目立つ。



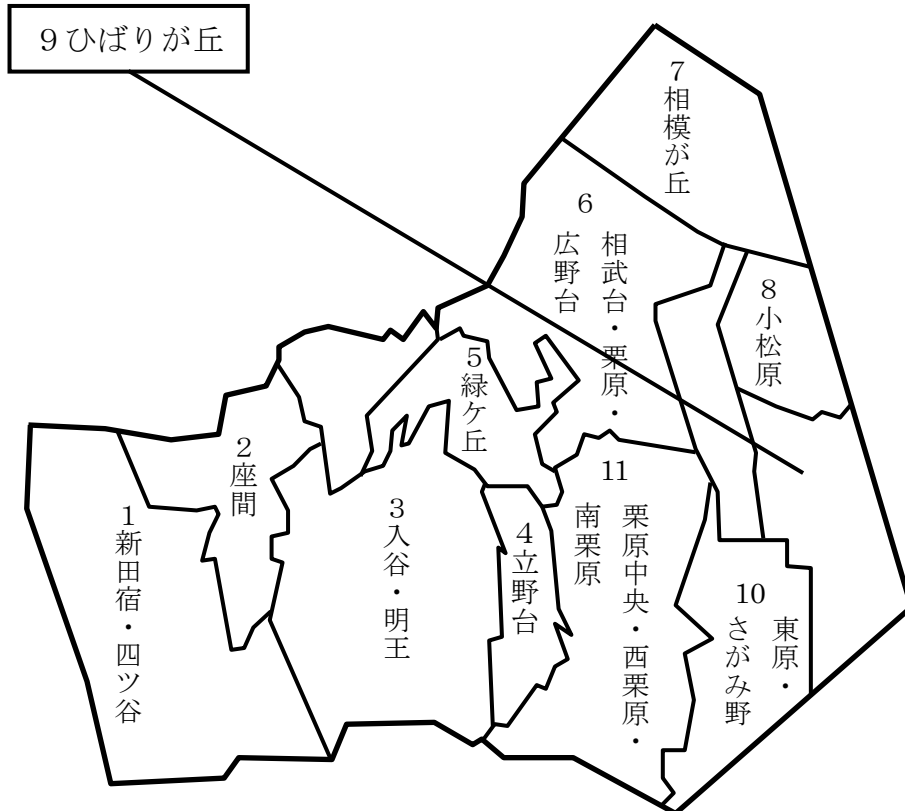
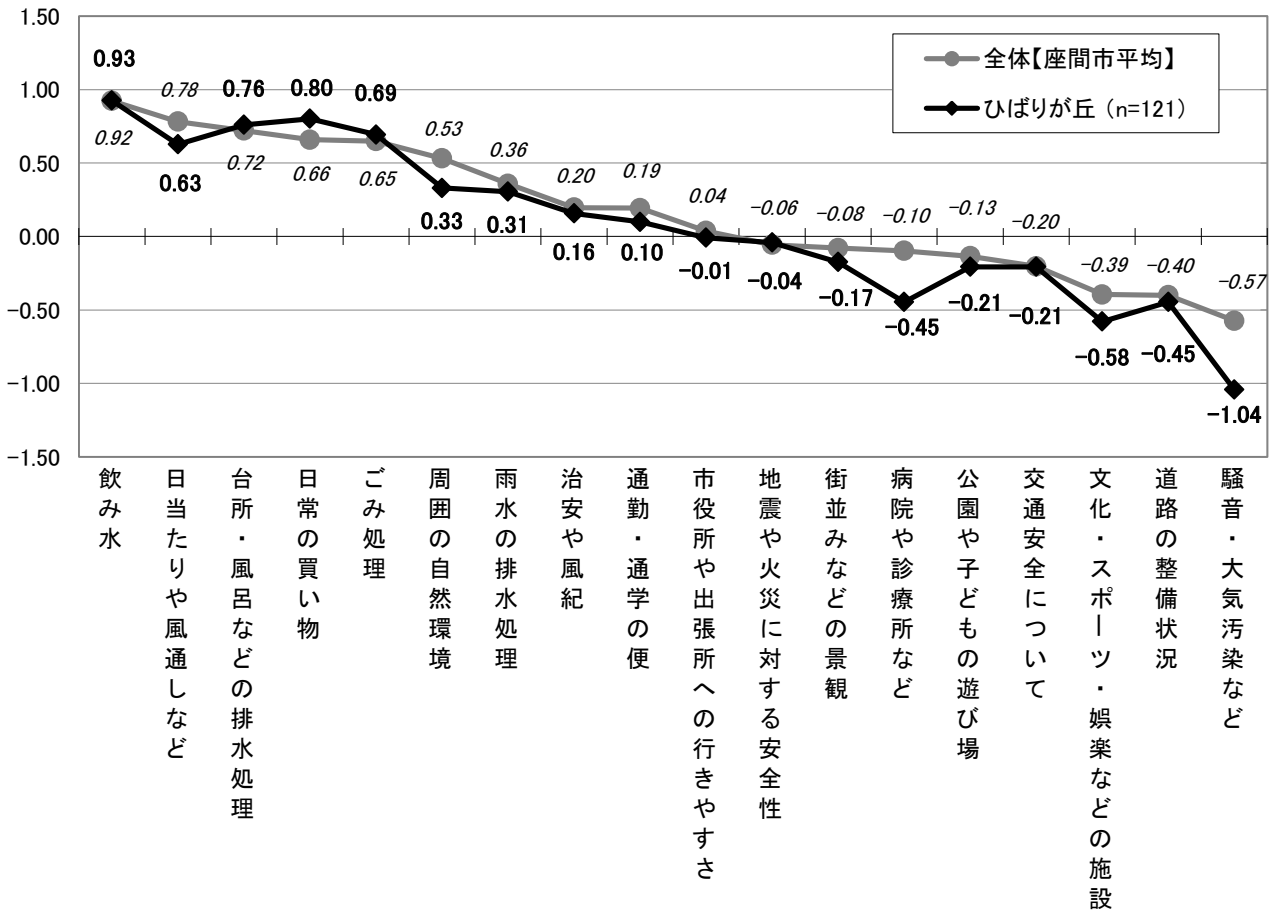
【小松原地区】

小松原地域で全体より比較的高かった項目は、「文化・スポーツ・娯楽などの施設」、「飲み水」、「ごみ処理」などで、評価が低かったのは「騒音・大気汚染など」、「通勤・通学の便」、「周囲の自然環境」、「雨水の排水処理」などであった。



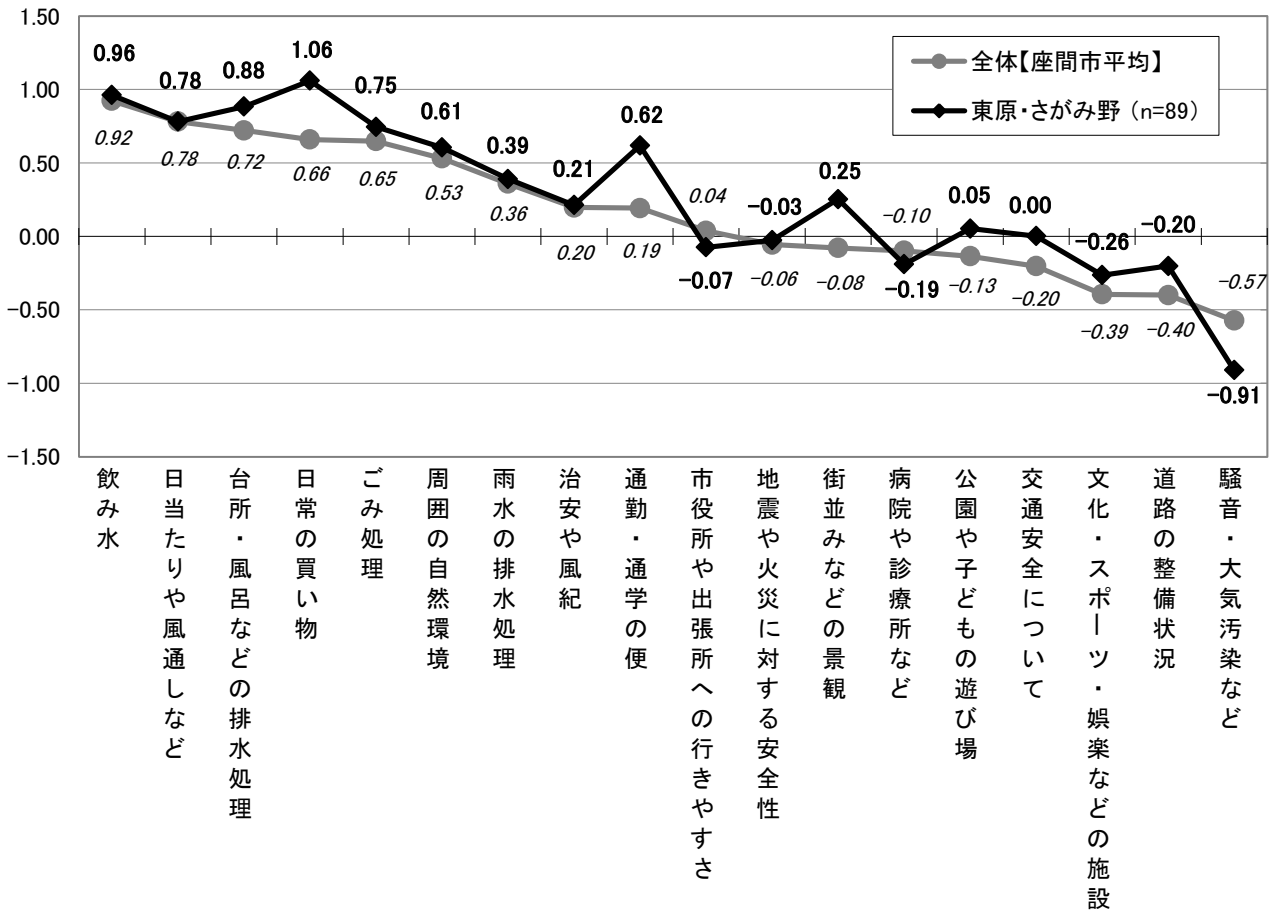
【ひばりが丘地区】

ひばりが丘地域で全体より比較的评价が高かった項目は、「日常の買い物」などで、評価が低かったのは「騒音・大気汚染など」、「病院や診療所など」などであった。



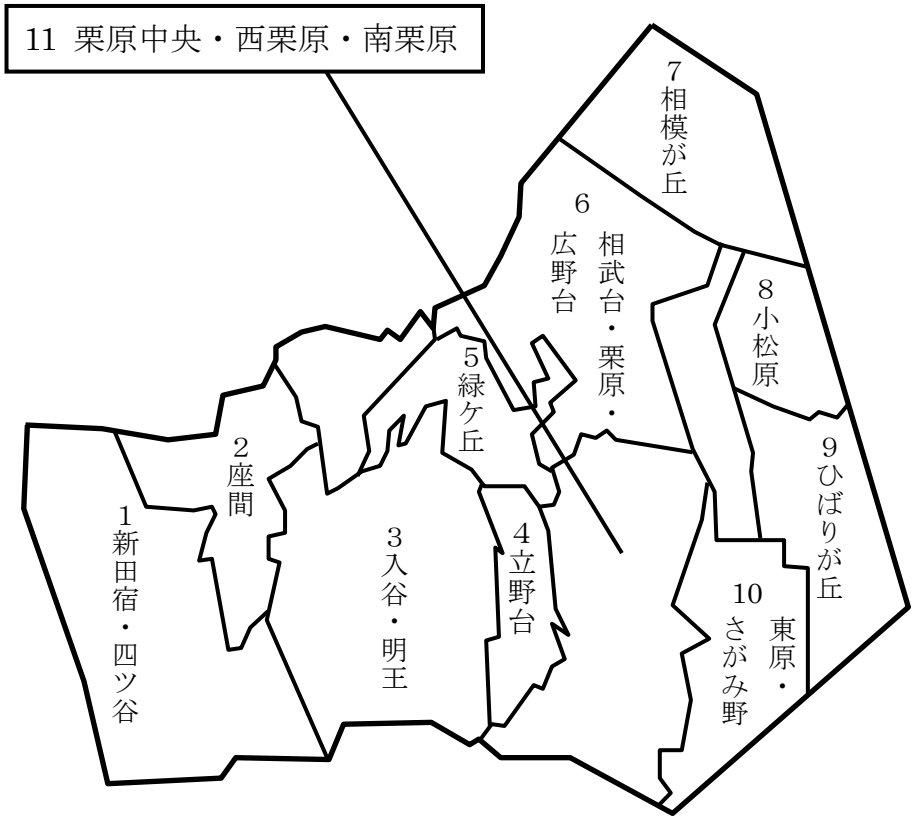
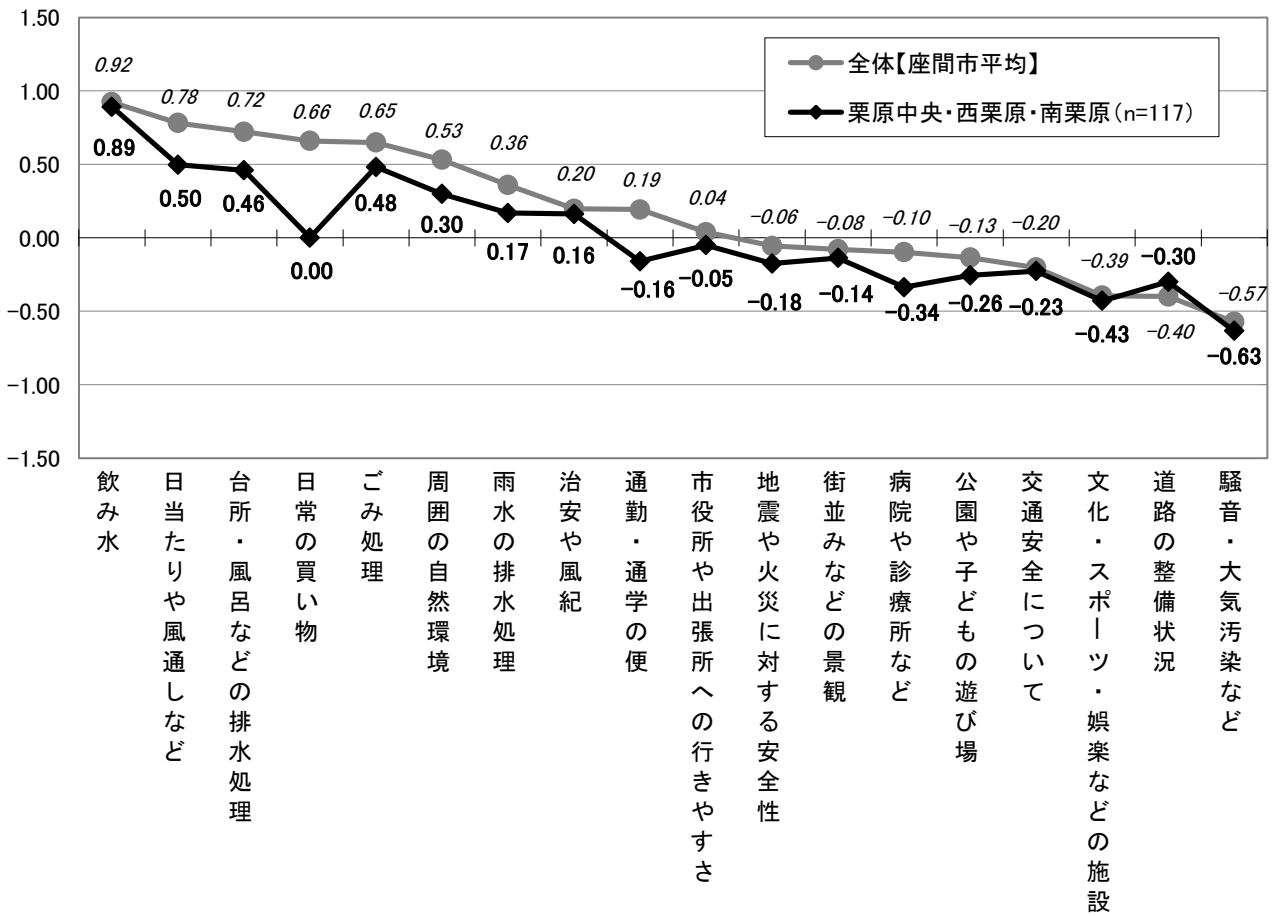
【東原・さがみ野地区】

東原・さがみ野地域では、18項目中14項目で全体より評価が高く、特に「通勤・通学の便」、「日常の買い物」、「街並みなどの景観」などで高かった。評価が低かったのは「騒音・大気汚染など」などであった。



【栗原中央・西栗原・南栗原地区】

栗原中央・西栗原・南栗原地域で全体より評価が高かった項目は、「道路の整備状況」で、その他の項目については全体よりも評価が低かった。特に「日常の買い物」などで低いのが目立つ。

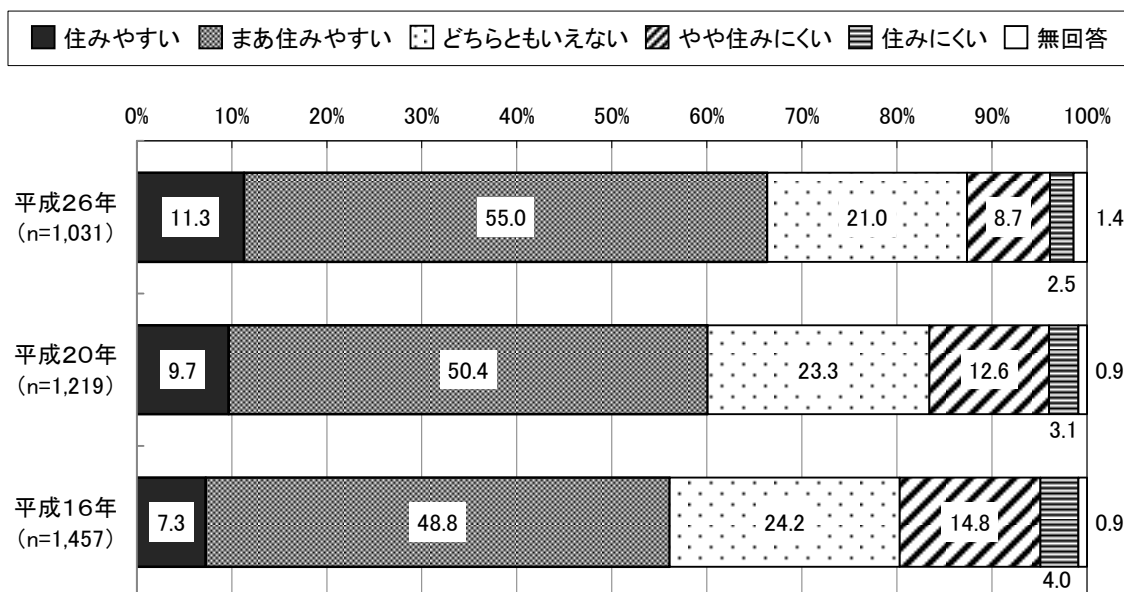


(6) 総合的なまわりの環境

問14 問13の(1)から(18)までの項目を総合的に考えて、あなたのまわりの環境はいかがですか。【1つだけ選んでください】

総合的なまわりの環境を聞いた結果、最も多かったのは、「まあ住みやすい」(55.0%)であった。次いで、「どちらともいえない」(21.0%)、「住みやすい」(11.3%)、「やや住みにくい」(8.7%)、「住みにくい」(2.5%)の順であった。「住みやすい」+「まあ住みやすい」- («やや住みにくい」+「住みにくい」)の比率を《住みやすさ》とすると、《住みやすさ》は55.1ポイントであった。

過去の調査と比較すると、「住みやすい」、「まあ住みやすい」がともに年々増加している傾向がみられる。「住みにくい」、「やや住みにくい」は年々減少している傾向にあり、《住みやすさ》は前回(平成20年)の44.4ポイントから55.1ポイントへ増加している。

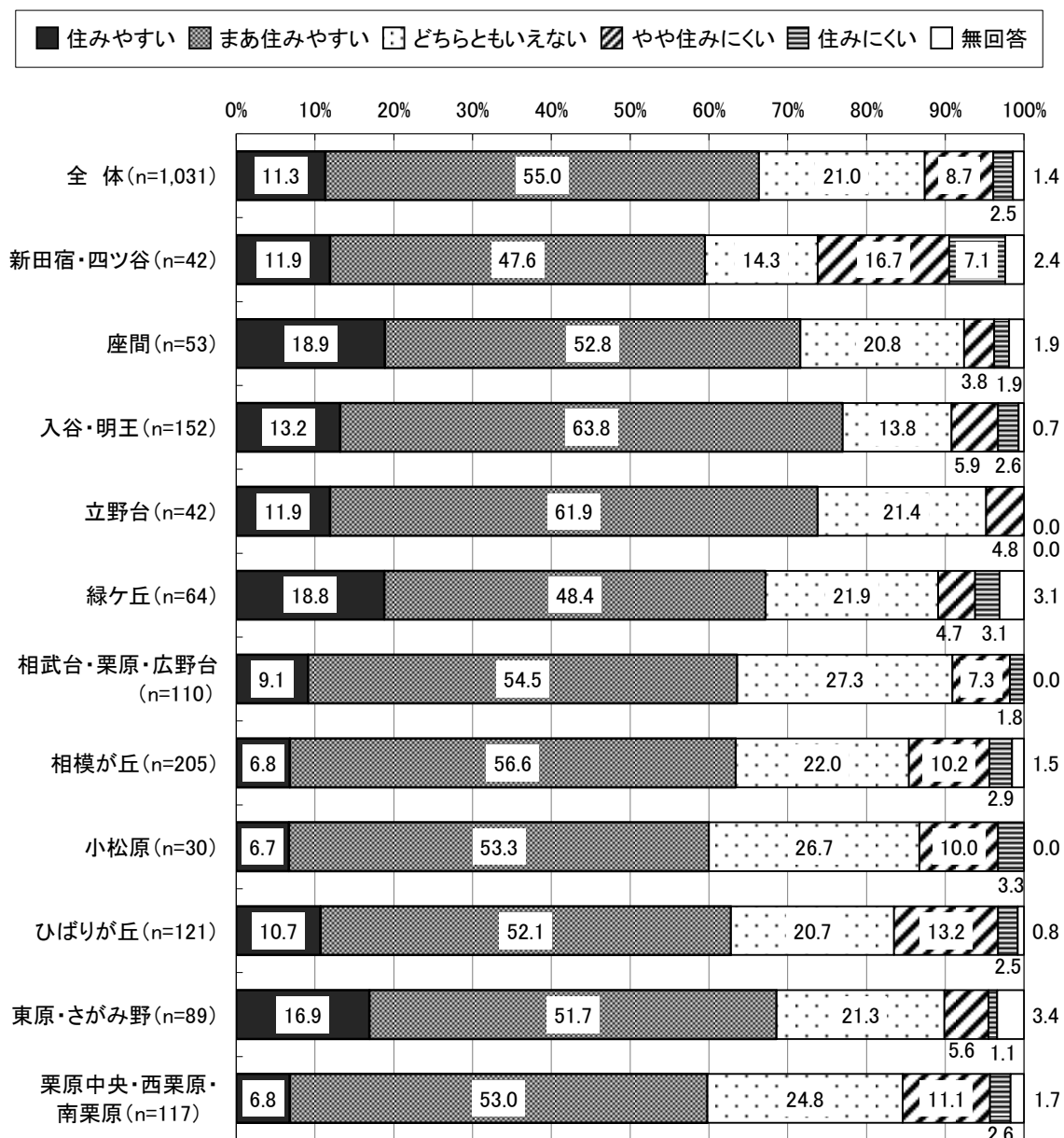


【住まいの地域別】総合的なまわりの環境

住まいの地域別にみると、《住みやすさ》のポイントはすべての地域でプラスとなっており、11地域中7地域で50ポイントを超える結果であった。特に座間、入谷・明王、立野台、東原・さがみ野では60ポイントを超えている。一方、比較的低いポイントであったのは、新田宿・四ツ谷となっている。

住まいの地域	住みやすさ (ポイント)
全体	55.1
新田宿・四ツ谷	35.7
座間	66.0
入谷・明王	68.5
立野台	69.0
緑ヶ丘	59.4
相武台・栗原・広野台	54.5
相模が丘	50.3
小松原	46.7
ひばりが丘	47.1
東原・さがみ野	61.9
栗原中央・西栗原・南栗原	46.1

各地域の比率は下のグラフのとおりである。



3 健康づくりについて

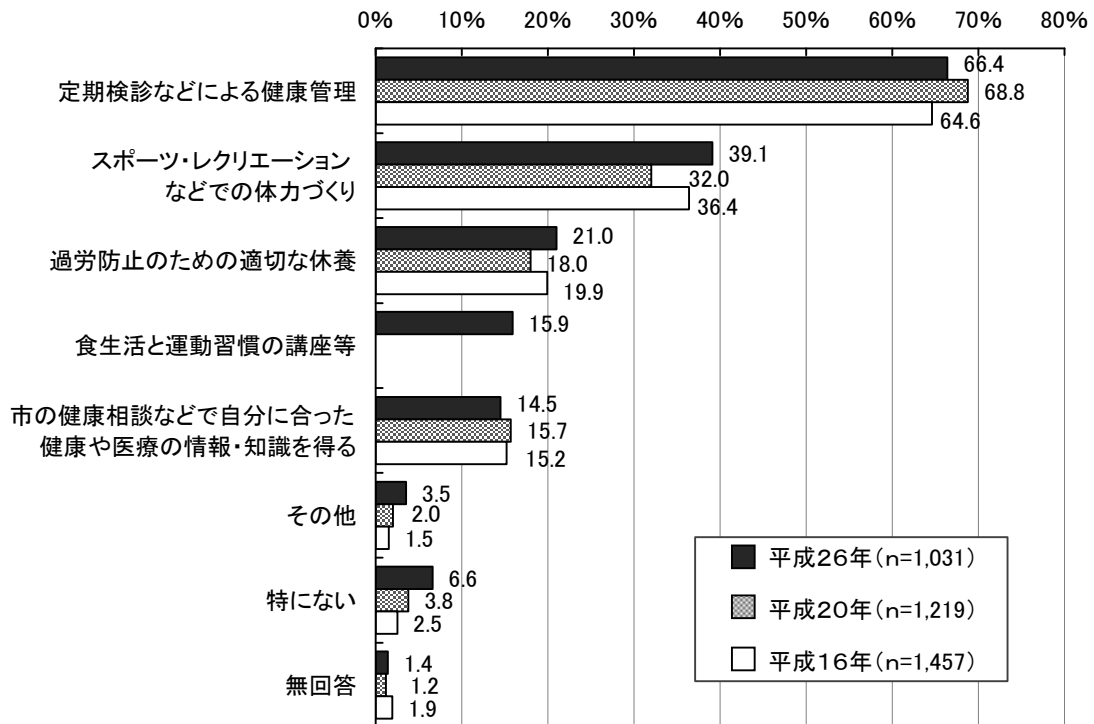
(1) 健康づくりのために重要だと思うこと

問15 あなたは、ご自身の健康づくりのために今後どのようなことが重要だとお考えですか。【2つまで選んでください】

健康づくりのために重要だと思うことを聞いた結果、最も多かったのは、「定期検診などによる健康管理」(66.4%)であった。次いで、「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」(39.1%)、「過労防止のための適切な休養」(21.0%)、「食生活と運動習慣の講座等」(15.9%)、「市の健康相談などで自分に合った健康や医療の情報・知識を得る」(14.5%)が続く。

過去の調査と比較すると、「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」や「過労防止のための適切な休養」の比率が前回(平成20年)よりも高くなっている。反対に、「定期検診などによる健康管理」や「市の健康相談などで自分に合った健康や医療の情報・知識を得る」で前回よりやや低くなっている。また、「特にない」が年々高くなっている傾向がみられる。

※「食生活と運動習慣の講座等」は今回(平成26年)より調査項目に加わったため、過去のデータはない。



【年齢別】健康づくりのために重要だと思うこと

年齢別にみると、「定期検診などによる健康管理」は、60歳代で7割を超え、最も低い18歳～29歳でも5割を超えるなど、どの年代でも比率が高くなっている。反対に「過労防止のための適切な休養」は、18歳～29歳で最も比率が高く、若い年代ほど過労防止に対する関心が高い傾向がみられる。

「スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり」は18歳～29歳で5割を超えているが、70歳以上で比率が低いのが目立つ。その他の年齢ではあまり違いは見られない。

%		全 体 【実 数】	定 期 検 診 な ど に よ る 健 康 管 理	知 合 市 識 っ の を た 健 康 相 談 な ど で 自 分 に	講 食 座 生 活 と 運 動 習 慣 の	ス ポ ー ツ ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン な ど で の 体 力 づ く り	過 過 切 防 止 の た め の 休 養	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		1,031	66.4	14.5	15.9	39.1	21.0	3.5	6.6	1.4
年 齢	18～29歳	78	51.3	10.3	15.4	53.8	39.7	-	5.1	-
	30～39歳	126	66.7	11.9	11.9	41.3	36.5	4.0	3.2	0.8
	40～49歳	156	66.7	12.2	13.5	39.7	25.6	2.6	5.1	1.3
	50～59歳	161	62.1	9.9	18.0	49.7	21.1	4.3	5.0	1.2
	60～69歳	243	71.2	16.0	18.9	40.7	12.8	4.1	6.2	0.8
	70歳以上	262	69.5	19.1	15.3	25.2	13.0	3.8	10.7	2.7
	無回答	5	40.0	40.0	20.0	40.0	-	-	20.0	-

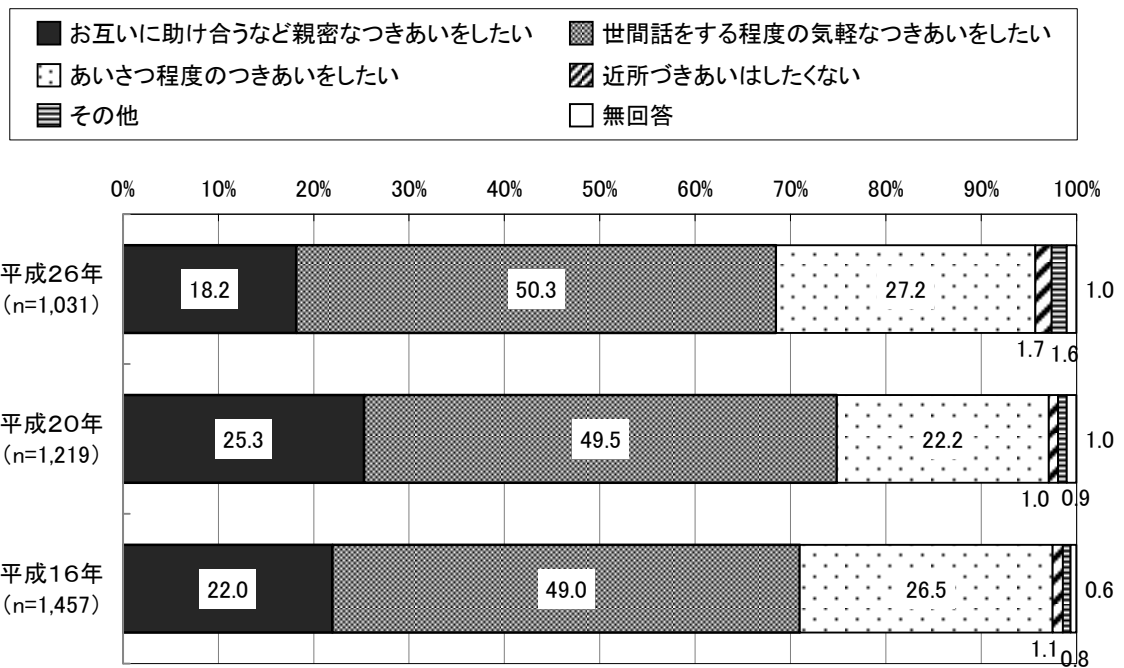
4 コミュニティ活動について

(1) 今後の近所づきあい

問16 あなたは今後どのような近所づきあいをしていきたいと思いますか。
【1つだけ選んでください】

今後の近所づきあいを聞いた結果、最も多かったのは、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」(50.3%)であった。次いで、「あいさつ程度のつきあいをしたい」(27.2%)、「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」(18.2%)、「近所づきあいはしたくない」(1.7%)が続く。

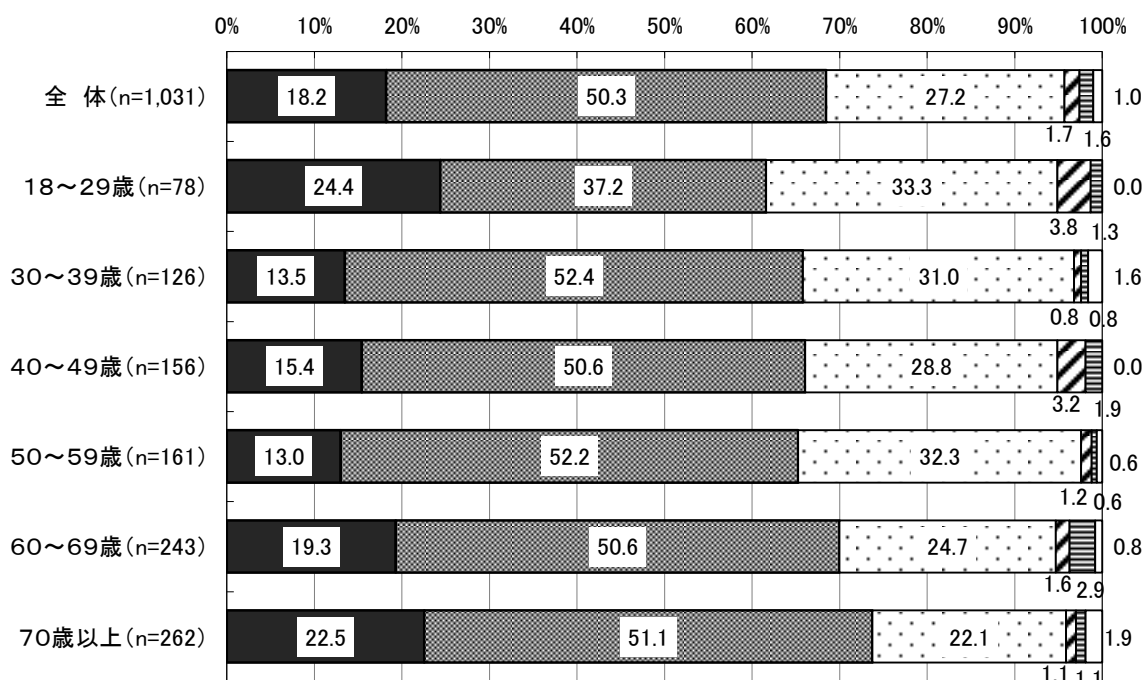
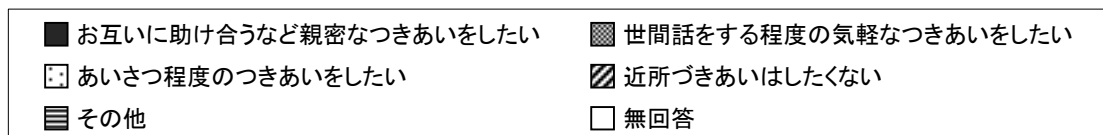
過去の調査結果と比較すると、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」、「あいさつ程度のつきあいをしたい」、「近所づきあいはしたくない」は前回(平成20年)調査より比率が高くなっている。反対に「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」は前回調査より比率が低くなっている。近所づきあいについて、親密な関係より、ある程度の距離をもった近所づきあいが求められている様子が見えてくる。



【年齢別】今後の近所づきあい

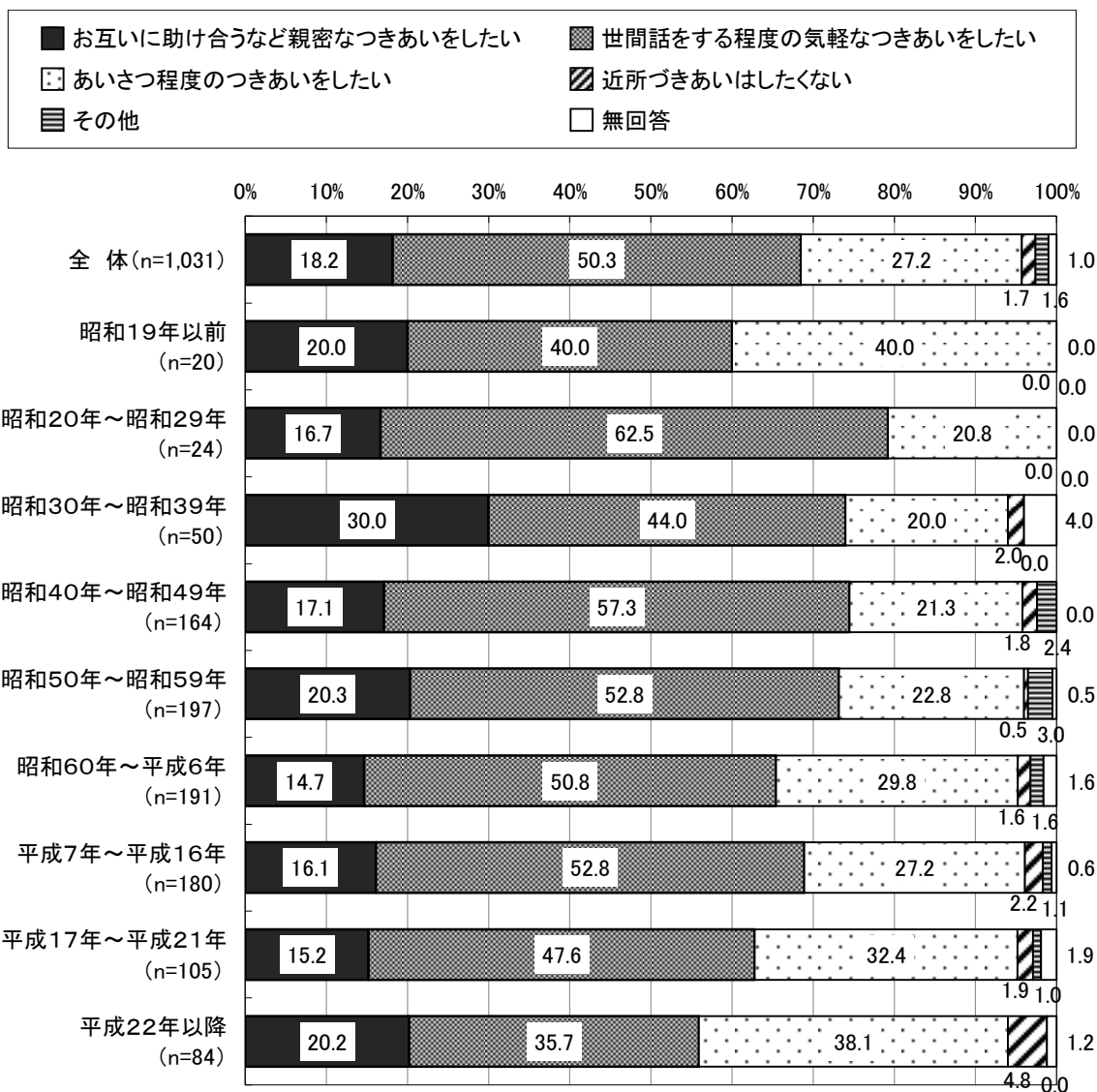
年齢別にみると、「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は、すべての年代で1位であった。「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」は、18～29歳と、60歳代以降で高くなっており、30歳代から50歳代で低い傾向がみられる。

一方、18歳～29歳については、「あいさつ程度のつきあいをしたい」が 33.3%、「近所づきあいはしたくない」が 3.8%となっており、ある程度距離をもった近所づきあいを求める比率も他の年齢層より高くなっている。



【在住年数別】今後の近所づきあい

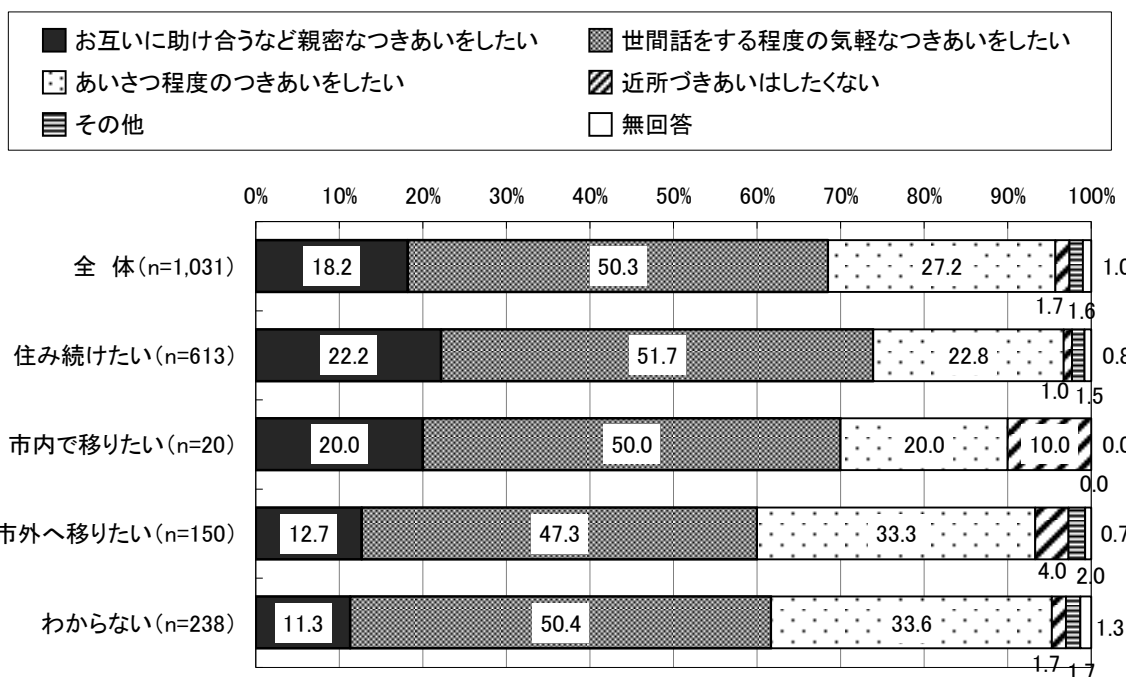
在住年数別にみると、「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」は昭和30年～昭和39年で30.0%となっており、最も比率が高くなっている。次いで、昭和50年～昭和59年(20.3%)、平成22年以降(20.2%)と続く。また、「近所づきあいはしたくない」と回答した人が、昭和29年以前では0.0%となっているのも注目すべき点である。「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は平成22年以降を除き、どの在住年数でも最も高い比率となっている。



【定住意識別】今後の近所づきあい

定住意識別にみると、全体で1位だった「世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい」は、どの定住意識でも1位で50%前後となっている。「お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい」は定住意識が強いほど比率が高くなっている。

「近所づきあいはしたくない」は市内で移りたい層で10.0%となっており、比率が高いのが目立つ。



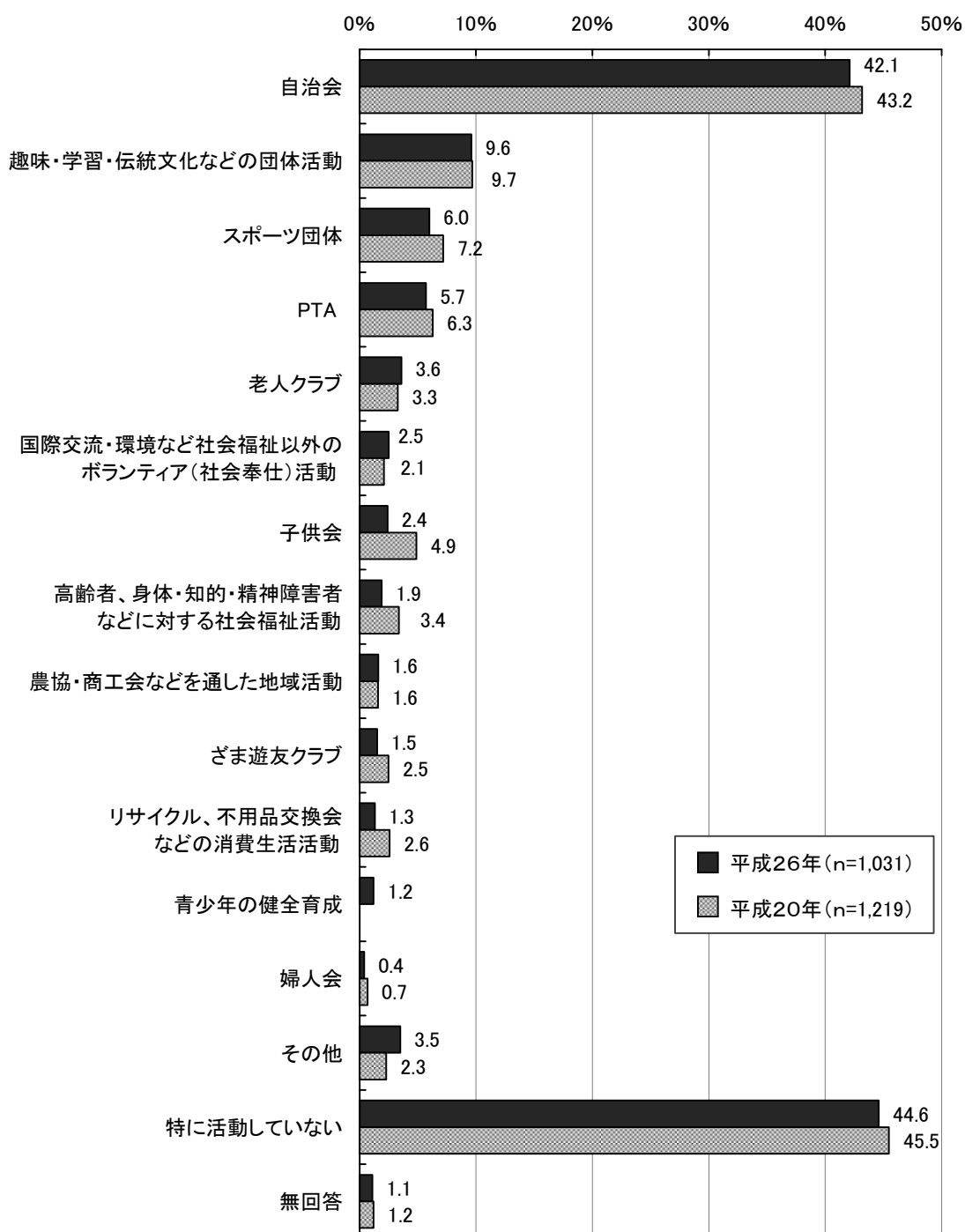
(2) 実際に参加している団体・活動

問17 あなたはどのような地域活動に参加していますか。
【実際に参加している団体・活動すべてに○を付けてください】

実際に参加している団体・活動を聞いた結果、最も多かったのは、「自治会」(42.1%)であった。次いで、「趣味・学習・伝統文化などの団体活動」(9.6%)、「スポーツ団体」(6.0%)、「PTA」(5.7%)が続く。また、「特に活動していない」(44.6%)の比率が高いが目立つ。

過去の調査結果と比較すると、「老人クラブ」、「国際交流・環境など社会福祉以外のボランティア(社会奉仕)活動」で前回(平成20年)よりわずかに比率が高くなっているが、その他の項目についてはほぼ減少している。特に「子供会」、「リサイクル、不用品交換会などの消費生活活動」、「ごま遊友クラブ」で比率の減少が目立っている。

※「青少年の健全育成」は今回より調査項目に加わったため、過去のデータはない。



【職業別】実際に参加している団体・活動

職業別にみると、「特に活動していない」の比率が最も高かったのは学生で、75.9%と7割を超えた。反対に低かったのは、専業主婦で31.1%となっている。全体で1位だった「自治会」は、パート、アルバイト、人材派遣会社への登録、専業主婦で5割前後となった。

専業主婦、無職、パート、アルバイトでは、「趣味・学習・伝統文化などの団体活動」などの比率が他よりも比較的高くなっている。また、商工業、事務職、サービス業、専門・技術職では、「スポーツ団体」で比較的高い比率となっている。

(その1)

%		全 体 【実 数】	自 治 会	子 供 会	婦 人 会	老 人 ク ラ ブ	P T A	ざ ま 遊 友 ク ラ ブ	青 少 年 の 健 全 育 成	ス ポ ー ツ 団 体	
全 体		1,031	42.1	2.4	0.4	3.6	5.7	1.5	1.2	6.0	
職 業	商工業	29	34.5	3.4	-	-	6.9	3.4	-	10.3	
	サービス業	78	37.2	2.6	-	1.3	5.1	2.6	1.3	7.7	
	農林業	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
	専門・技術職	104	40.4	5.8	-	-	6.7	1.0	1.9	7.7	
	事務職	100	31.0	2.0	-	-	7.0	1.0	2.0	10.0	
	労務職	47	31.9	6.4	-	-	-	-	2.1	2.1	
	人材派遣会社への登録	8	50.0	-	-	-	12.5	-	-	-	
	パート、アルバイト	140	54.3	7.1	-	-	17.9	2.9	-	2.1	
	学生	29	10.3	-	-	-	-	-	-	3.4	
	専業主婦	228	49.1	0.4	1.8	4.4	4.8	1.3	0.4	5.7	
	無職	224	42.0	-	-	-	9.8	0.4	0.4	2.2	5.8
	その他	33	39.4	-	-	-	6.1	3.0	3.0	-	9.1
無回答	10	40.0	-	-	-	-	-	10.0	-	10.0	

(その2)

%		た農協 地域・商 工 会 な ど を 通 し	ど趣味 の団・学 習 活 動 ・ 伝 統 文 化 な	会神高 福障齡 祉害者 活者、 動な に 対 知 的 ・ 社精	(福国 社社 会以 奉外 仕の)ボ環 活ラ境 動ン テな ア社 会	会リ なサイ のクル 消、 費生 活活 交 換	そ 他	特 に 活 動 し て い な い	無 回 答
全 体		1.6	9.6	1.9	2.5	1.3	3.5	44.6	1.1
職 業	商工業	6.9	-	-	-	3.4	3.4	58.6	-
	サービス業	5.1	2.6	2.6	2.6	1.3	-	52.6	-
	農林業	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	専門・技術職	-	2.9	-	1.9	1.0	1.9	47.1	1.9
	事務職	1.0	3.0	1.0	2.0	1.0	2.0	54.0	2.0
	労務職	-	-	-	2.1	-	4.3	57.4	-
	人材派遣会社への登録	-	-	12.5	12.5	-	-	37.5	-
	パート、アルバイト	0.7	10.7	1.4	0.7	1.4	0.7	40.0	0.7
	学生	-	-	3.4	3.4	3.4	-	75.9	-
	専業主婦	1.3	18.0	0.9	3.5	2.2	6.6	31.1	1.3
	無職	1.3	14.3	3.6	2.7	0.4	4.0	46.0	1.3
	その他	6.1	6.1	6.1	-	-	6.1	39.4	-
無回答	-	10.0	10.0	10.0	-	20.0	40.0	-	

【性別・年齢別】実際に参加している団体・活動

性別・年齢別にみると、「特に活動していない」は男女とも、おおむね加齢にともなって減少する傾向がみられる。男女ともに18歳～29歳では「特に活動していない」が7割程度となっており、他の年代よりも比率が高いのが目立つ。

「自治会」では加齢にともなって増加する傾向が特に男性でみられ、女性は50歳代、60歳代でピークとなっている。また、女性について、「子供会」は30歳代、「PTA」は30歳代と40歳代の子育て世代で比較的比率が高い。「趣味・学習・伝統文化などの団体活動」は男女とも70歳以上で高くなっている。

(その1)

		全 体 【実 数】	自 治 会	子 供 会	婦 人 会	老 人 ク ラ ブ	P T A	ざ ま 遊 友 ク ラ ブ	青 少 年 の 健 全 育 成	ス ポ ー ツ 団 体	
全 体		1,031	42.1	2.4	0.4	3.6	5.7	1.5	1.2	6.0	
性別・年齢	男性	全体	472	40.3	2.1	-	4.2	3.0	1.5	1.9	7.4
		18～29歳	35	11.4	2.9	-	-	-	-	-	5.7
		30～39歳	57	26.3	5.3	-	-	7.0	1.8	-	3.5
		40～49歳	72	31.9	2.8	-	-	6.9	1.4	1.4	15.3
		50～59歳	75	44.0	4.0	-	-	6.7	2.7	4.0	6.7
		60～69歳	110	44.5	0.9	-	2.7	-	0.9	1.8	5.5
		70歳以上	122	54.1	-	-	13.9	-	1.6	2.5	7.4
		無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	全体	518	44.4	2.7	0.8	3.1	8.5	1.5	0.6	4.8
		18～29歳	43	14.0	-	-	-	-	-	2.3	2.3
		30～39歳	68	41.2	11.8	-	-	26.5	4.4	-	5.9
		40～49歳	78	44.9	3.8	-	-	26.9	3.8	-	5.1
		50～59歳	82	52.4	3.7	-	-	6.1	-	1.2	4.9
		60～69歳	121	51.2	-	0.8	2.5	-	0.8	0.8	5.8
70歳以上		126	44.4	-	2.4	10.3	-	0.8	-	4.0	
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(その2)

		た 農 協 地 域 活 動	農 協 ・ 商 工 会 な ど を 通 し	ど 趣 味 団 体 学 習 活 動 ・ 伝 統 文 化 な	会 神 高 福 障 社 活 者 な ど に 対 す る ・ 社	神 障 害 者 ・ 身 体 ・ 知 的 ・ 精	高 齢 者 ・ ボ ラ ン テ イ ア	福 祉 以 外 の 環 境 な ど の 活 動	国 際 交 流 ・ ポ ラ ン テ イ ア	会 リ サ イ ク ル の 消 費 生 活 活 動	会 な ど の 消 費 生 活 活 動	そ の 他	特 に 活 動 し て い な い	無 回 答	
全 体		1.6	9.6	1.9	2.5	1.3	3.5	44.6	1.1						
性別・年齢	男性	全体	2.1	6.8	2.3	2.5	0.8	3.4	48.9	0.8					
		18～29歳	-	2.9	5.7	-	-	-	-	71.4	-				
		30～39歳	-	1.8	-	-	-	-	-	66.7	1.8				
		40～49歳	2.8	2.8	1.4	2.8	1.4	1.4	55.6	-					
		50～59歳	-	1.3	-	2.7	1.3	4.0	45.3	-					
		60～69歳	2.7	4.5	0.9	2.7	1.8	4.5	49.1	0.9					
		70歳以上	4.1	18.0	5.7	4.1	-	5.7	32.0	1.6					
		無回答	-	-	-	-	-	-	100.0	-					
	女性	全体	1.2	12.4	1.7	2.1	1.7	3.9	40.3	1.0					
		18～29歳	2.3	-	2.3	4.7	2.3	2.3	69.8	-					
		30～39歳	1.5	10.3	-	1.5	-	-	48.5	1.5					
		40～49歳	1.3	9.0	1.3	1.3	3.8	2.6	37.2	-					
		50～59歳	-	6.1	-	3.7	-	3.7	35.4	-					
		60～69歳	2.5	14.9	3.3	2.5	1.7	7.4	36.4	1.7					
70歳以上		-	21.4	2.4	0.8	2.4	4.0	34.9	1.6						
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-						

【在住年数別】実際に参加している団体・活動

在住年数別にみると、「特に活動していない」の比率は、おおむね在住年数が短いほど高い傾向がみられる。

「自治会」では、おおむね在住年数が短いほど地域活動への参加率が低い傾向となっている。また、「PTA」は平成7年～平成16年、平成17年～平成21年で他よりも比率が高いのが目立つ。「農協・商工会などを通じた地域活動」は昭和20年～昭和29年が比較的高い比率であった。

(その1)

%		全 体 【 実 数 】	自 治 会	子 供 会	婦 人 会	老 人 ク ラ ブ	P T A	ざ ま 遊 友 ク ラ ブ	青 少 年 の 健 全 育 成	ス ポ ー ツ 団 体
全 体		1,031	42.1	2.4	0.4	3.6	5.7	1.5	1.2	6.0
在 住 年 数	昭和19年以前	20	60.0	-	-	15.0	-	-	-	5.0
	昭和20年～昭和29年	24	62.5	-	4.2	-	-	4.2	-	16.7
	昭和30年～昭和39年	50	54.0	4.0	4.0	6.0	2.0	2.0	2.0	6.0
	昭和40年～昭和49年	164	50.6	-	-	11.0	3.0	1.2	2.4	6.1
	昭和50年～昭和59年	197	45.2	0.5	-	5.1	0.5	0.5	1.0	7.6
	昭和60年～平成6年	191	38.7	2.6	0.5	1.0	4.2	0.5	0.5	5.8
	平成7年～平成16年	180	43.9	4.4	-	-	16.1	4.4	1.1	5.6
	平成17年～平成21年	105	28.6	2.9	-	-	11.4	-	1.0	1.9
	平成22年以降	84	22.6	6.0	-	-	1.2	2.4	1.2	-
無回答		16	37.5	6.3	-	-	6.3	-	6.3	6.3

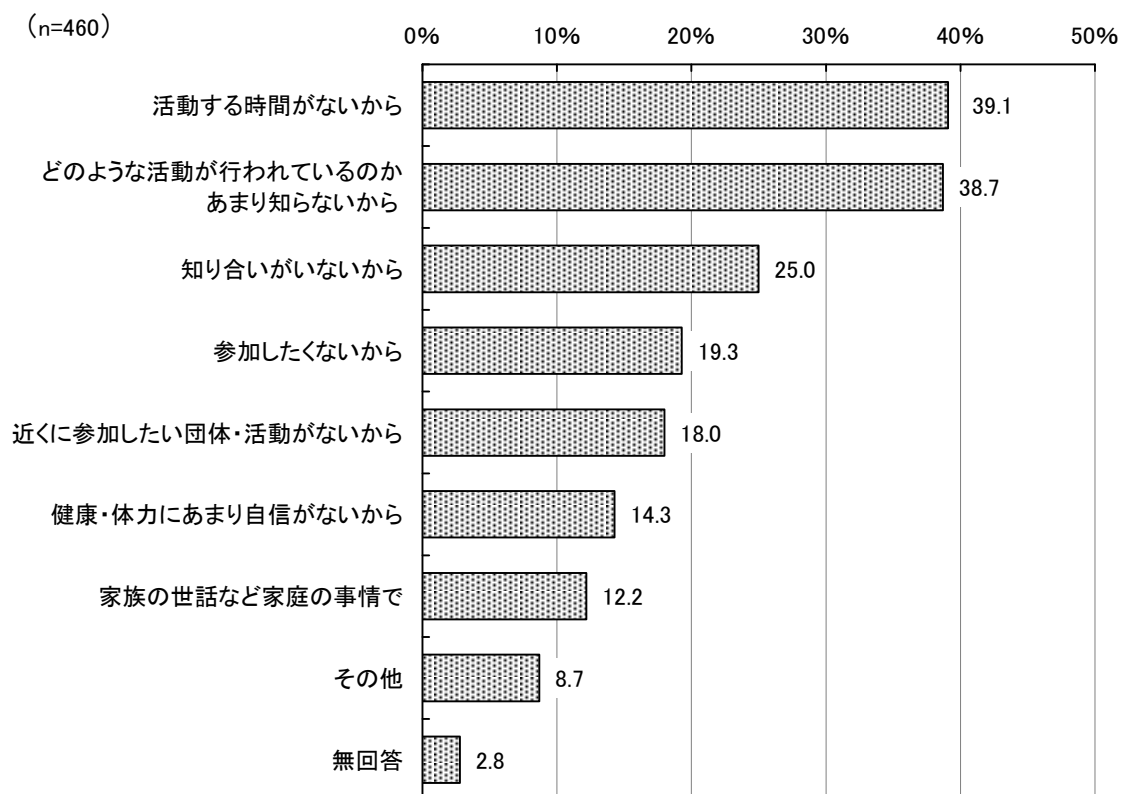
(その2)

%		た農協・商工会などを通じた地域・活動	ど趣味・学習・伝統文化な	会神高 福祉障 社害者 活動者 など	福(社 社以 社外 奉仕 の活 動)	国(社 社以 社外 の活 動)	会(社 社以 社外 の活 動)	リサイ クル の消 費生 活活 動	そ 他	特 に 活 動 し て い な い	無 回 答
全 体		1.6	9.6	1.9	2.5	1.3	3.5	44.6	1.1		
在 住 年 数	昭和19年以前	10.0	10.0	10.0	-	-	5.0	35.0	-		
	昭和20年～昭和29年	20.8	16.7	-	4.2	-	-	29.2	-		
	昭和30年～昭和39年	-	14.0	6.0	2.0	2.0	2.0	32.0	2.0		
	昭和40年～昭和49年	2.4	12.8	3.0	3.7	0.6	6.1	35.4	0.6		
	昭和50年～昭和59年	-	12.7	1.0	2.5	1.0	5.1	43.1	1.5		
	昭和60年～平成6年	1.0	5.2	2.1	2.1	1.0	3.1	45.0	2.6		
	平成7年～平成16年	0.6	11.7	1.7	3.3	2.2	1.7	40.6	0.6		
	平成17年～平成21年	1.9	3.8	-	1.0	1.9	1.0	61.0	-		
	平成22年以降	-	4.8	-	1.2	1.2	2.4	67.9	-		
無回答		-	6.3	6.3	6.3	-	12.5	43.8	-		

(3) 地域活動をしていない主な理由

問18 問17で「15.特に活動していない」とお答えの方にお伺いします。活動していない主な理由は何ですか。【3つまで選んでください】

地域活動をしていない主な理由を聞いた結果、最も多かったのは、「活動する時間がないから」(39.1%)であった。次いで、「どのような活動が行われているのかあまり知らないから」(38.7%)、「知り合いがないから」(25.0%)、「参加したくないから」(19.3%)が続く。



【性別・年齢別】地域活動をしていない主な理由

性別・年齢別にみると、全体で1位であった「活動する時間がないから」は、特に女性の18歳～29歳で70.0%と極めて高い比率となった。男性では、30歳代と40歳代で5割以上を示している。

全体で2位であった「どのような活動が行われているのかあまり知らないから」は、同じく女性の18歳～29歳で70.0%となっており、比率が極めて高い。男性では60歳代で53.7%となっており、他の年代よりも比率が高くなっている。

「健康・体力にあまり自信がないから」は、女性において加齢とともに増加する傾向にあり、特に70歳以上で比率が高い。

%		全 体 【実 数】	事 情 で 家 族 の 世 話 な ど 家 庭 の	ら な い よ う な 活 動 が あ ま り 行 知 わ	ど の よ う な 活 動 が あ ま り 行 知 わ	体 ・ 近 く 活 動 が あ ま り 行 知 わ	ら 活 動 す る 時 間 が あ ま り 自	信 健 康 ・ 体 力 に あ ま り 自	知 り 合 い が あ ま り 自	参 加 し た く な い か ら	そ の 他	無 回 答
全 体		460	12.2	38.7	18.0	39.1	14.3	25.0	19.3	8.7	2.8	
性別・ 年齢	全体	231	11.3	39.0	17.7	38.5	9.5	27.7	24.2	7.4	1.7	
	18～29歳	25	8.0	44.0	16.0	48.0	4.0	20.0	24.0	4.0	-	
	30～39歳	38	5.3	47.4	26.3	63.2	-	31.6	23.7	5.3	-	
	40～49歳	40	15.0	40.0	12.5	50.0	2.5	32.5	25.0	7.5	-	
	50～59歳	34	5.9	29.4	26.5	41.2	-	32.4	26.5	2.9	2.9	
	60～69歳	54	13.0	53.7	16.7	31.5	18.5	37.0	14.8	3.7	3.7	
	70歳以上	39	15.4	15.4	10.3	5.1	25.6	7.7	35.9	20.5	2.6	
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	全体	209	13.4	38.8	17.7	41.1	18.2	23.0	14.8	10.5	2.9	
	18～29歳	30	6.7	70.0	26.7	70.0	-	20.0	10.0	10.0	-	
	30～39歳	33	15.2	54.5	21.2	42.4	3.0	27.3	15.2	3.0	-	
	40～49歳	29	6.9	34.5	17.2	48.3	6.9	31.0	17.2	10.3	-	
	50～59歳	29	24.1	31.0	24.1	51.7	10.3	24.1	13.8	6.9	3.4	
	60～69歳	44	11.4	34.1	18.2	31.8	27.3	20.5	18.2	15.9	2.3	
70歳以上	44	15.9	18.2	4.5	18.2	45.5	18.2	13.6	13.6	9.1		
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

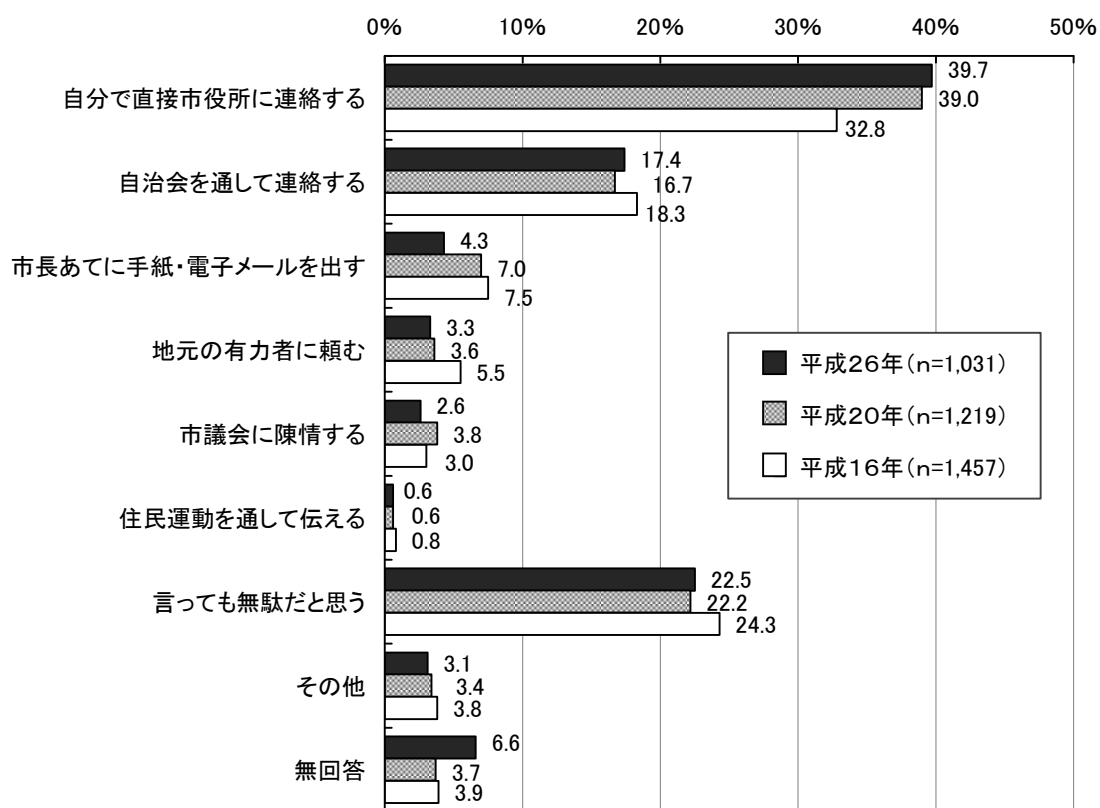
5 市民生活・広報について

(1) 要求や問題を市政に反映させる方法

問19 あなたは身のまわりのことで要求や問題があった場合、それを市政に反映させるためにどのような方法をとりますか。【1つだけ選んでください】

要求や問題を市政に反映させる方法を聞いた結果、最も多かったのは、「自分で直接市役所に連絡する」(39.7%)であった。次いで、「自治会を通して連絡する」(17.4%)、「市長あてに手紙・電子メールを出す」(4.3%)が続く。また、「言っても無駄だと思う」は 22.5%となり、全体の2位となった。

過去の調査と比較すると、「自分で直接市役所に連絡する」は年々比率が増加傾向にあり、反対に、「市長あてに手紙・メールを出す」、「地元の有力者に頼む」の比率は減少している。

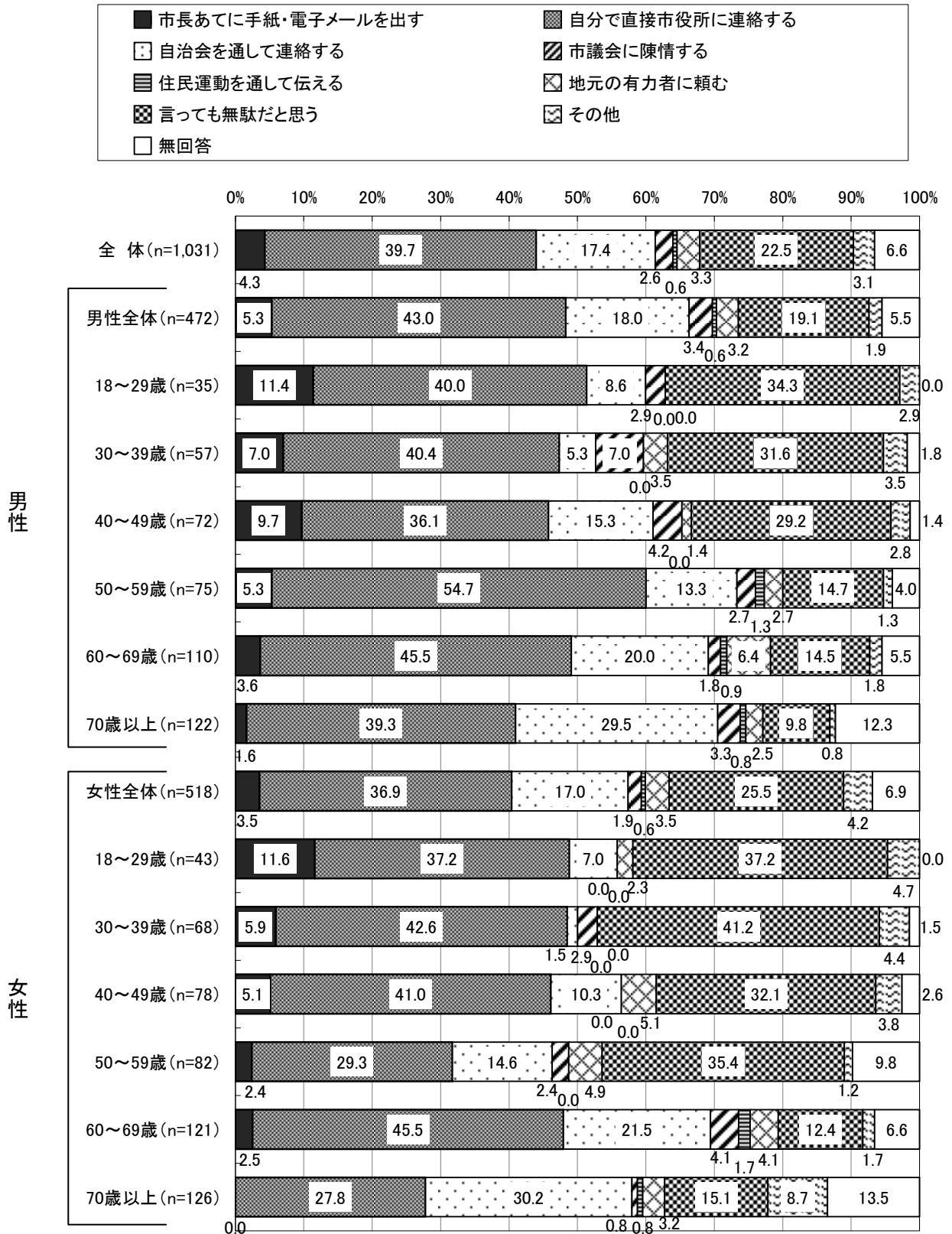


【性別・年齢別】要求や問題を市政に反映させる方法

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「自分で直接市役所に連絡する」は、特に男性の50歳代で比率が高く、女性の70歳以上で比較的低い比率となっている。

全体で2位だった「言っても無駄だと思う」は、女性の30歳代で最も高く、女性の18～29歳、50歳代などでも比率が高かった。

手紙やメール、直接連絡するなど、自ら行動を起こすのは女性よりも男性に多い傾向がみられる。



(2) 日常生活に役立つ情報を得るための媒体(メディア)

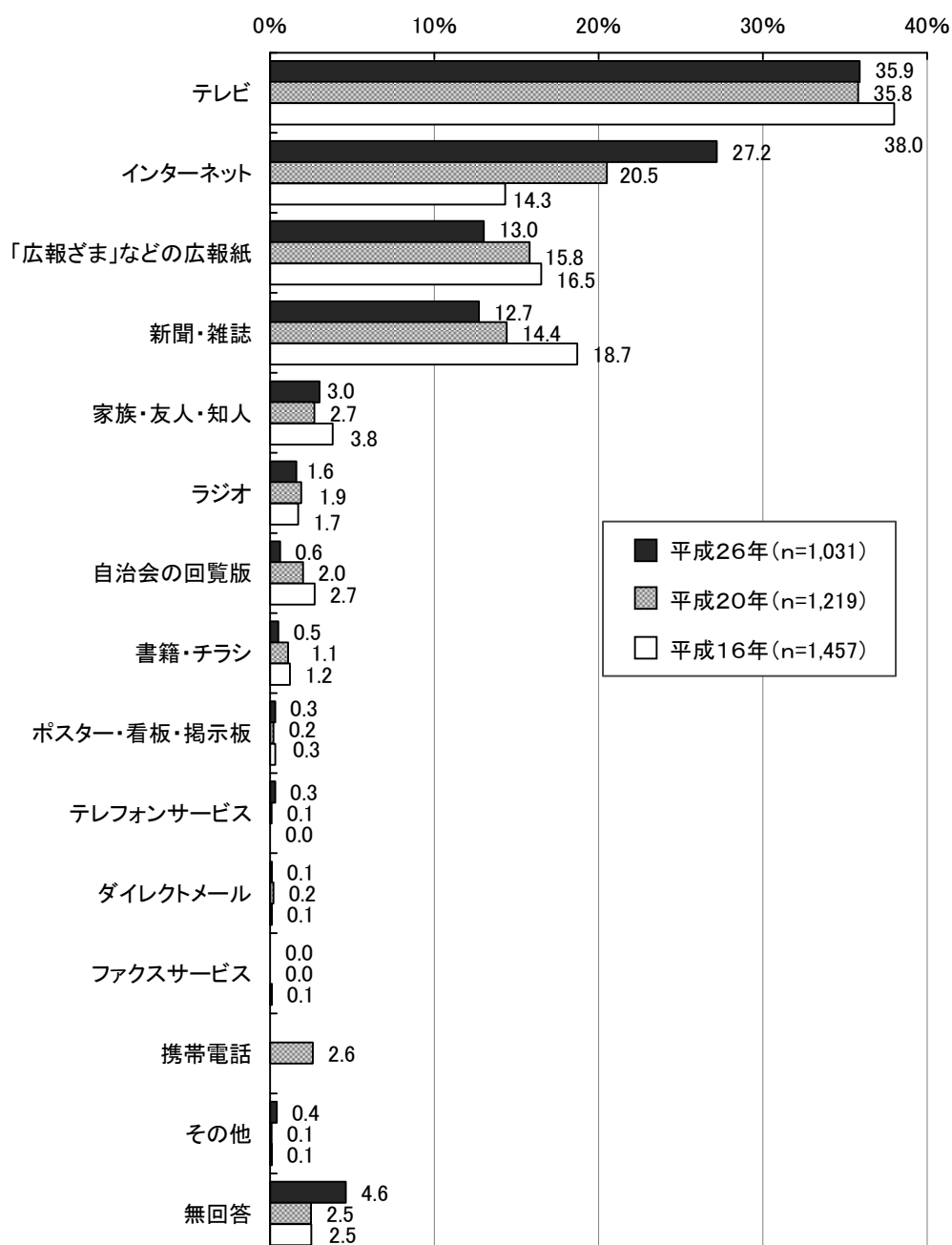
問20 あなたは現在、自分自身の日常生活に役立つ情報を知るためにどのような媒体(メディア)を使っていますか。【よく使う順に3つ選んで、あてはまる**選択肢**の数字を下の□の中に1つずつ記入してください】

最もよく使う媒体

日常生活に役立つ情報を得るため1番よく使う媒体(メディア)を聞いた結果、最も多かったのは、「テレビ」(35.9%)であった。次いで、「インターネット」(27.2%)、「『広報ざま』などの広報紙」(13.0%)、「新聞・雑誌」(12.7%)、「家族・友人・知人」(3.0%)が続く。

過去の調査と比較すると、「インターネット」が急速に増加し続けているのが目立つ。反対に、「『広報ざま』などの広報紙」、「新聞・雑誌」、「自治会の回覧板」、「書籍・チラシ」といった活字媒体は、年々減少傾向がみられる。

※「携帯電話」は前回(平成20年)のみの調査項目のため、今回(平成26年)と前々回(平成16年)のデータはない。



【性別・年齢別】日常生活に役立つ情報を得るため1番よく使う媒体

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「テレビ」は、比較的男性より女性の比率が高く、特に50歳代で56.1%と比率の高いのが目立つ。

全体で2位だった「インターネット」は、男性の18歳～29歳で6割を超え、男性30歳代、50歳代で5割を超えている。女性では18歳～29歳で5割を超え、30歳代、40歳代でも4割を超えており、男女とも若年層で利用率が高い傾向がみられる。

全体で3位だった『「広報ざま」などの広報紙』は、男女ともに70歳以上で最も比率が高くなっている。反対に、男女ともに18歳～29歳で比率が低いのが目立つ。

おおむね「インターネット」は年齢が下がるにつれて、『「広報ざま」などの広報紙』は年齢が上がるにつれて、比率が高くなっている。また、「書籍・チラシ」、「ポスター・看板・掲示板」、「自治会の回覧板」、「テレホンサービス」、「ファクスサービス」、「ダイレクトメール」は極めて比率が低い。

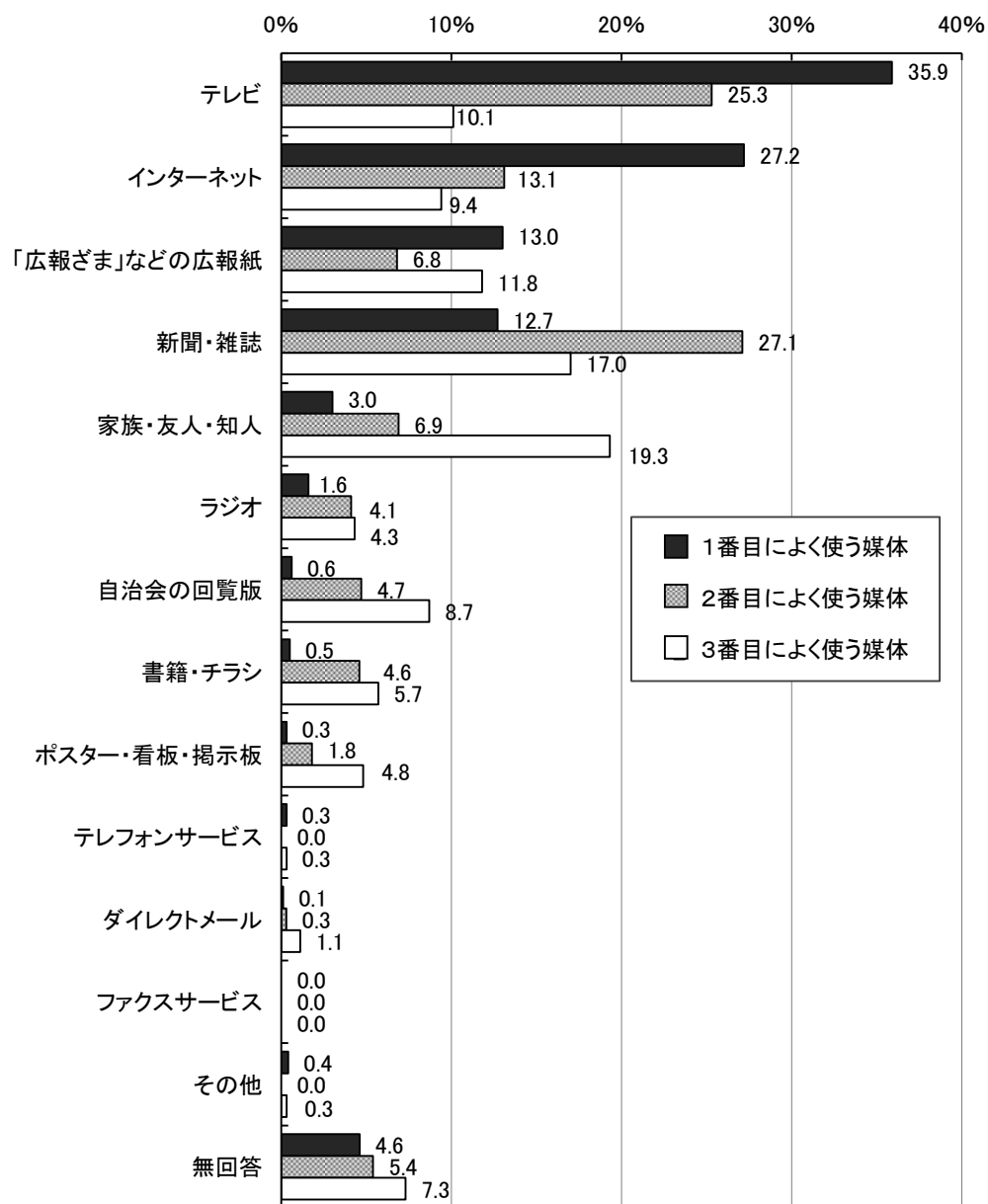
%		全体 【実数】	紙 「広報ざま」などの 広報	テレビ	ラジオ	新聞・雑誌	書籍・チラシ	インターネット	ポスター・看板・ 掲示板	自治会の回覧板	テレホンサービス	ファクスサービス	ダイレクトメール	家族・友人・知人	その他	無回答	
全体		1,031	13.0	35.9	1.6	12.7	0.5	27.2	0.3	0.6	0.3	-	0.1	3.0	0.4	4.6	
性別・年齢	全体	472	12.9	31.8	1.7	12.3	0.4	33.3	0.6	0.2	0.2	-	-	1.5	0.4	4.7	
	男性	18～29歳	35	2.9	28.6	-	-	62.9	-	-	-	-	-	2.9	2.9	-	
	30～39歳	57	5.3	22.8	1.8	1.8	1.8	59.6	-	-	1.8	-	-	1.8	-	3.5	
	40～49歳	72	6.9	29.2	-	5.6	1.4	47.2	-	1.4	-	-	-	4.2	-	4.2	
	50～59歳	75	8.0	28.0	5.3	4.0	-	52.0	-	-	-	-	-	-	-	2.7	
	60～69歳	110	15.5	38.2	0.9	20.0	-	20.9	0.9	-	-	-	-	-	-	3.6	
	70歳以上	122	23.8	34.4	1.6	23.0	-	4.1	1.6	-	-	-	-	1.6	0.8	9.0	
	無回答	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	女性	全体	518	12.5	40.7	1.4	12.9	0.6	21.8	-	0.8	0.4	-	0.2	4.2	0.4	4.1
	18～29歳	43	-	34.9	-	4.7	-	58.1	-	-	-	-	-	-	-	2.3	-
	30～39歳	68	8.8	35.3	-	-	-	47.1	-	-	-	-	-	4.4	-	4.4	
	40～49歳	78	7.7	30.8	-	11.5	1.3	41.0	-	-	2.6	-	1.3	3.8	-	-	
	50～59歳	82	12.2	56.1	2.4	11.0	-	13.4	-	-	-	-	-	-	-	4.9	
	60～69歳	121	14.9	39.7	2.5	24.8	1.7	9.1	-	2.5	-	-	-	3.3	-	1.7	
70歳以上	126	19.8	42.9	1.6	13.5	-	1.6	-	0.8	-	-	-	9.5	0.8	9.5		
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

2番目、3番目によく使う媒体

日常生活に役立つ情報を得るために2番目によく使う媒体(メディア)を聞いた結果、最も多かったのは、「新聞・雑誌」(27.1%)であった。次いで、「テレビ」(25.3%)、「インターネット」(13.1%)、「家族・友人・知人」(6.9%)、「『広報ざま』などの広報紙」(6.8%)が続く。

日常生活に役立つ情報を得るために3番目によく使う媒体(メディア)を聞いた結果、最も多かったのは、「家族・友人・知人」(19.3%)であった。次いで、「新聞・雑誌」(17.0%)、「『広報ざま』などの広報紙」(11.8%)、「テレビ」(10.1%)、「インターネット」(9.4%)が続く。

日常生活に役立つ情報を得るために使う媒体は「テレビ」、「インターネット」、「『広報ざま』などの広報紙」、「新聞・雑誌」などの媒体がよく使われており、合わせて補助的に「家族・友人・知人」からの情報などが使われている様子が見えてくる。



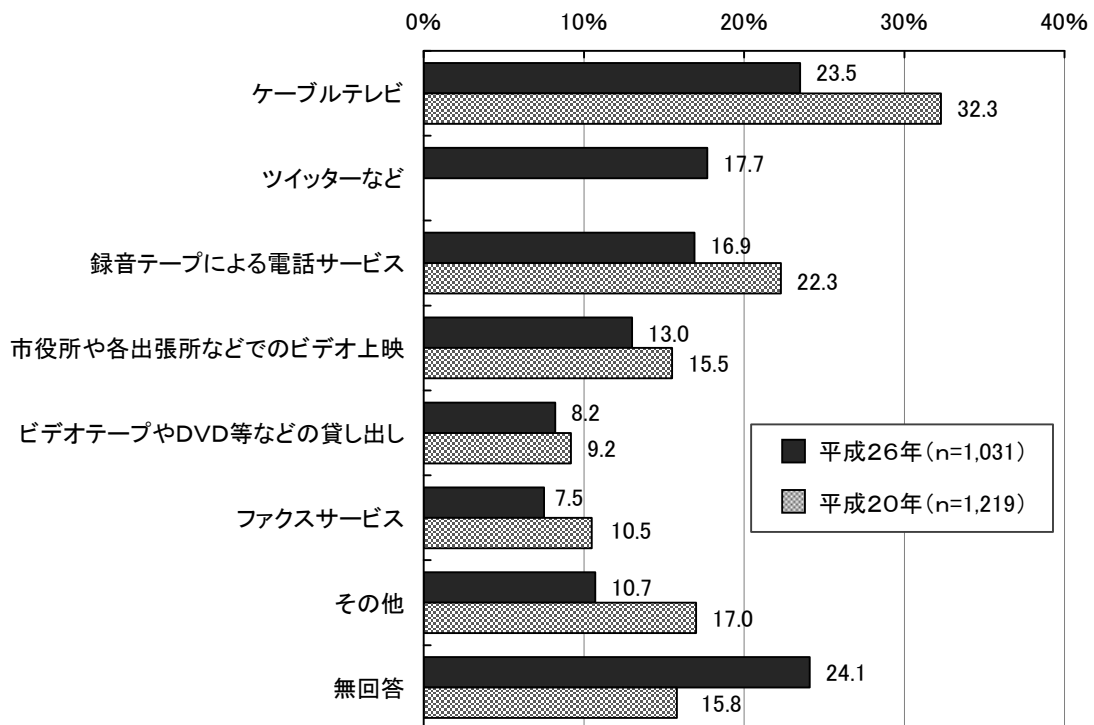
(3) 市のお知らせの便利な伝達方法

問21 市のお知らせについては、「広報ざま」や「市ホームページ」のほか、今後どのようなものを使うと便利だと思いますか。
【あてはまるものをいくつでも選んでください】

市のお知らせの便利な伝達方法を聞いた結果、最も多かったのは、「ケーブルテレビ」(23.5%)、であった。次いで、「ツイッターなど」(17.7%)、「録音テープによる電話サービス」(16.9%)、「市役所や各出張所などでのビデオ上映」(13.0%)が続く。

過去の調査と比較すると、前回(平成20年)と同じ調査項目のすべてで比率が低くなった。代わりに、今回より調査項目に加わった「ツイッターなど」は2位となっており、問20で日常生活に役立つ情報を知るための媒体としてインターネットの利用が上位に挙げられていたこととも関連し、インターネットを利用した方法が求められていると推測される。

※「ツイッターなど」は今回(平成26年)より調査項目に加わったため、過去のデータはない。



【性別・年齢別】市のお知らせの便利な伝達方法

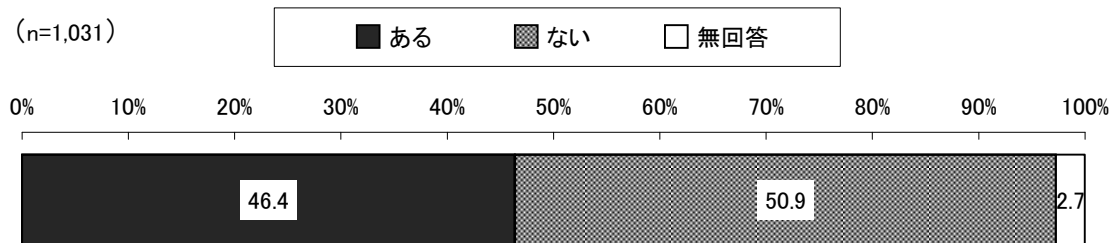
性別・年齢別にみると、全体で1位であった「ケーブルテレビ」は男女ともに40歳代で比率が最も高くなっている。また、全体で2位であった「ツイッターなど」は、男女ともに18～29歳、30歳代で比率が高く、18～29歳については男女ともに6割を超えている。特に若年層でツイッターといったインターネットを利用した方法が求められている様子が見えてくる。

		全 体 【実 数】	ビ デ オ テ レ ビ や D V D 等 の 貸 し 出 し	市 役 所 や 各 出 張 所 な ど で の ビ デ オ 上 映	録 音 テ レ ビ サ ー ビ ス に よ る 電 話	ケ ー ブ ル テ レ ビ	フ ァ ク ス サ ー ビ ス	ツ イ ッ タ ー な ど	そ の 他	無 回 答	
全 体		1,031	8.2	13.0	16.9	23.5	7.5	17.7	10.7	24.1	
性別・ 年齢	男 性	全 体	472	10.4	13.3	13.8	28.8	7.0	21.0	11.2	20.3
		18～29歳	35	8.6	-	5.7	25.7	2.9	68.6	2.9	5.7
		30～39歳	57	12.3	10.5	1.8	24.6	5.3	49.1	14.0	10.5
		40～49歳	72	5.6	11.1	5.6	40.3	-	22.2	18.1	11.1
		50～59歳	75	14.7	9.3	8.0	30.7	5.3	20.0	9.3	25.3
		60～69歳	110	11.8	15.5	28.2	32.7	13.6	12.7	8.2	19.1
		70歳以上	122	9.0	20.5	17.2	20.5	8.2	1.6	11.5	32.8
		無回答	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	女 性	全 体	518	6.4	12.7	19.3	19.3	8.5	15.3	10.6	26.4
		18～29歳	43	9.3	16.3	4.7	14.0	2.3	62.8	7.0	2.3
		30～39歳	68	5.9	10.3	8.8	26.5	4.4	33.8	16.2	14.7
		40～49歳	78	5.1	6.4	17.9	26.9	12.8	17.9	14.1	17.9
		50～59歳	82	6.1	9.8	22.0	20.7	9.8	11.0	11.0	28.0
		60～69歳	121	3.3	14.9	27.3	19.0	9.1	3.3	8.3	31.4
		70歳以上	126	9.5	16.7	21.4	11.9	8.7	1.6	8.7	40.5
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(4) 座間市のホームページの閲覧経験

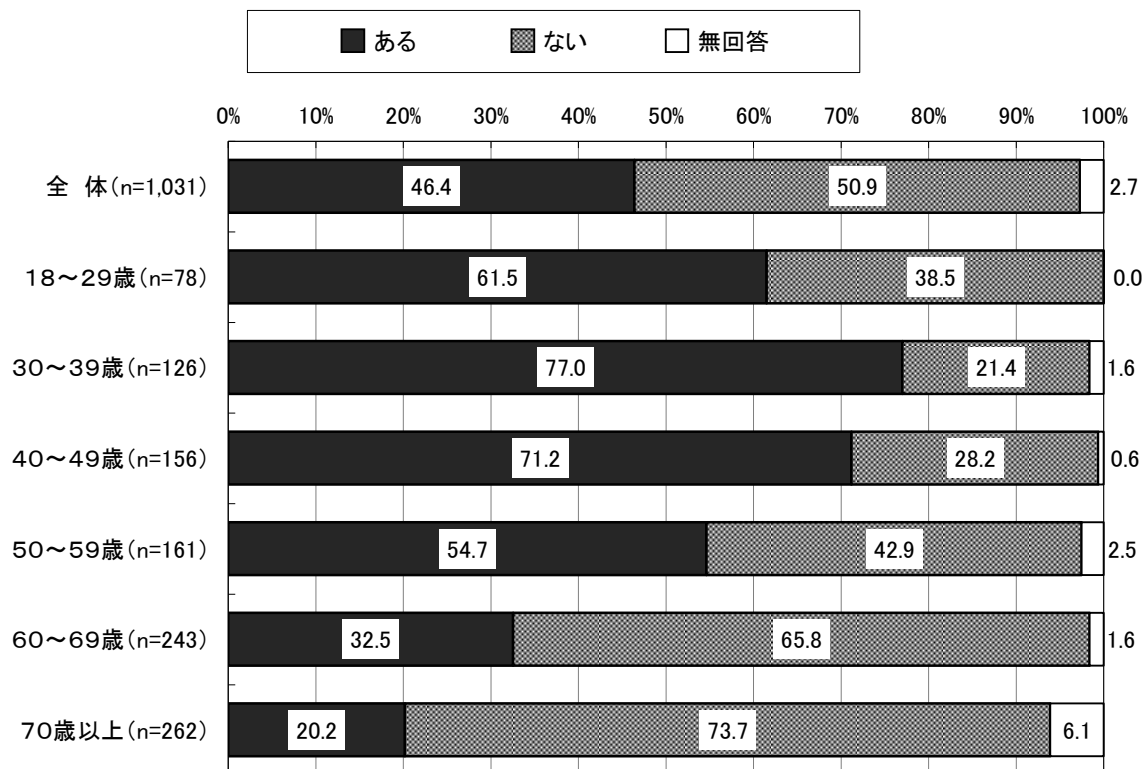
問22 座間市のホームページを閲覧したことがありますか。

座間市のホームページの閲覧経験を聞いた結果は、「ある」(46.4%)、「ない」(50.9%)であった。



【年齢別】座間市のホームページの閲覧経験

年齢別にみると、閲覧経験が「ある」と回答した比率は30歳代で77.0%と最も高い。59歳以下では、どの年代も5割を超え、30歳代、40歳代で7割を超えている。反対に、60歳以上では3割台以下になり、高齢層の閲覧が少ないことが見受けられる。

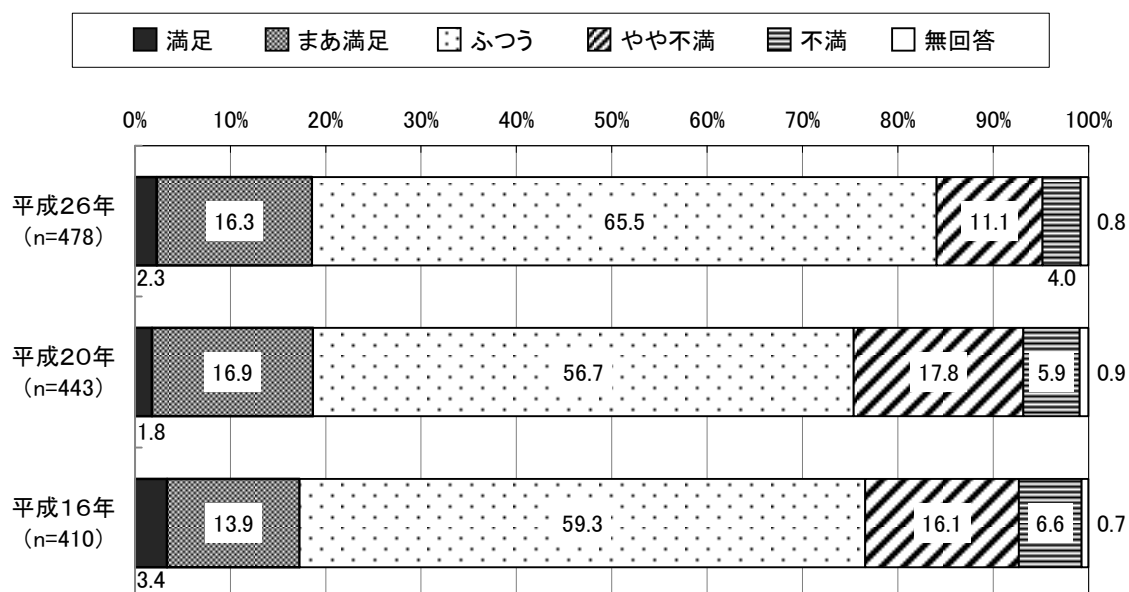


(5) 座間市のホームページの満足度

問23 **問22**で「1.ある」とお答えの方にお伺いします。現在のホームページに満足していますか。【1つだけ選んでください】

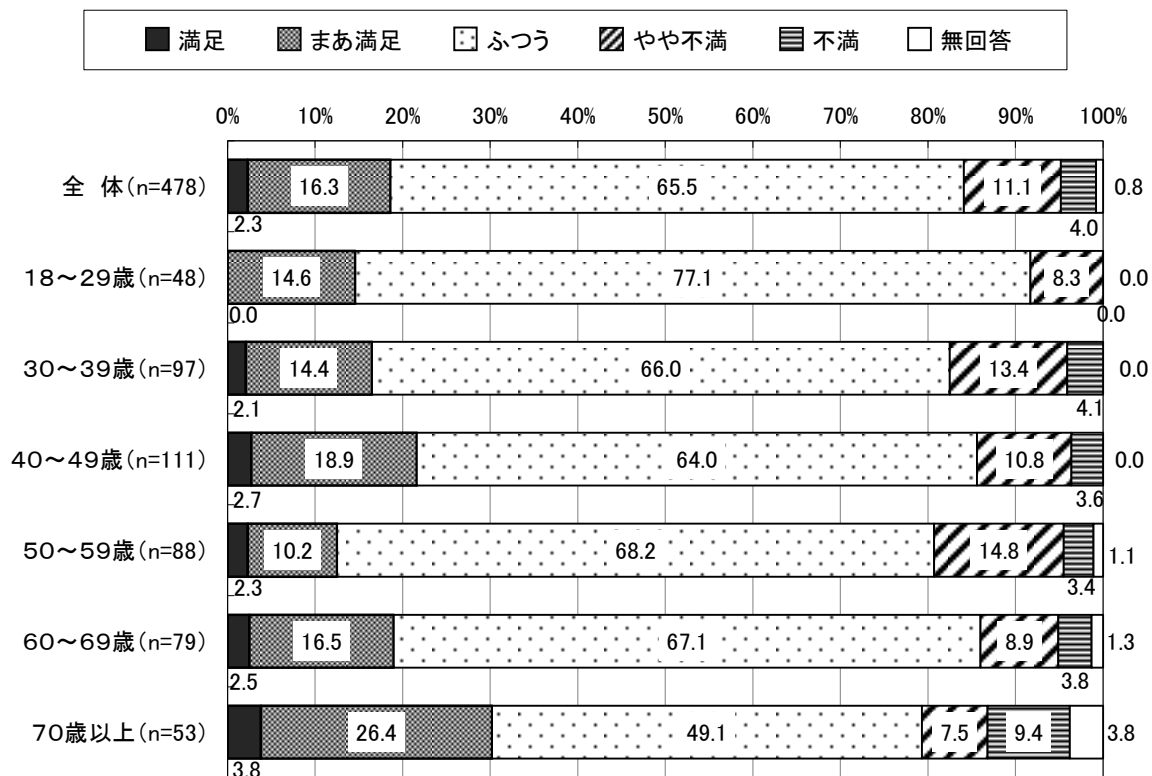
座間市のホームページの満足度を聞いた結果、最も多かったのは、「ふつう」(65.5%)であった。次いで、「まあ満足」(16.3%)、「やや不満」(11.1%)、「不満」(4.0%)、「満足」(2.3%)が続く。

過去の調査と比較すると、今回(平成26年)の「満足」と「まあ満足」を合わせた《満足感あり》は18.6%で、前回調査(平成20年)の18.7%からほぼ横ばいとなった。ただし、「満足」+「まあ満足」- («やや不満」+「不満」)の比率を《座間市のホームページの満足度》とすると、《座間市のホームページの満足度》は3.5ポイントで前回より増加しており、「やや不満」「不満」が減少したことで、満足度が高くなる結果となった。



【年齢別】座間市のホームページの満足度

年齢別にみると、どの年代においても「ふつう」の比率が最も高くなっている。「満足」+「まあ満足」-（「やや不満」+「不満」）で算出した《座間市のホームページの満足度》は、70歳以上で 13.3 ポイントと最も高く、次いで、40歳代で 7.2 ポイント、18～29歳と60歳代で 6.3 ポイントと続く。最も低いのは、50歳代で-5.7 ポイントとなった。



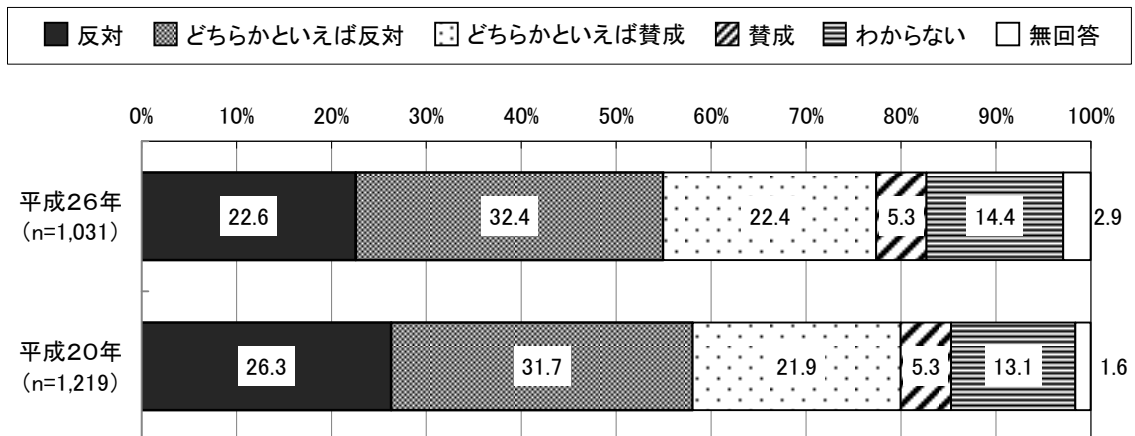
6 男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

問24 「男は仕事、女は家庭」といった考えがあります。あなたはどのように考えますか。
【1つだけ選んでください】

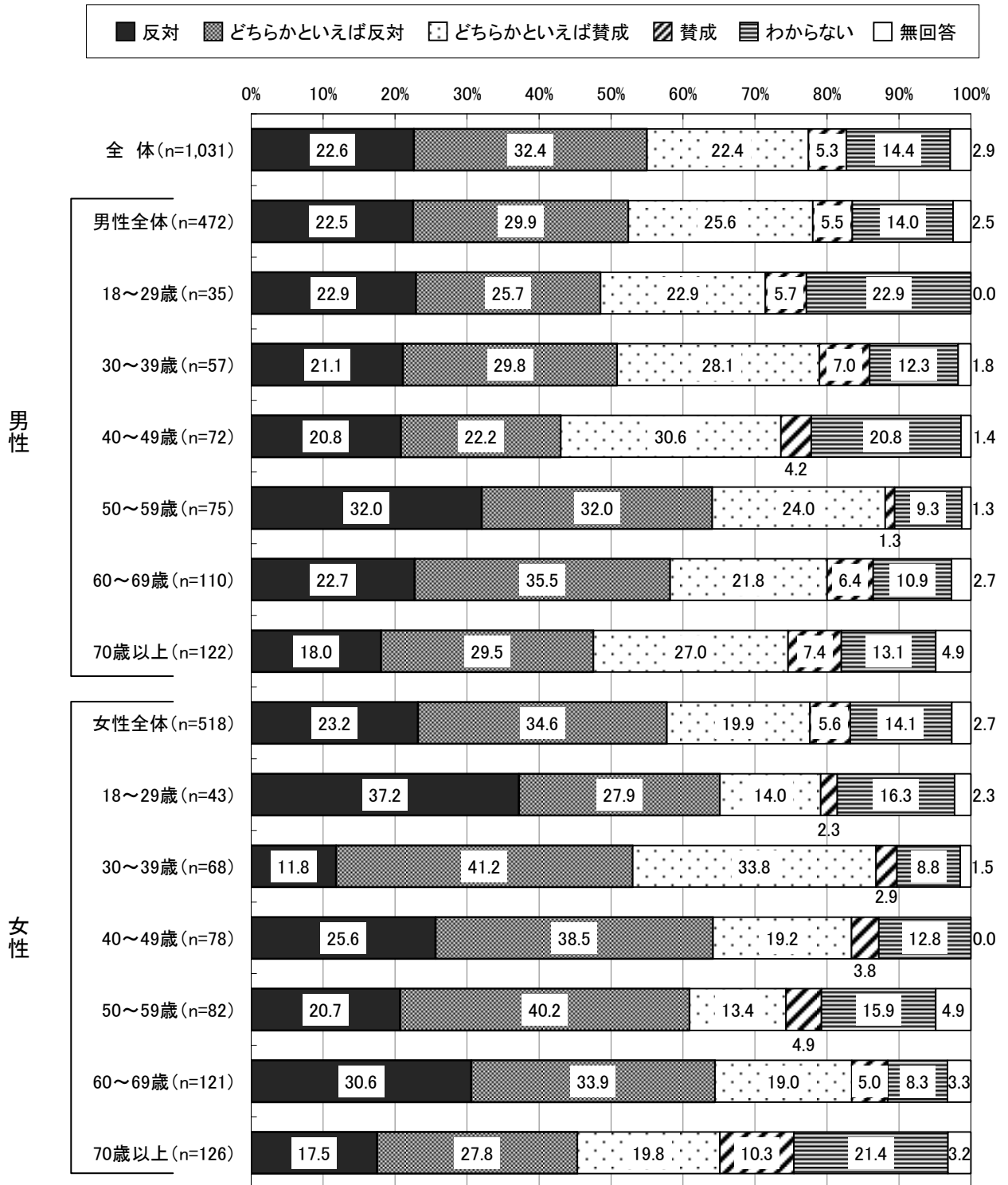
「男は仕事、女は家庭」といった考えについて聞いた結果、最も多かったのは、「どちらかといえば反対」(32.4%)であった。次いで、「反対」(22.6%)、「どちらかといえば賛成」(22.4%)、「わからない」(14.4%)、「賛成」(5.3%)が続く。「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた《反対派》が、半数を超える結果となった。

過去調査と比較すると、前回(平成20年)より《反対派》が若干ではあるが減少する結果となった。



【性別・年齢別】「男は仕事、女は家庭」といった考えについて

性別・年齢別にみると、すべての性別・年齢で、《反対派》が《賛成派》を上回る結果となった。
 《反対派》の比率は全体的にみると男性よりも女性の方が高い。特に、女性の18歳～29歳、40歳代、60歳代で比率が高くなっている。ただし、50歳代では女性よりも男性の比率が高い。また、70歳以上では、男女ともに《反対派》の比率が半数を割っている。
 「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成派》は男女ともに30歳代で最も高くなっている。

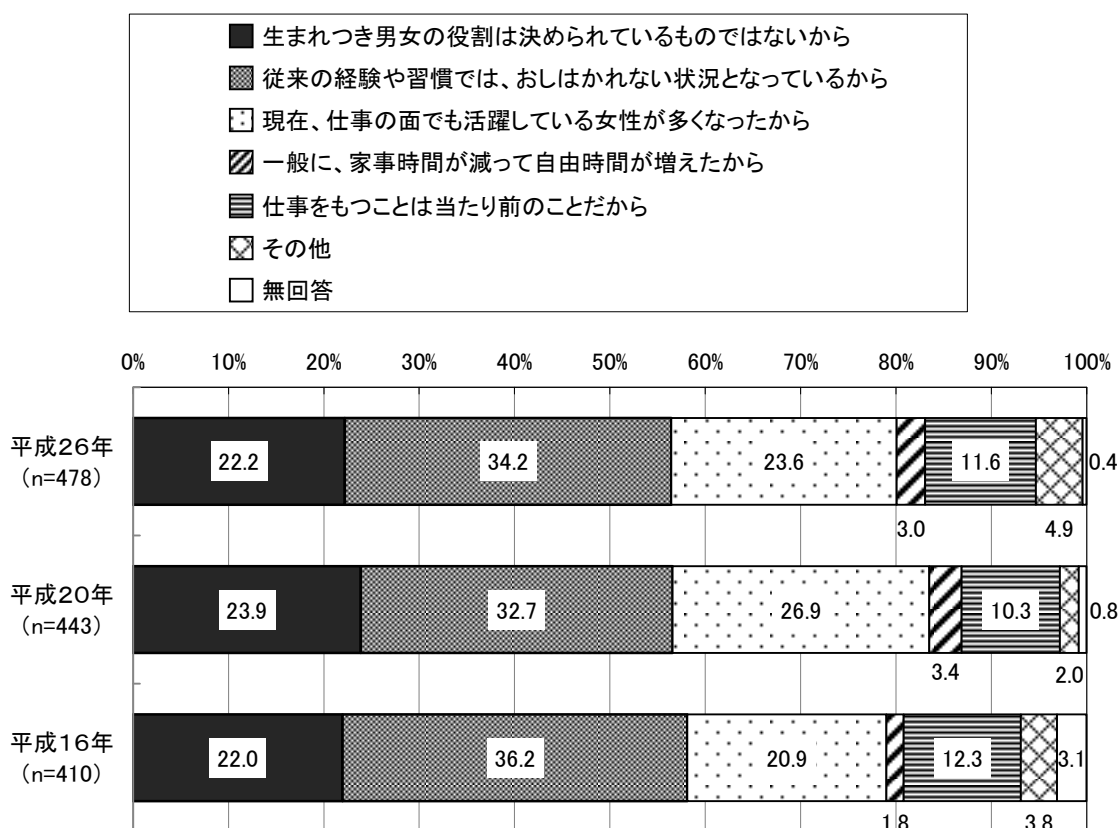


(2) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由

問25 問24で「1.反対」または「2.どちらかといえば反対」とお答えの方にお伺いします。その理由は次のどれですか。【1つだけ選んでください】

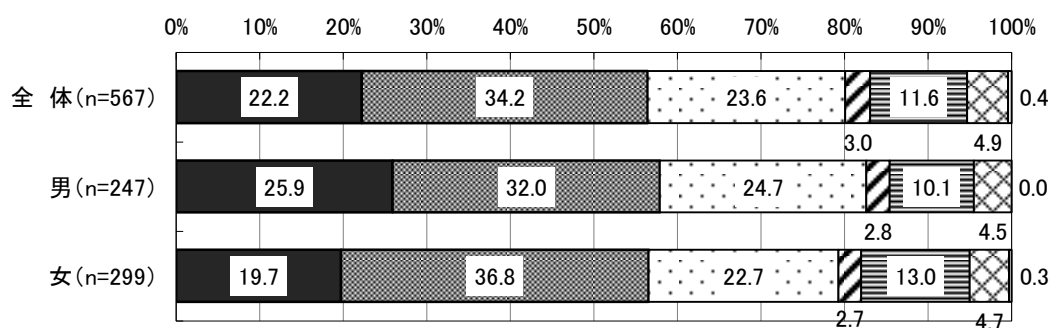
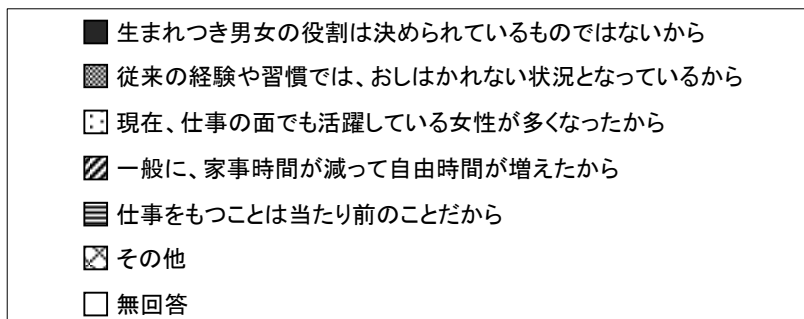
「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由を聞いた結果、最も多かったのは、「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」(34.2%)であった。次いで、「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」(23.6%)、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」(22.2%)、「仕事をもつことは当たり前のことだから」(11.6%)、「一般に、家事時間が減って自由時間が増えたから」(3.0%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」、「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」は前回（平成20年）から比率が低くなっている。反対に、「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」、「仕事をもつことは当たり前のことだから」は前回調査より比率が高くなっている。



【性別】「男は仕事、女は家庭」といった考えに「反対する」理由

性別にみると、男女とも「従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから」が全体と同じく1位となっているが、2位は、女性が「現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから」で、男性が「生まれつき男女の役割は決められているものではないから」となっている。また、女性では男性に比べ、「仕事をもつことは当たり前のことだから」も比較的高い比率となった。

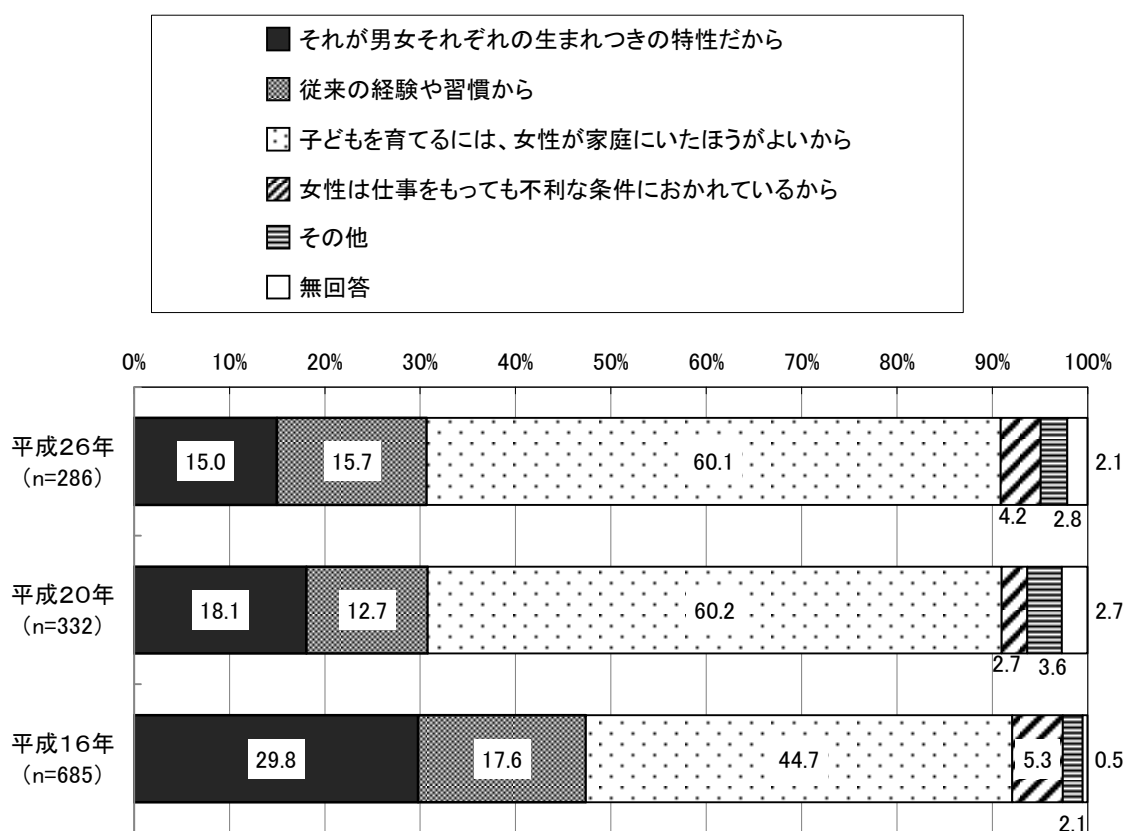


(3) 「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由

問26 問24で「3.どちらかといえば賛成」または「4.賛成」とお答えの方にお伺いします。その理由は次のどれですか。【1つだけ選んでください】

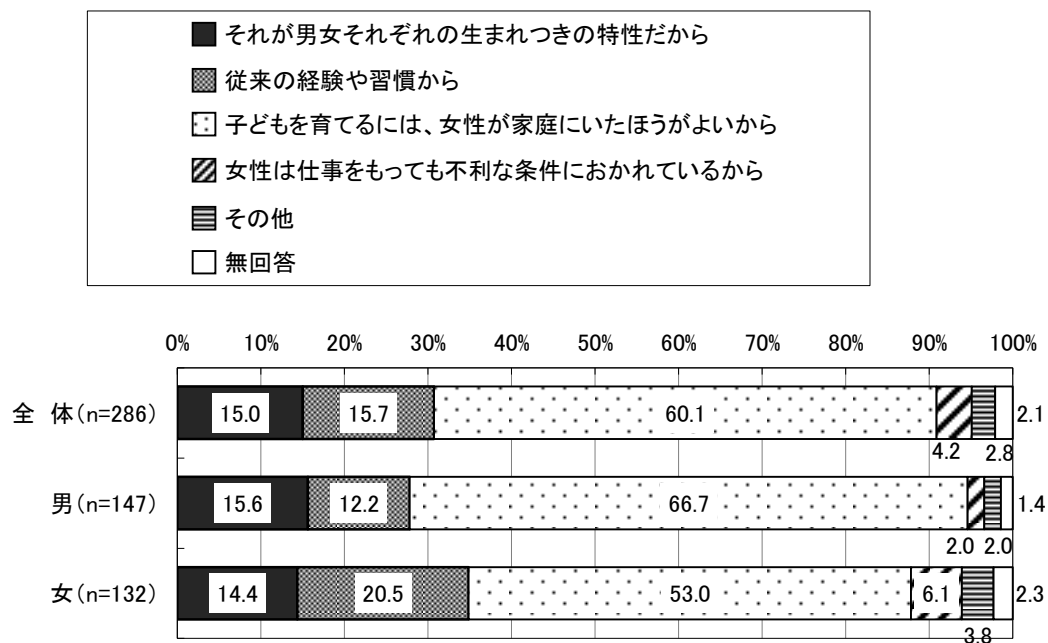
「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由を聞いた結果、最も多かったのは、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」(60.1%)であった。次いで、「従来の経験や習慣から」(15.7%)、「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」(15.0%)、「女性は仕事をもっても不利な条件におかれているから」(4.2%)が続く。

過去の調査結果と比較すると、「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」は前回(平成20年)調査よりほぼ比率に変わりはない。「従来の経験や習慣から」、「女性は仕事をもっても不利な条件におかれているから」で若干比率が高くなっており、「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」で低くなっている。



【性別】「男は仕事、女は家庭」といった考えに「賛成する」理由

性別にみると、男女とも「子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから」が全体と同じく1位となっているが、2位は、女性は「従来の経験や習慣から」で、男性が「それが男女それぞれの生まれつきの特性だから」となっている。また、女性では男性に比べ、「女性は仕事をもっても不利な条件におかれているから」も比較的高い比率となった。

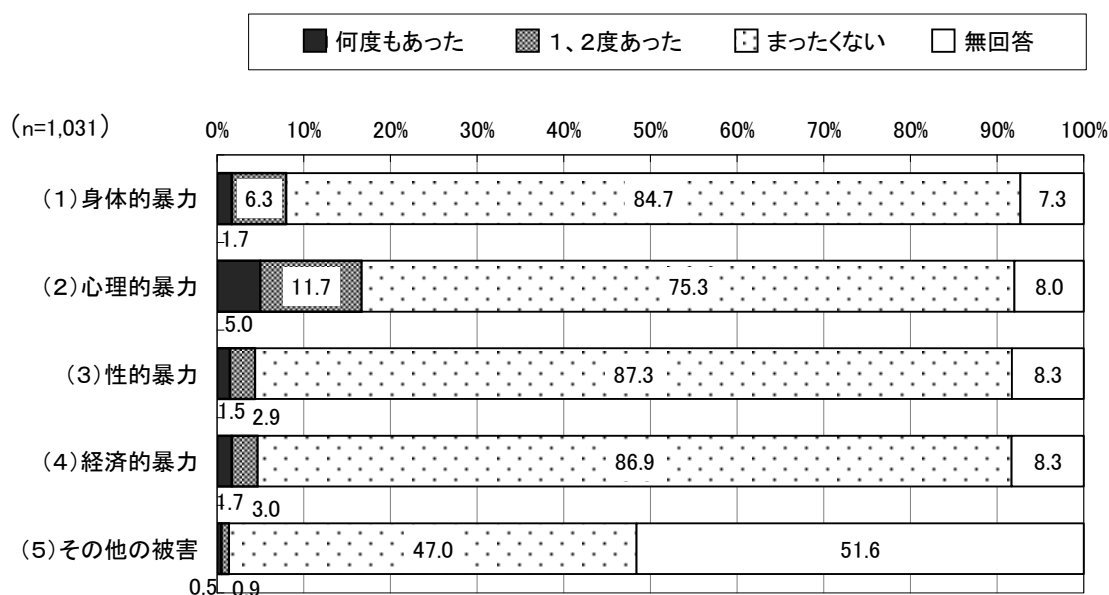


(4) パートナー(配偶者・恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験

問27 あなたはこれまでに、あなたのパートナー(配偶者・恋人)から次のようなことをされたことがありますか。

パートナー(配偶者・恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験を聞いた結果、最も多かったのは、どの項目でも「まったくない」であった。次いで、「1、2度あった」、「何度もあった」が続く。項目別に比べると、心理的暴力を受けた経験がある人の比率が他と比べて高くなっている。

- (1) 身体的暴力(殴る／物を投げる／首を絞める／タバコの火を押し付ける等)
- (2) 心理的暴力(暴言を吐く／大事なものを壊す／交友関係を監視・制限する等)
- (3) 性的暴力(性行為を強要する／避妊に協力しない／ポルノを見せる等)
- (4) 経済的暴力(生活費を渡さない／女性が働き収入を得ることを妨げる／借金を重ねる等)
- (5) その他の被害

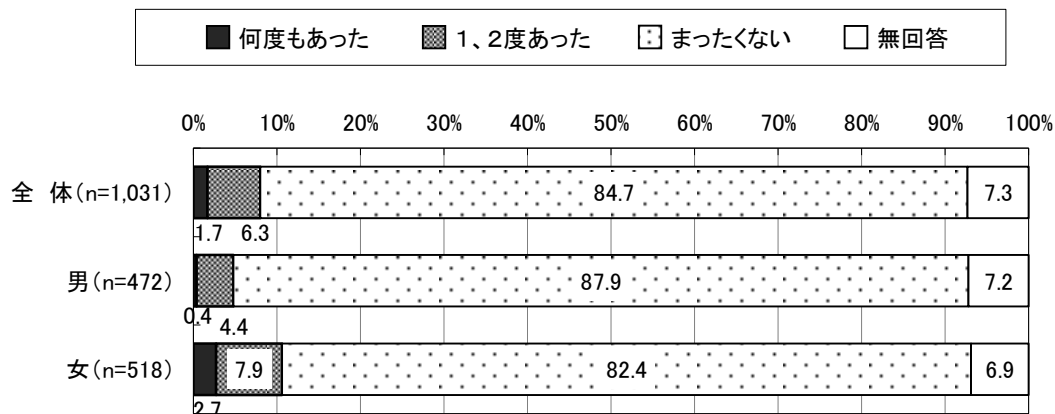


その他の被害では、「話をしない」、「家庭内の事にまったく無関心」、「浮気」、「働かない」などが挙げられた。

【性別】パートナー(配偶者・恋人)からされたドメスティック・バイオレンスの経験

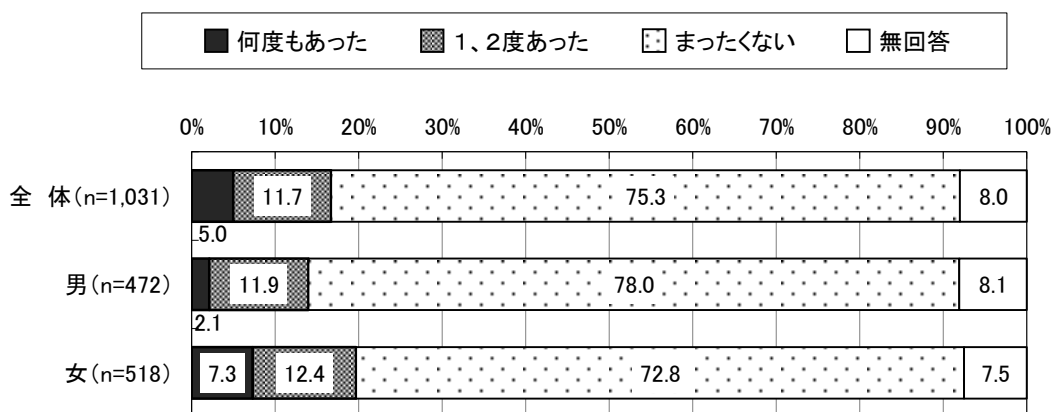
(1) 身体的暴力(殴る／物を投げる／首を絞める／タバコの火を押し付ける等)

「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「何度もあった」、「1、2度あった」ともに被害にあっているのは、男性よりも女性の方で比率が高い。



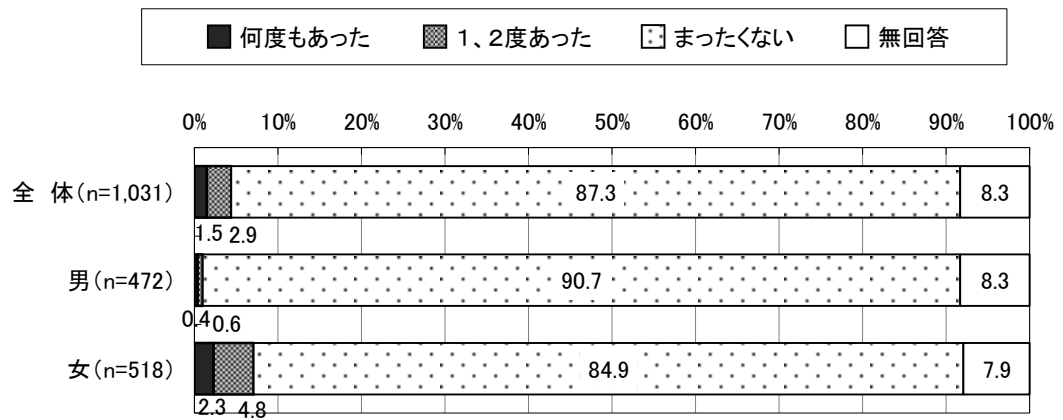
(2) 心理的暴力(暴言を吐く／大事なものを壊す／交友関係を監視・制限する等)

「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「1、2度あった」は、男女にあまり差は見られない。「何どもあった」は、男性より女性の方で比率が高いのが目立つ。



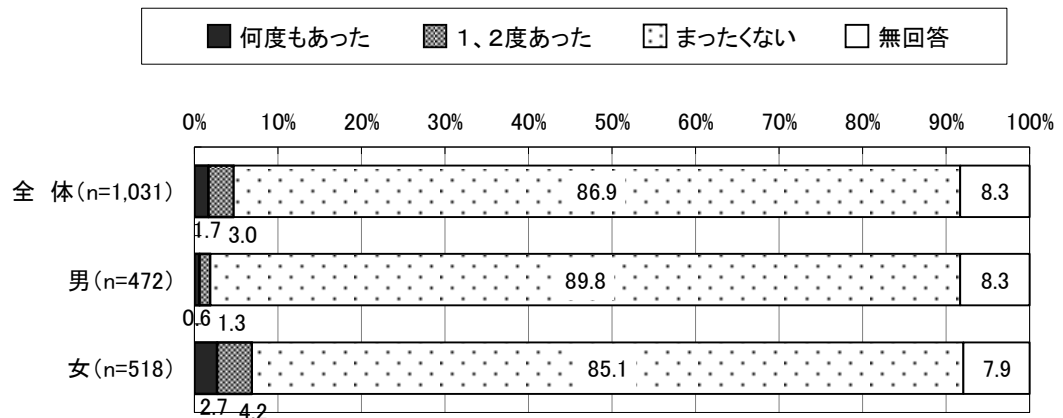
(3) 性的暴力(性行為を強要する／避妊に協力しない／ポルノを見せる等)

「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「何度もあった」、「1、2度あった」ともに被害にあっているのは、男性よりも女性の方で比率が高い。



(4) 経済的暴力(生活費を渡さない／女性が働き収入を得ることを妨げる／借金を重ねる等)

「まったくない」の比率が圧倒的に高いが、「何どもあった」、「1、2度あった」ともに被害にあっているのは、男性よりも女性の方で比率が高い。



7 防災について

(1) 地震や火災に備えてとっている対策

問28 あなたの家では、現在、地震や火災に備えてどのような対策をとっていますか。
【あてはまるものをいくつでも選んでください】

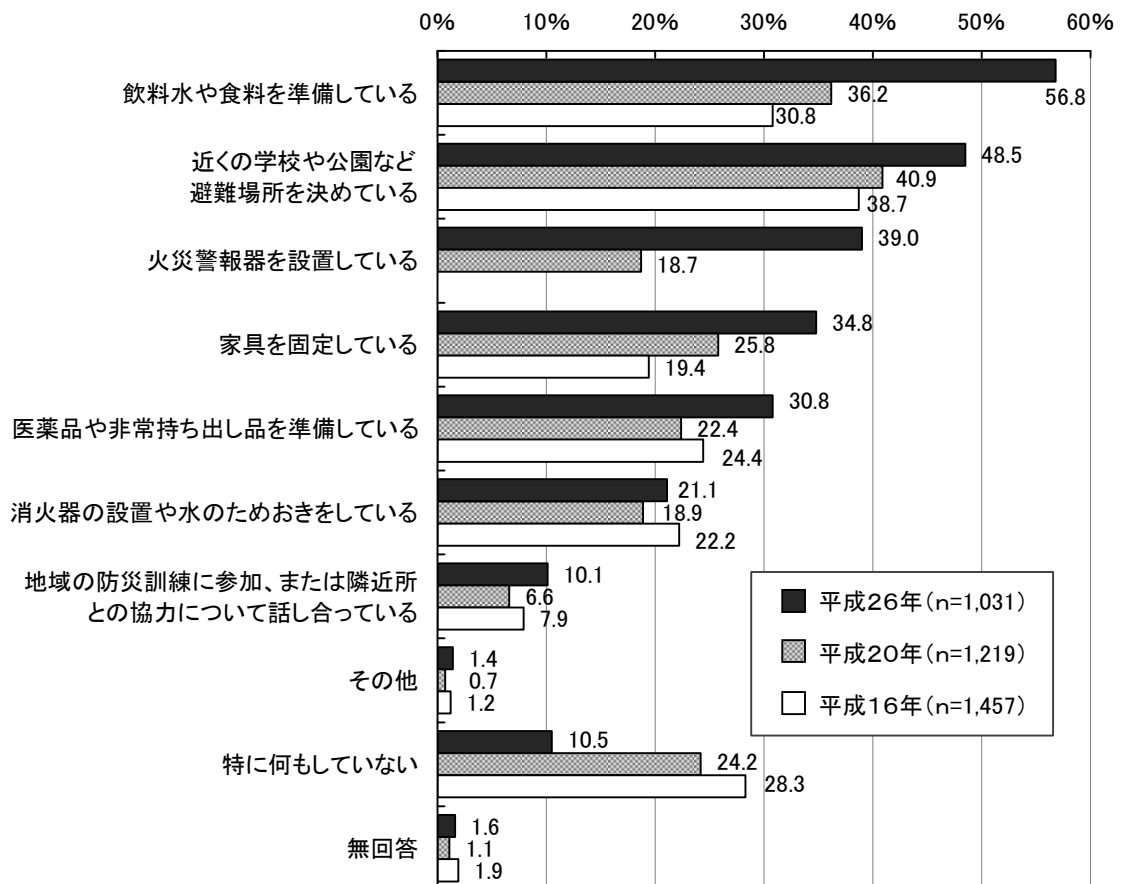
地震や火災に備えてとっている対策を聞いた結果、最も多かったのは、「飲料水や食料を準備している」(56.8%)であった。次いで、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」(48.5%)、「火災警報器を設置している」(39.0%)、「家具を固定している」(34.8%)、「医薬品や非常持ち出し品を準備している」(30.8%)、「消火器の設置や水のためおきをしている」(21.1%)が続く。

過去の調査と比較すると、「特に何もしていない」以外のすべての項目で前回(平成20年)より比率が高くなっている。特に「飲料水や食料を準備している」、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」、「火災警報器を設置している」、「家具を固定している」の比率は年々増加し、前回調査より急激に高くなっているのが目立つ。また、「特に何もしていない」は前回調査より急激に減少している。

この結果は、平成23年の東日本大震災の影響により、市民の防災意識が強まっているためと推測される。

ただし、火災警報器に関しては、平成23年6月1日よりすべての住宅で設置が義務づけられているものであり、火災対策には課題が残る。

※「火災警報器を設置している」は前回調査から調査項目に加わったため、前々回(平成16年)のデータはない。



【住まいの地域別】地震や火災に備えてとっている対策

住まいの地域別にみると、「特に何もしていない」の比率は、座間が 17.0%と最も高く、反対に最も低い比率は立野台で 4.8%となっている。

全体で1位であった「飲料水や食料を準備している」は、新田宿・四ツ谷と座間を除くその他のすべての地域で 5 割を超え、最も比率が低かった座間でも 39.6%となっている。

全体で2位であった「近くの学校や公園など避難場所を決めている」は、ひばりが丘で 6 割を超え、最も比率が高くなっている。

「地域の防災訓練に参加、または隣近所との協力について話し合っている」は、入谷・明王で最も高く 16.4%となっている。反対に新田宿・四ツ谷と座間で比率が低いのが目立つ。

	%	全 体 【実 数】	場 近 所 の 学 校 や 公 園 な ど 避 難	家 具 を 固 定 し て い る	飲 料 水 や 食 料 を 準 備 し て い る	消 火 器 の 設 置 や 水 の た め お き を し て い る	医 薬 品 や 非 常 持 ち 出 し 品 を 準 備 し て い る	地 域 の 防 災 訓 練 に 参 加 、 ま た は 隣 近 所 と の 協 力 に つ い て 話 し 合 っ て い る	火 災 警 報 器 を 設 置 し て い る	そ の 他	特 に 何 も し て い な い	無 回 答
全 体		1,031	48.5	34.8	56.8	21.1	30.8	10.1	39.0	1.4	10.5	1.6
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	42	47.6	23.8	47.6	16.7	31.0	-	33.3	2.4	14.3	2.4
	座間	53	37.7	32.1	39.6	13.2	15.1	1.9	34.0	3.8	17.0	-
	入谷・明王	152	46.7	41.4	59.2	27.6	38.2	16.4	46.1	2.0	11.8	0.7
	立野台	42	47.6	33.3	66.7	23.8	33.3	14.3	33.3	-	4.8	2.4
	緑ヶ丘	64	53.1	37.5	57.8	25.0	39.1	10.9	35.9	-	6.3	-
	相武台・栗原・広野台	110	44.5	31.8	56.4	20.0	28.2	8.2	37.3	0.9	14.5	3.6
	相模が丘	205	45.9	34.6	61.0	18.0	30.2	6.3	42.4	2.0	8.3	2.9
	小松原	30	43.3	36.7	53.3	23.3	23.3	6.7	36.7	-	16.7	-
	ひばりが丘	121	63.6	35.5	59.5	23.1	33.1	14.9	33.1	1.7	9.1	-
	東原・さがみ野	89	44.9	37.1	50.6	18.0	23.6	9.0	38.2	-	9.0	2.2
	栗原中央・西栗原・南栗原	117	49.6	32.5	57.3	20.5	33.3	12.0	39.3	0.9	10.3	1.7
無回答	6	66.7	-	50.0	33.3	-	16.7	66.7	-	-	-	

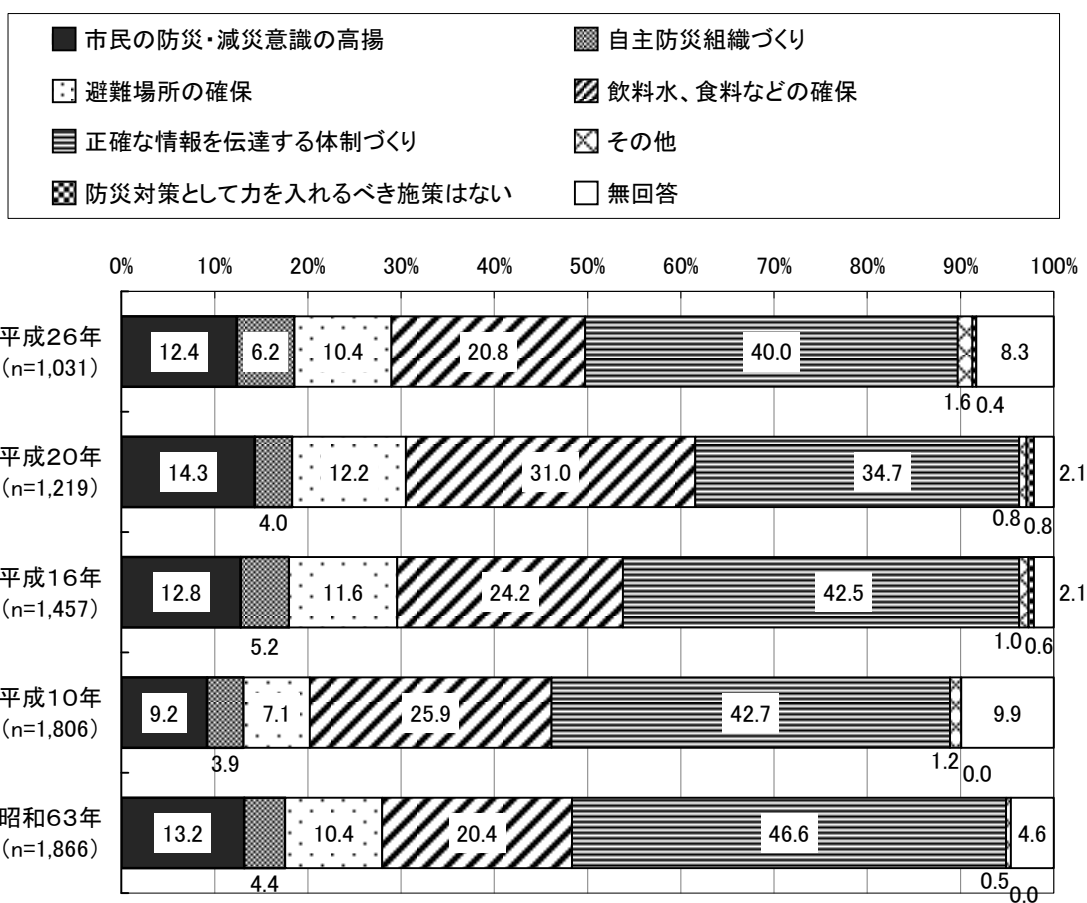
(2) 防災対策として力を入れるべき施策

問29 あなたは、防災対策として座間市が一番力を入れるべき施策は何だと考えますか。【1つだけ選んでください】

防災対策として力を入れるべき施策を聞いた結果、最も多かったのは、「正確な情報を伝達する体制づくり」(40.0%)であった。次いで、「飲料水、食料などの確保」(20.8%)、「市民の防災・減災意識の高揚」(12.4%)、「避難場所の確保」(10.4%)、「自主防災組織づくり」(6.2%)が続く。

過去の調査と比較すると、「正確な情報を伝達する体制づくり」は、年々減少傾向にあったが、今回(平成26年)調査では増加がみられた。反対に「飲料水、食料などの確保」は増加傾向にあったものが今回調査より減少に転じている。

ただし、「正確な情報を伝達する体制づくり」、「飲料水、食料などの確保」、「市民の防災意識の高揚」の順で比率が高いことに変わりはない。

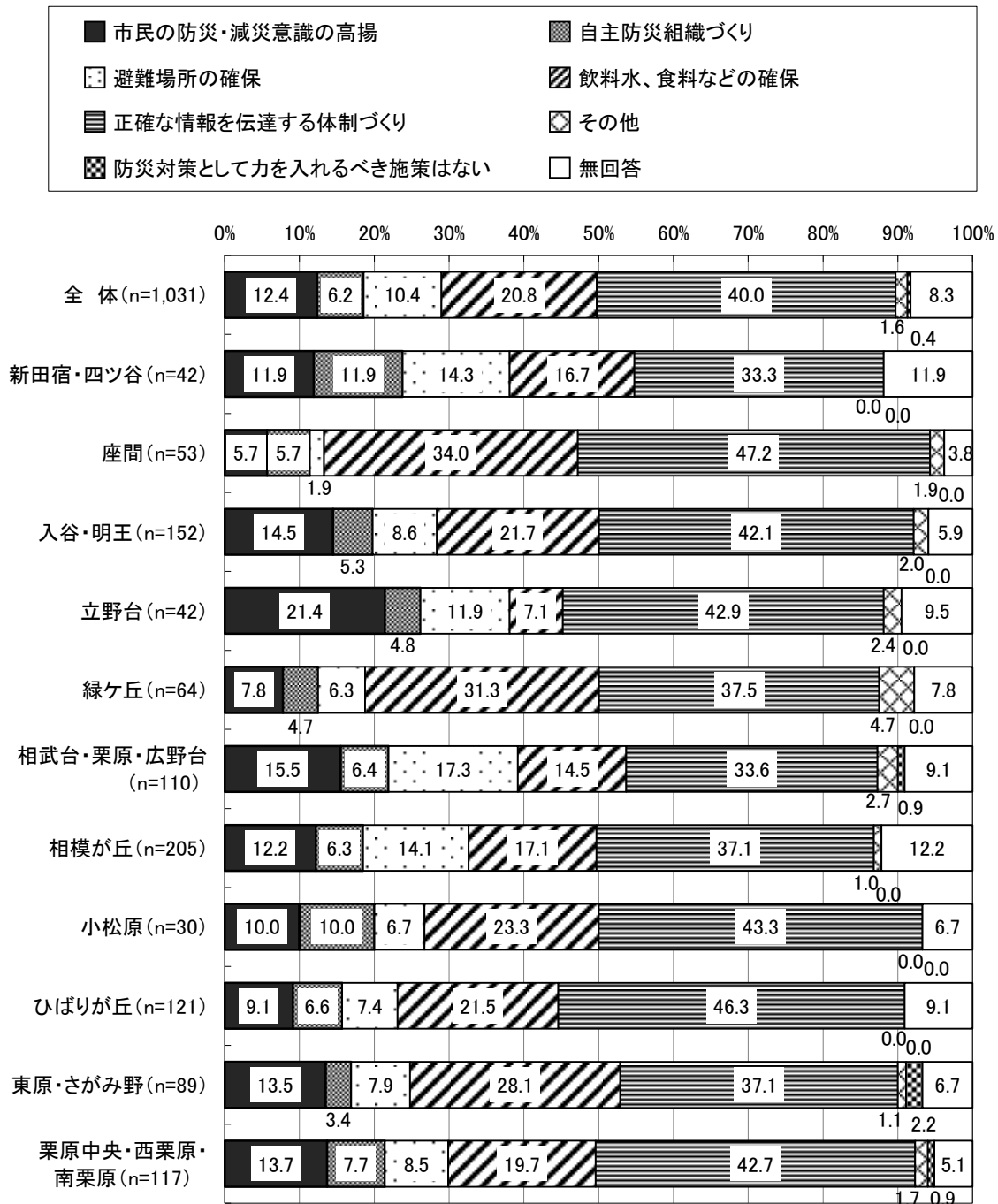


【住まいの地域別】防災対策として力を入れるべき施策

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「正確な情報を伝達する体制づくり」は、座間で最も比率が高く、次いでひばりが丘の順であった。反対に、新田宿・四ツ谷、相武台・栗原・広野台で比較的低かった。

全体で2位だった「飲料水、食料などの確保」は、座間、緑ヶ丘で比率が高くなっている。反対に、立野台は7.1%で、他地域に比べ比率の低さが目立つ。

全体で3位だった「市民の防災意識の高揚」は、立野台で最も高かった。反対に、座間が最も低い比率となった。

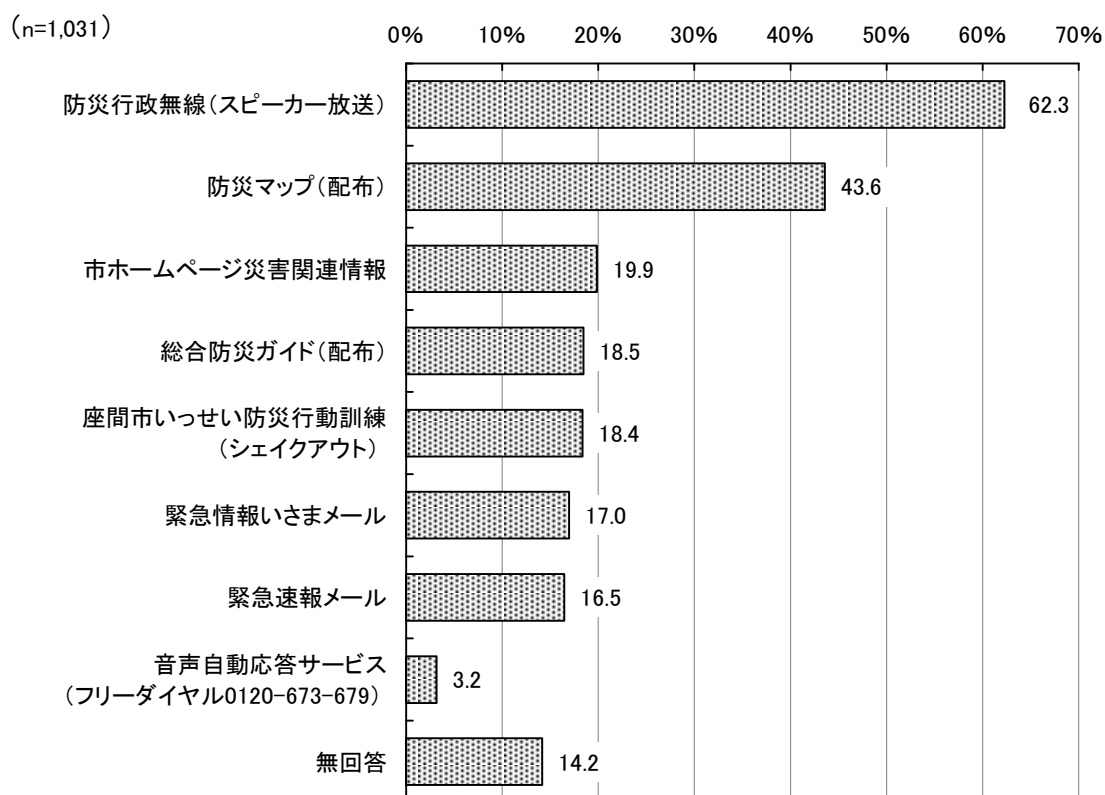


(3) 防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度

問30 あなたは、座間市が提供・実施している、防災・減災対策や災害時の情報伝達手段についてご存じですか。【所有や登録の有無にかかわらず、ご存じのものをいくつでも選んでください】

防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度を聞いた結果、最も多かったのは、「防災行政無線(スピーカー放送)」(62.3%)であった。次いで、「防災マップ(配布)」(43.6%)、「市ホームページ災害関連情報」(19.9%)、「総合防災ガイド(配布)」(18.5%)、「座間市いっせい防災行動訓練(シェイクアウト)」(18.4%)、「緊急情報いさまメール」(17.0%)、「緊急速報メール」(16.5%)が続く。

「防災行政無線(スピーカー放送)」と「防災マップ(配布)」で特に比率が高く、反対に「音声自動応答サービス」は極端に認知度が低くなっている。



【住まいの地域別】防災・減災対策や災害時の情報伝達手段の認知度

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「防災行政無線(スピーカー放送)」は、すべての地域で5割を超え、特に栗原中央・西栗原・南栗原が最も比率が高く7割を超えている。

全体で2位だった「防災マップ(配布)」は、立野台で最も高く、入谷・明王、小松原で5割を超えている。反対に、新田宿・四ツ谷で比較的低い比率となっている。

全体で3位だった「市ホームページ災害関連情報」は、小松原で比率の高さが目立つ。

%		全 体 【実数】	市 ホ ー ム ペ ー ジ 災 害 関 連 情 報	防 災 行 政 無 線 (ス ピ ー カ ー 放 送)	音 声 自 動 応 答 サ ー ビ ス (フ リ ー ダ イ ヤ ル)	緊 急 情 報 い さ ま メ ー ル	緊 急 速 報 メ ー ル	防 災 マ ッ プ (配 布)	総 合 防 災 ガ イ ド (配 布)	座 間 市 い っ せ い 防 災 行 動 訓 練 (シ ェ イ ク ア ウ ト)	無 回 答
全 体		1,031	19.9	62.3	3.2	17.0	16.5	43.6	18.5	18.4	14.2
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	42	28.6	50.0	-	11.9	23.8	28.6	9.5	14.3	14.3
	座間	53	18.9	54.7	-	13.2	13.2	32.1	18.9	18.9	15.1
	入谷・明王	152	24.3	61.2	7.2	23.7	15.8	51.3	21.7	26.3	13.2
	立野台	42	19.0	69.0	4.8	31.0	23.8	52.4	26.2	19.0	4.8
	緑ヶ丘	64	18.8	56.3	3.1	23.4	26.6	37.5	12.5	17.2	18.8
	相武台・栗原・広野台	110	17.3	66.4	1.8	12.7	20.0	34.5	20.0	20.0	13.6
	相模が丘	205	17.6	65.4	3.4	10.7	14.1	47.3	17.6	16.1	16.1
	小松原	30	33.3	56.7	-	6.7	13.3	50.0	13.3	10.0	13.3
	ひばりが丘	121	14.9	64.5	1.7	18.2	14.0	46.3	17.4	15.7	15.7
	東原・さがみ野	89	18.0	52.8	1.1	19.1	12.4	42.7	18.0	14.6	18.0
	栗原中央・西栗原・南栗原	117	21.4	70.1	5.1	18.8	14.5	45.3	20.5	20.5	9.4
	無回答	6	33.3	50.0	-	-	33.3	-	33.3	16.7	-

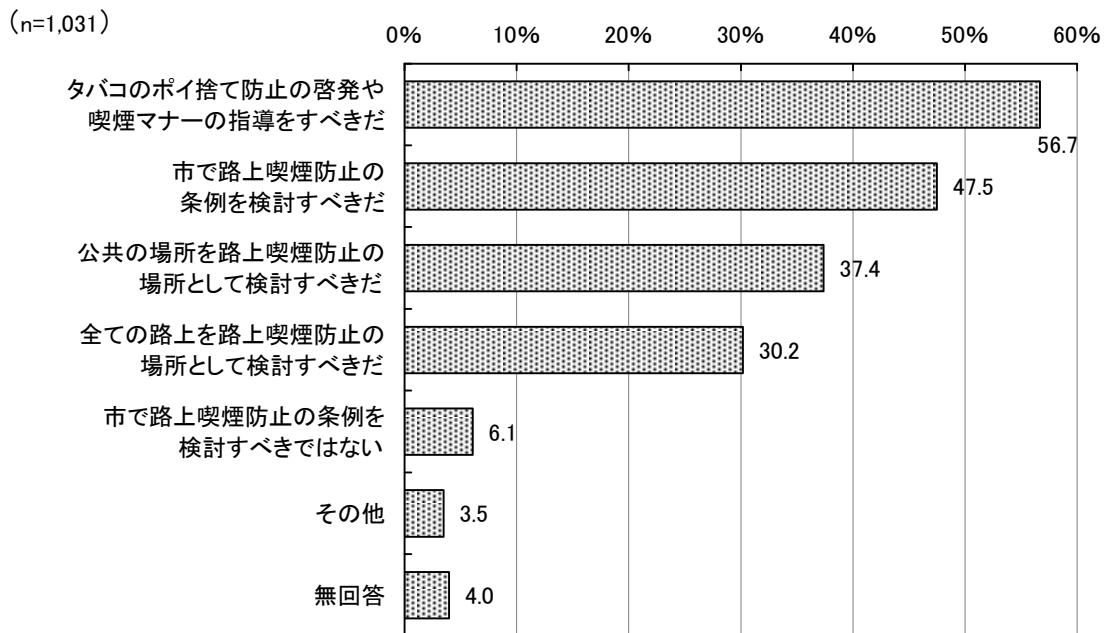
8 禁煙マナーについて

(1) 路上の喫煙防止に係る条例の必要性について

問31 あなたは、路上での喫煙防止に係る条例の必要についてどう思いますか。【喫煙年齢や喫煙の有無にかかわらず、いくつでも選んで記入してください】

路上の喫煙防止に係る条例の必要性について聞いた結果、最も多かったのは、「タバコのポイ捨て防止の啓発や喫煙マナーの指導をすべきだ」(56.7%)であった。次いで、「市で路上喫煙防止の条例を検討すべきだ」(47.5%)、「公共の場所を路上喫煙防止の場所として検討すべきだ」(37.4%)、「全ての路上を路上喫煙防止の場所として検討すべきだ」(30.2%)が続く。

「市で路上喫煙防止の条例を検討すべきではない」は 6.1%と最も低く、市に対して何らかの路上喫煙防止の取り組みが期待されている様子が見受けられる。



【性別・年齢別】路上の喫煙防止に係る条例の必要性について

性別・年齢別にみると、全体で1位だった「タバコのポイ捨て防止の啓発や喫煙マナーの指導をすべきだ」は、男性40歳代と女性18～29歳以外で5割を超え、最も低いのは男性40歳代の37.5%となった。

全体で2位だった「市で路上喫煙防止の条例を検討すべきだ」は、女性より男性で高い比率となっており、男性50歳代で最も比率が高い。

全体で3位だった「公共の場所を路上喫煙防止の場所として検討すべきだ」は、女性の30歳代で最も高く、反対に男性18～29歳で最も低くなっている。

%		全 体 【実 数】	例 市 を 検 討 す べ き だ	公 共 の 場 所 と し て 検 討 す べ き だ	全 て の 場 所 と し て 検 討 す べ き だ	例 市 を 検 討 す べ き だ	指 導 を す べ き だ	タ バ コ の ポ イ 捨 て 防 止	そ の 他	無 回 答
全 体		1,031	47.5	37.4	30.2	6.1	56.7	3.5	4.0	
性別・ 年齢	男 性	全体	472	52.1	36.0	27.3	9.3	51.1	3.6	2.8
		18～29歳	35	57.1	22.9	28.6	-	54.3	5.7	-
		30～39歳	57	54.4	36.8	33.3	7.0	50.9	5.3	1.8
		40～49歳	72	52.8	30.6	26.4	11.1	37.5	5.6	4.2
		50～59歳	75	58.7	30.7	28.0	9.3	56.0	2.7	1.3
		60～69歳	110	48.2	44.5	22.7	15.5	56.4	1.8	1.8
		70歳以上	122	49.2	38.5	27.9	6.6	50.8	3.3	4.9
		無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	-
	女 性	全体	518	44.0	39.2	32.8	3.1	61.4	3.7	4.8
		18～29歳	43	30.2	41.9	32.6	4.7	46.5	4.7	-
		30～39歳	68	45.6	47.1	32.4	5.9	64.7	5.9	1.5
		40～49歳	78	51.3	38.5	38.5	6.4	61.5	5.1	2.6
		50～59歳	82	45.1	40.2	31.7	2.4	62.2	4.9	6.1
		60～69歳	121	54.5	37.2	31.4	-	58.7	1.7	3.3
70歳以上		126	32.5	35.7	31.7	2.4	66.7	2.4	10.3	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-		

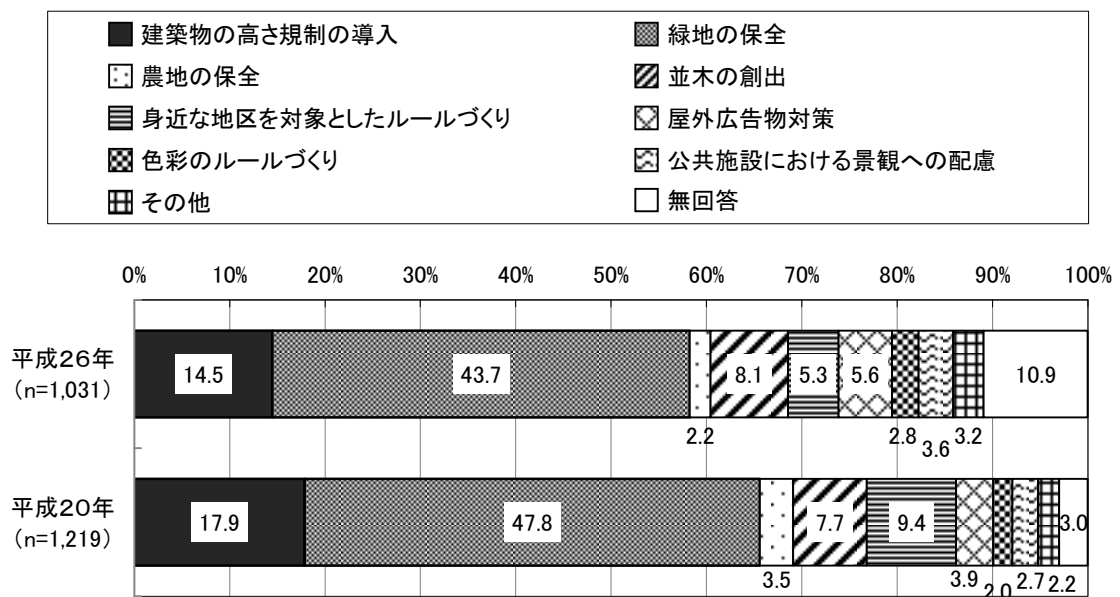
9 景観形成について

(1) 良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこと

問32 良好な都市景観、都市環境を形成するためには、どのようなことが必要だと思いますか。【1つだけ選んでください】

良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なことを聞いた結果、最も多かったのは、「緑地の保全」(43.7%)であった。次いで、「建築物の高さ規制の導入」(14.5%)、「並木の創出」(8.1%)、「屋外広告物対策」(5.6%)が続く。

過去の調査と比較すると、全体上位のものでは「緑地の保全」、「建築物の高さ規制の導入」、「身近な地区を対象としたルールづくり」で若干ながら比率が低くなっている。全体の順位について、1位2位は変わらないが、前回(平成20年)4位だった「並木の創出」が今回(平成26年)は3位に上がった。

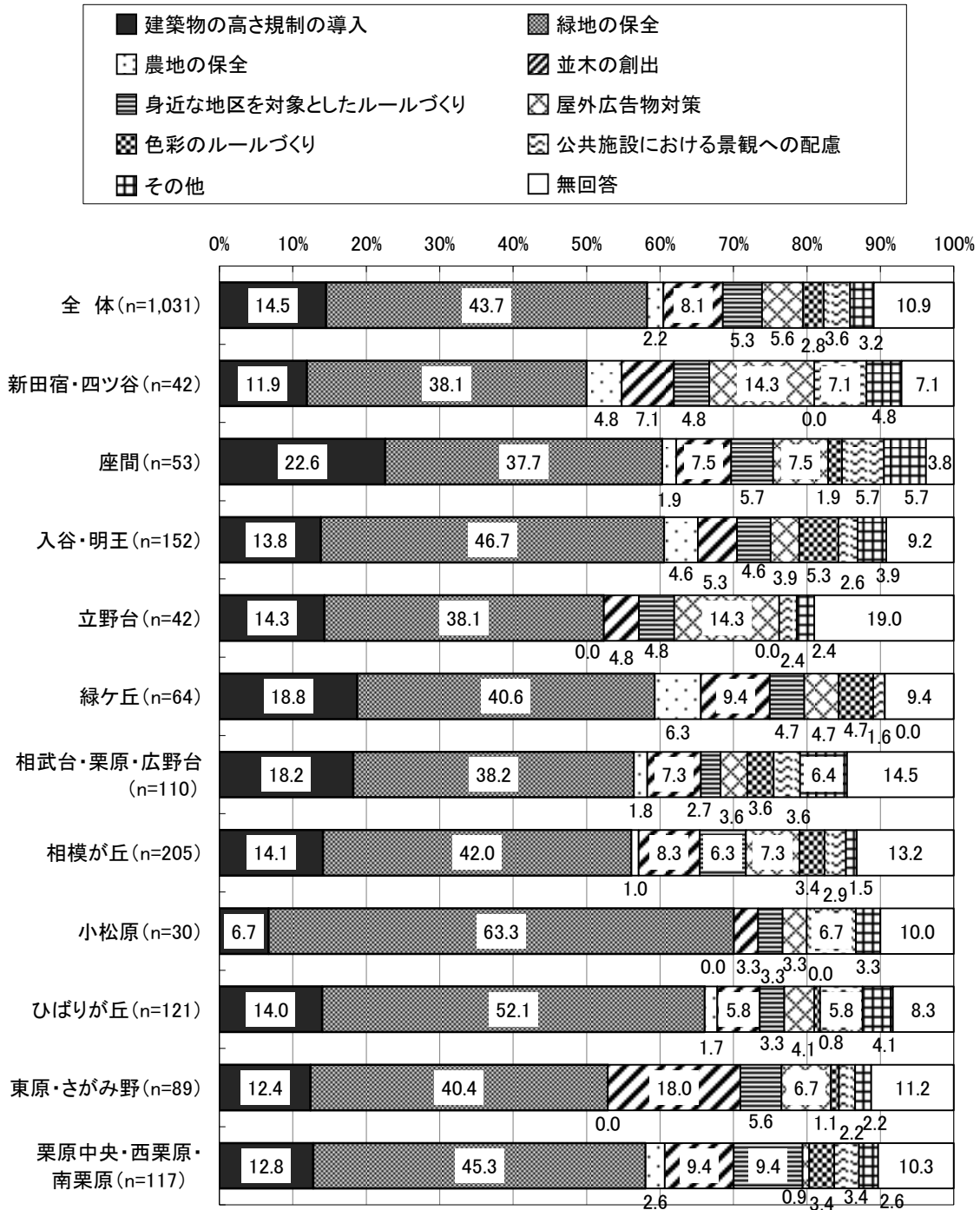


【住まいの地域別】 良好な都市景観・都市環境を形成するのに必要なこと

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「緑地の保全」は、小松原で最も比率が高く6割を超えた。また、ひばりが丘も比較的高い比率となっている。

全体で2位だった「建築物の高さ規制の導入」は、座間で最も比率が高い。反対に小松原の比率が他地域と比べ低いのが目立っている。

「農地の保全」、「並木の創出」、「屋外広告物対策」、「公共施設における景観への配慮」などは地域によってかなり差がみられる。

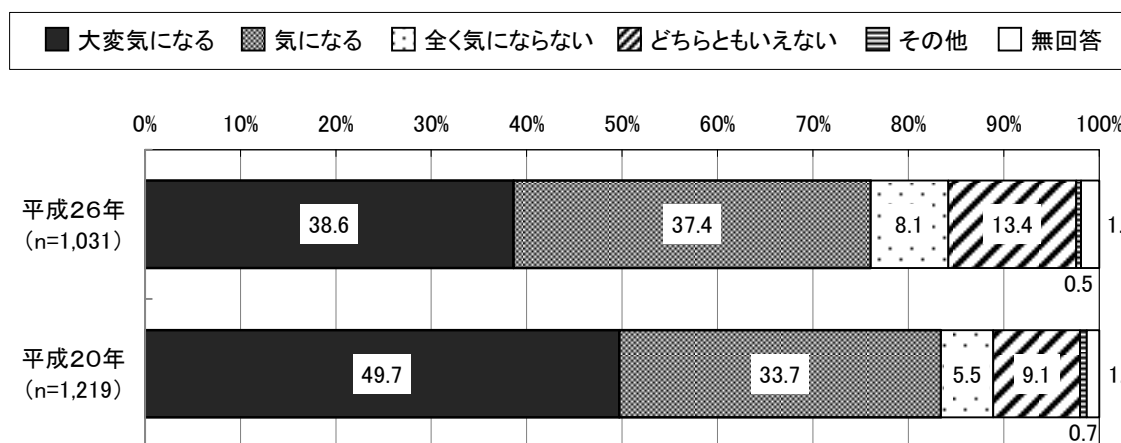


(2) 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

問33 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合、どう感じますか。【1つだけ選んでください】

住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方を聞いた結果、最も多かったのは、「大変気になる」(38.6%)であった。次いで、「気になる」(37.4%)、「どちらともいえない」(13.4%)、「全く気にならない」(8.1%)が続く。「大変気になる」と「気になる」を合わせた《気になる》は70%以上となった。

過去調査と比較すると、前回(平成20年)より、「気になる」が増加した以上に「大変気になる」が減少しているため、《気になる》は7.4ポイント減少となった。

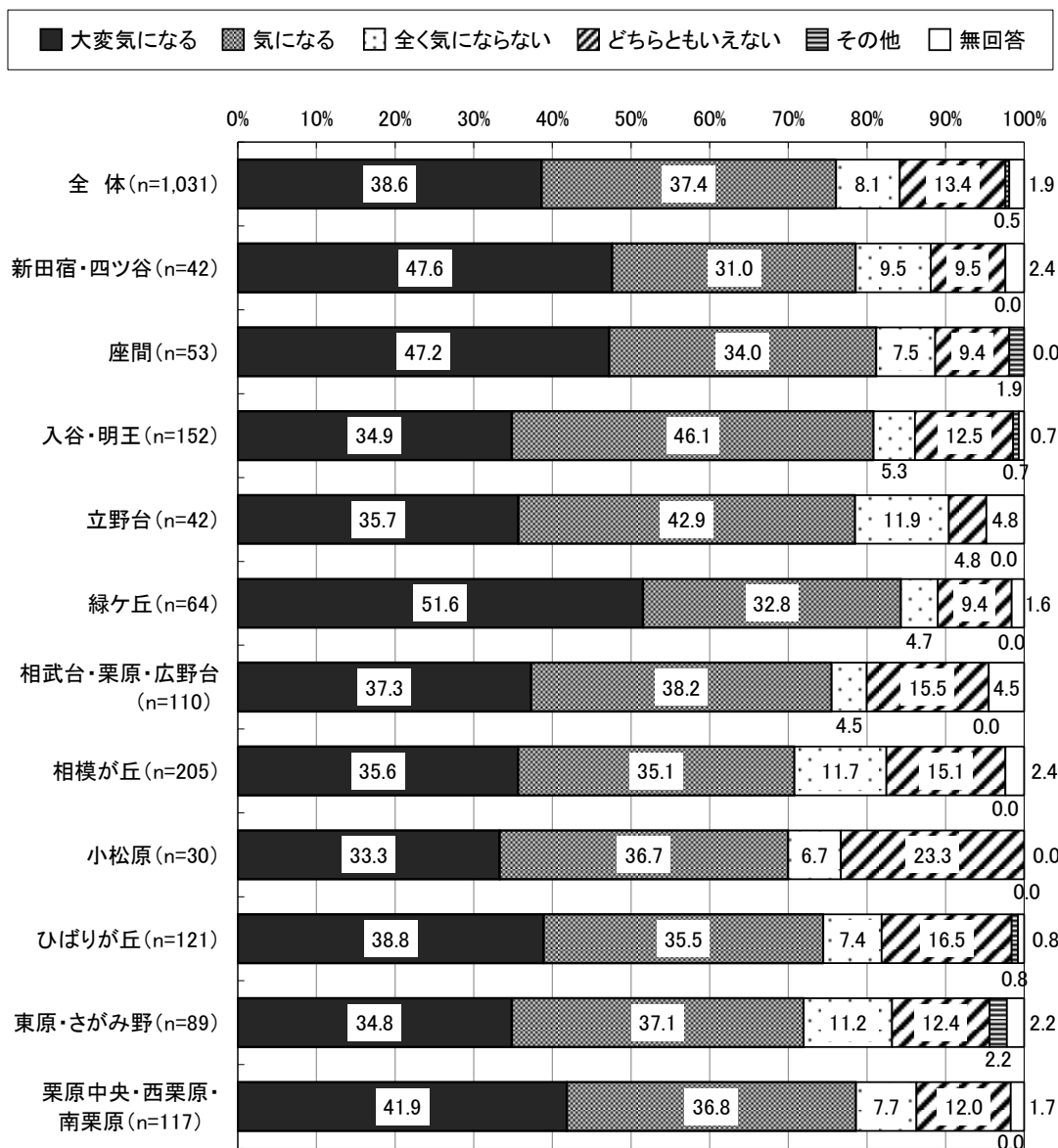


【住まいの地域別】住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「大変気になる」は、緑ヶ丘で 51.6%と最も比率が高く、新田宿・四ツ谷、座間、栗原中央・西栗原・南栗原は 40%台であった。

入谷・明王、立野台、相武台・栗原・広野台、小松原、東原・さがみ野では「気になる」が1位となっている。

「全く気にならない」は立野台で、「どちらともいえない」は小松原で、最も比率が高い。

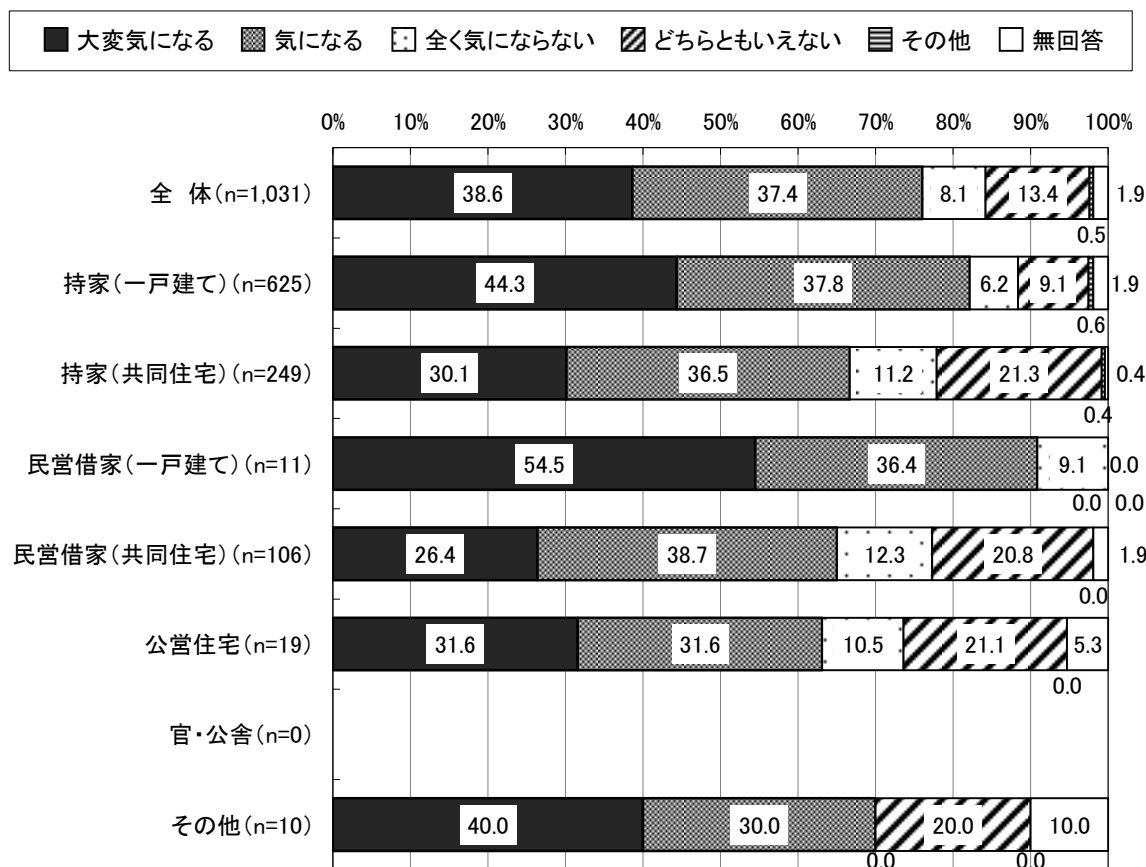


【住まいの形態別】住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合の感じ方

住まいの形態別にみると、「大変気になる」は、民営借家(一戸建て)で54.5%と最も比率が高く、また、持家(一戸建て)も比較的高くなっている。反対に民営借家(共同住宅)で26.4%と最も低い。持家、民営借家ともに、共同住宅より一戸建てで《気になる》比率が高くなっている。

「全く気にならない」は、一戸建てよりも共同住宅で比率が高い傾向がみられる。

※ただし、「民営借家(一戸建て)」と「公営住宅」はサンプル数が少ないため、極端な結果になりやすいことに留意する必要がある。

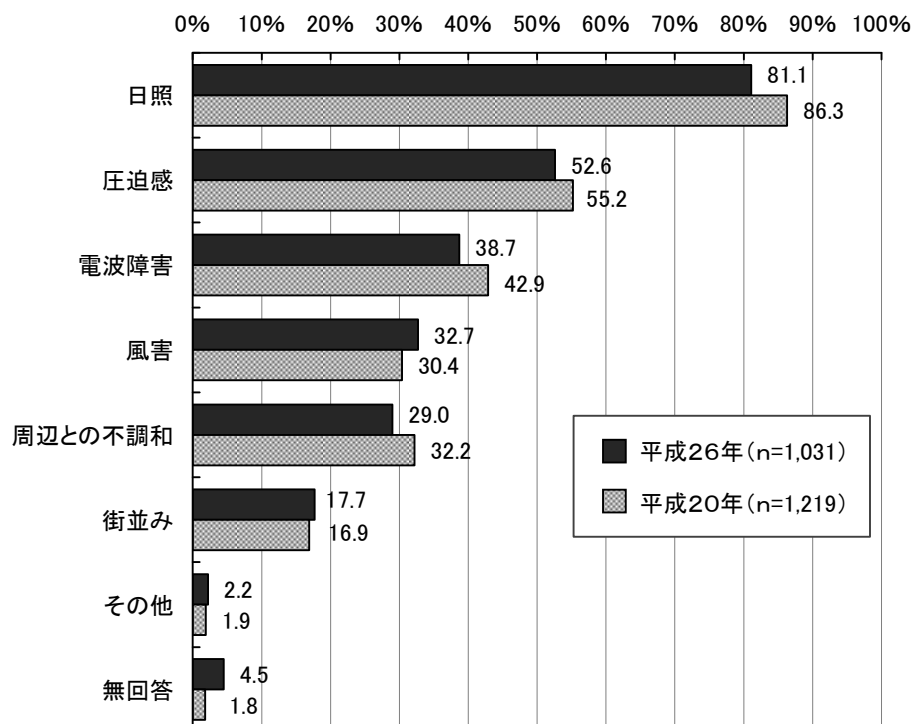


(3) 中高層建築物の具体的問題点

問34 中高層建築物の具体的な問題点は何だと思いますか。
【いくつでも選んでください】

中高層建築物の具体的な問題点を聞いた結果、最も多かったのは、「日照」(81.1%)であった。次いで、「圧迫感」(52.6%)、「電波障害」(38.7%)、「風害」(32.7%)、「周辺との不調和」(29.0%)が続く。

過去の調査と比較すると、「風害」と「街並み」で比率が高くなり、反対に「日照」、「圧迫感」、「電波障害」、「周辺との不調和」で比率が低くなっている。



【住まいの地域別】中高層建築物の具体的問題点

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「日照」は、小松原で 9 割を超え、比率が高いのが目立つ。他の地域でも 7 割以上となっており、極めて関心の高い問題といえる。

全体で2位だった「圧迫感」は、緑ヶ丘、立野台、栗原中央・西栗原・南栗原で比率が高いのが目立ち、反対に、小松原では比較的lowかった。

「風害」は相模が丘で比率が高いのが目立つ。

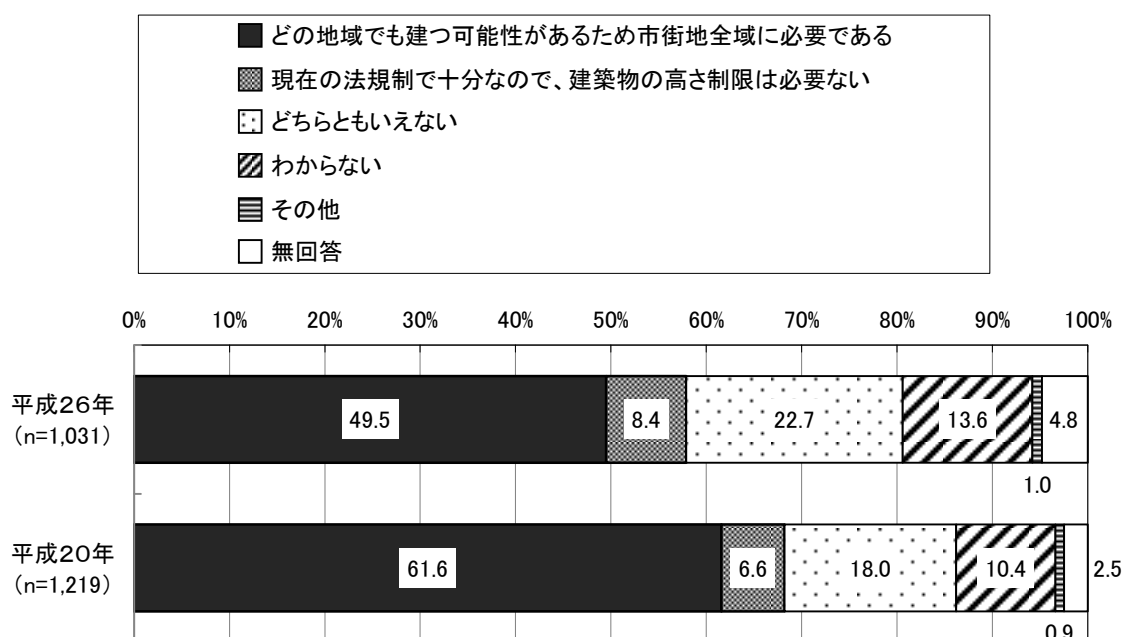
	%	全 体 【実 数】	日 照	圧 迫 感	電 波 障 害	風 害	周 辺 と の 不 調 和	街 並 み	そ の 他	無 回 答
全 体		1,031	81.1	52.6	38.7	32.7	29.0	17.7	2.2	4.5
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	42	83.3	50.0	38.1	33.3	38.1	19.0	4.8	2.4
	座間	53	79.2	52.8	24.5	18.9	30.2	18.9	-	7.5
	入谷・明王	152	82.2	53.3	39.5	27.6	36.2	23.7	2.6	1.3
	立野台	42	83.3	59.5	33.3	33.3	35.7	21.4	-	4.8
	緑ヶ丘	64	78.1	60.9	40.6	26.6	20.3	10.9	1.6	6.3
	相武台・栗原・広野台	110	83.6	52.7	42.7	31.8	32.7	19.1	1.8	4.5
	相模が丘	205	79.5	51.7	36.6	44.9	24.4	14.6	2.4	4.9
	小松原	30	90.0	40.0	36.7	23.3	16.7	20.0	-	-
	ひばりが丘	121	72.7	50.4	33.9	34.7	21.5	16.5	2.5	9.1
	東原・さがみ野	89	87.6	47.2	41.6	29.2	25.8	18.0	4.5	1.1
	栗原中央・西栗原・南栗原	117	84.6	58.1	46.2	31.6	35.0	15.4	1.7	5.1
	無回答	6	33.3	16.7	83.3	16.7	50.0	16.7	-	-

(4) 建築物の高さ制限の必要性について

問35 建築物の高さ制限の必要性についてどのように思いますか。
【1つだけ選んでください】

建築物の高さ制限の必要性についてどのように思うかを聞いた結果、最も多かったのは、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」(49.5%)であった。次いで、「どちらともいえない」(22.7%)、「わからない」(13.6%)、「現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない」(8.4%)が続く。

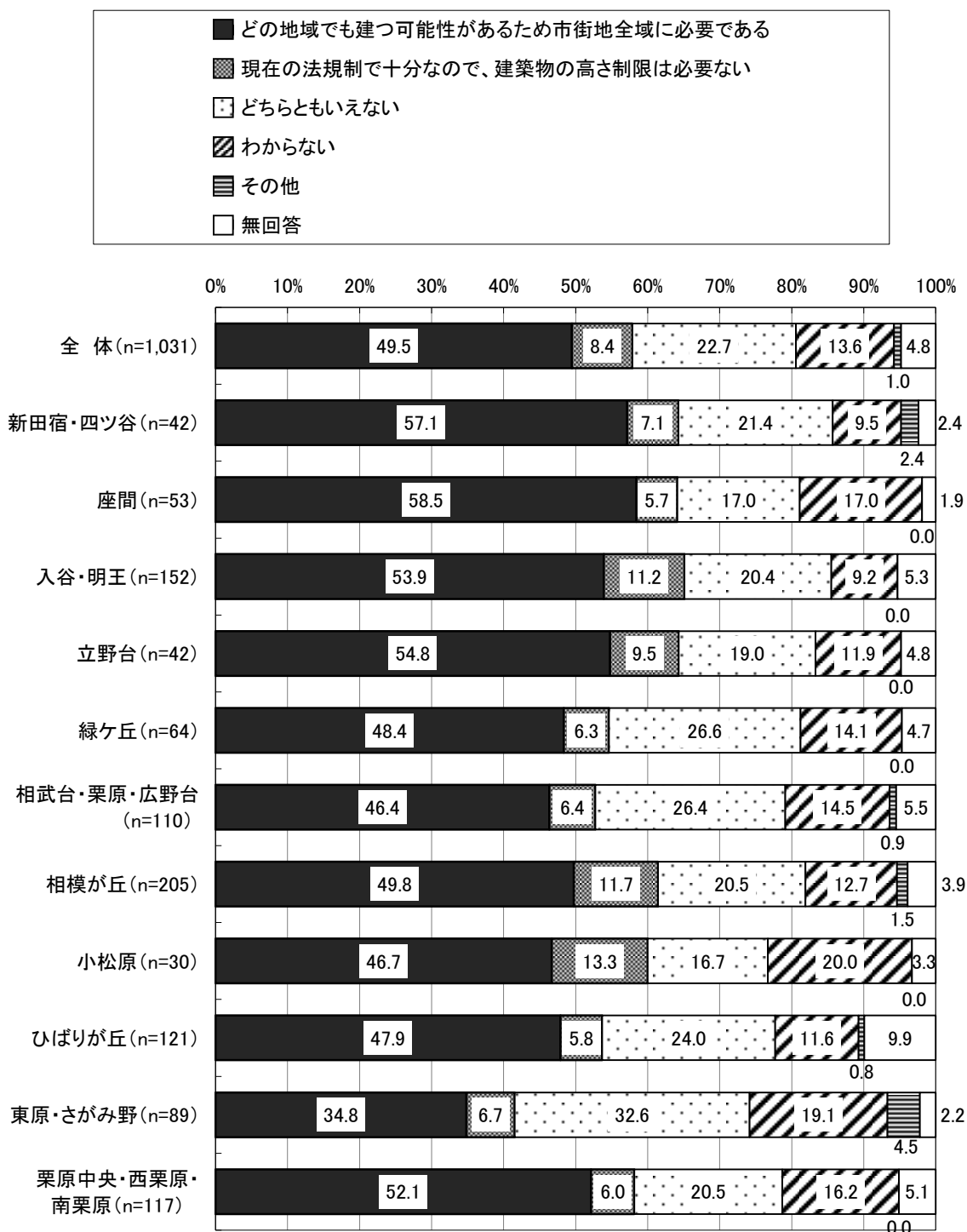
過去の調査と比較すると、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」が1位には変わらないが、前回(平成20年)より12.1ポイント減少している。



【住まいの地域別】建築物の高さ制限の必要性について

住まいの地域別にみると、「どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である」は、座間で最も高くなっている。反対に、東原・さがみ野で34.8%と目立って比率が低い。

「現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない」は、小松原、相模が丘、入谷・明王で比較的比率が高く、座間、ひばりが丘で比較的比率が低くなっている。



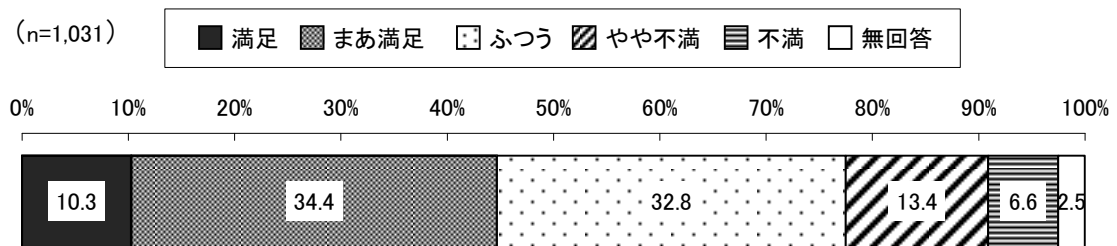
10 公園・広場・緑地について

(1) 自宅周辺の緑の満足度

問36 自宅周辺の緑に満足していますか。
【1つだけ選んでください】

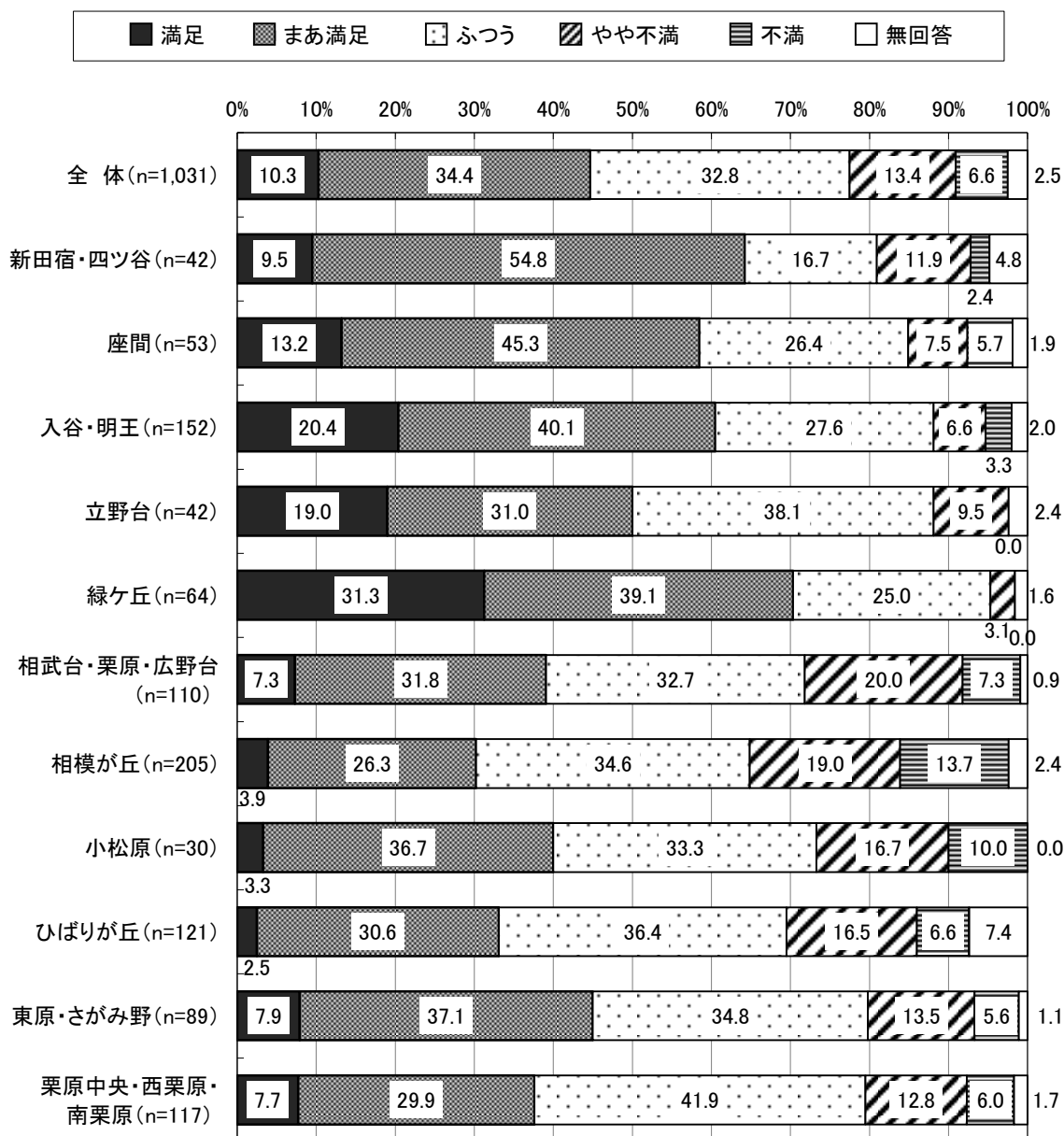
自宅周辺の緑の満足度を聞いた結果、最も多かったのは、「まあ満足」(34.4%)であった。次いで、「ふつう」(32.8%)、「やや不満」(13.4%)、「満足」(10.3%)が続く。「満足」と「まあ満足」を合わせた《満足》の回答は44.7%となっている。

(「満足」+「まあ満足」)－(「やや不満」+「不満」)を《自宅周辺の緑の満足度》とすると、《自宅周辺の緑の満足度》は、24.7ポイントとなった。



【住まいの地域別】 自宅周辺の緑の満足度

住まいの地域別にみると、「満足」と「まあ満足」を合わせた《満足》の回答は、緑ヶ丘、新田宿・四ツ谷、入谷・明王、座間、立野台で比較的高く、とくに緑ヶ丘では7割を超えている。反対に、相模が丘、ひばりが丘、栗原中央・西栗原・南栗原、相武台・栗原・広野台、小松原では比較的低く、座間市の西部と東部で比率に差がみられる。

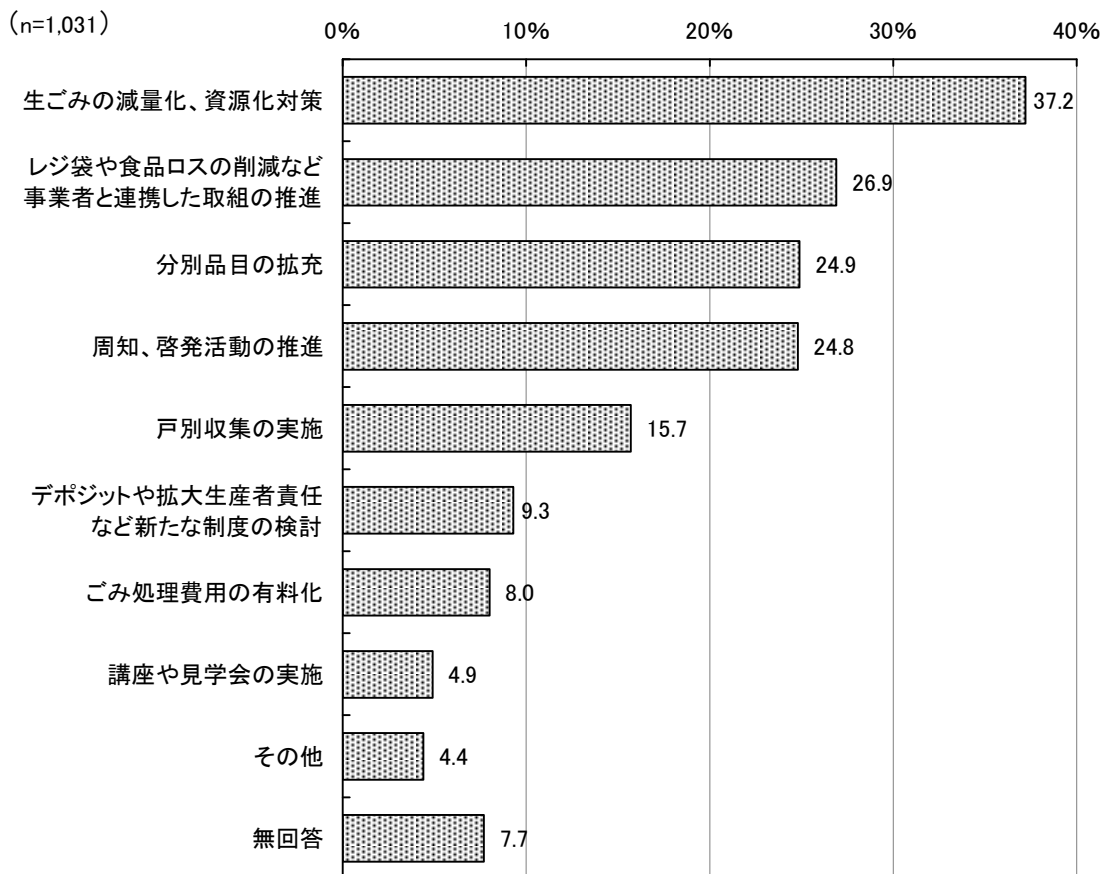


11 資源循環社会について

(1) ごみの減量化や資源化を推進していくうえで力を入れていくべき施策

問37 今後、ごみの減量化や資源化を推進していくうえで座間市が力を入れていくべき施策は何だと考えますか。【2つまで選んでください】

ごみの減量化や資源化を推進していくうえで力を入れていくべき施策を聞いた結果、最も多かったのは、「生ごみの減量化、資源化対策」(37.2%)であった。次いで、「レジ袋や食品ロスの削減など事業者と連携した取組の推進」(26.9%)、「分別品目の拡充」(24.9%)、「周知、啓発活動の推進」(24.8%)が続く。



【住まいの地域別】ごみの減量化や資源化を推進していくうえで力を入れていくべき施策

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「生ごみの減量化、資源化対策」は、立野台が最も高く、反対に相武台・栗原・広野台、緑ヶ丘で比較的比率が低くなっている。

全体で2位だった「レジ袋や食品ロスの削減など事業者と連携した取組の推進」は、どの地域もほぼ同じような比率となった。

	%	全 体 【実 数】	ご み 処 理 費 用 の 有 料 化	戸 別 収 集 の 実 施	分 別 品 目 の 拡 充	周 知 、 啓 発 活 動 の 推 進	講 座 や 見 学 会 の 実 施	生 ご み の 減 量 化 、 資 源 化 対 策	の 検 討 者 責 任 な ど 新 た な 制 度	デ ポ ジ ット や 拡 大 生 産	た 取 組 の 推 進	レ ジ 袋 や 食 品 ロ ス の 削 減	レ ジ 袋 や 食 品 ロ ス の 削 減 な ど 事 業 者 と 連 携 し た 取 組 の 推 進	そ の 他	無 回 答
全 体		1,031	8.0	15.7	24.9	24.8	4.9	37.2	9.3		26.9	4.4	7.7		
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	42	7.1	11.9	28.6	28.6	4.8	40.5	11.9		31.0	7.1	4.8		
	座間	53	9.4	11.3	30.2	15.1	3.8	39.6	11.3		32.1	11.3	7.5		
	入谷・明王	152	9.9	17.8	25.0	23.0	3.9	42.8	9.9		27.0	4.6	2.6		
	立野台	42	11.9	21.4	28.6	31.0	2.4	47.6	2.4		26.2	2.4	2.4		
	緑ヶ丘	64	4.7	15.6	25.0	21.9	3.1	29.7	15.6		28.1	1.6	14.1		
	相武台・栗原・広野台	110	6.4	16.4	25.5	19.1	3.6	29.1	11.8		26.4	8.2	10.0		
	相模が丘	205	6.3	17.6	23.9	27.3	5.4	34.1	8.8		25.4	4.4	8.3		
	小松原	30	13.3	13.3	26.7	30.0	6.7	40.0	6.7		26.7	-	-		
	ひばりが丘	121	9.9	16.5	20.7	23.1	8.3	37.2	8.3		24.0	2.5	10.7		
	東原・さがみ野	89	6.7	10.1	19.1	30.3	5.6	38.2	10.1		29.2	4.5	7.9		
	栗原中央・西栗原・南栗原	117	7.7	14.5	29.9	27.4	4.3	41.0	6.0		25.6	1.7	9.4		
	無回答	6	-	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	-	50.0	-	-		

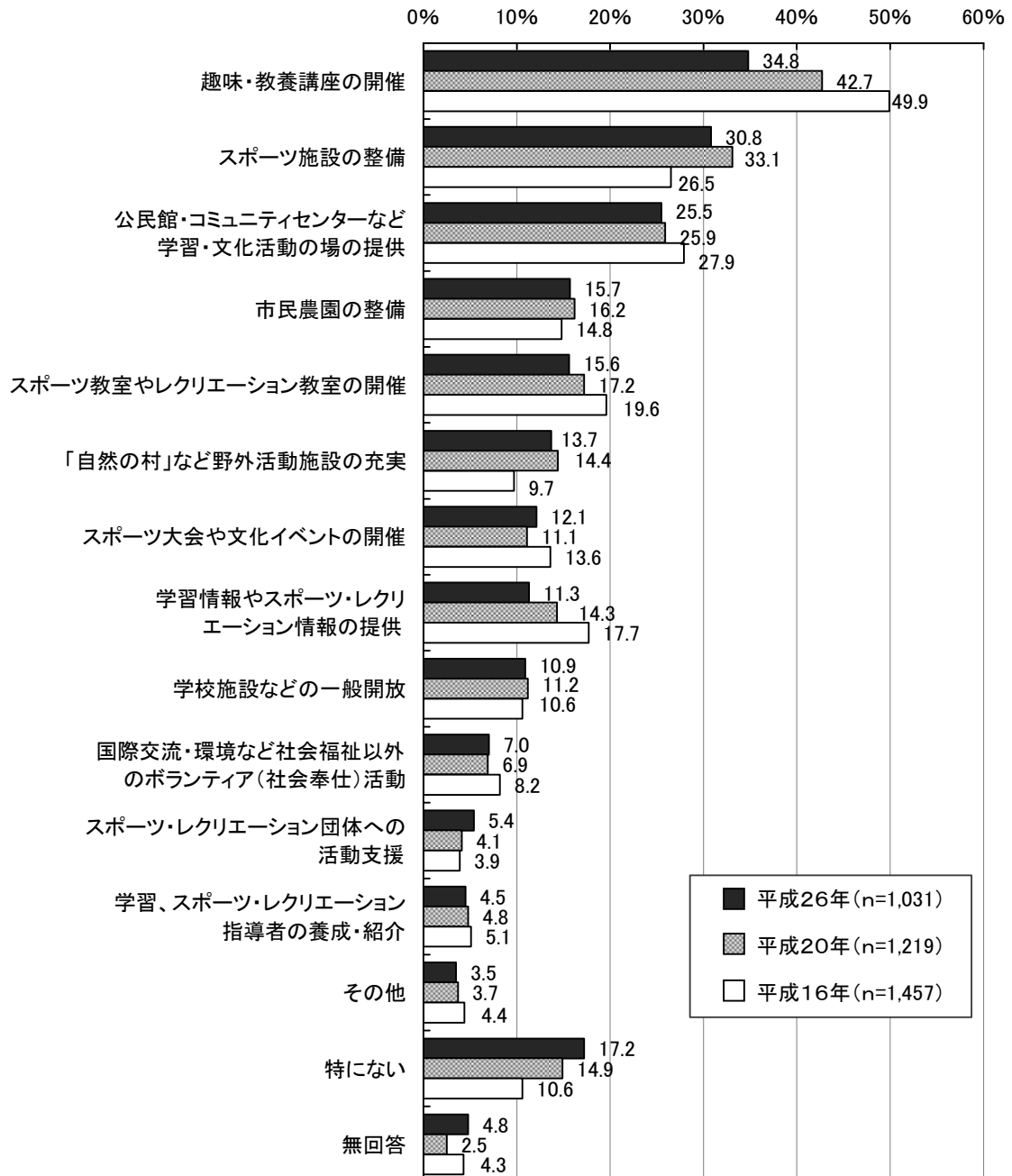
12 自由時間(余暇)について

(1) 自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設

問38 今後、あなたが自由時間を過ごすために、どのような施策・施設が必要だとお考えですか。【3つまで選んでください】

自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設を聞いた結果、最も多かったのは、「趣味・教養講座の開催」(34.8%)であった。次いで、「スポーツ施設の整備」(30.8%)、「公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供」(25.5%)、「市民農園の整備」(15.7%)、「スポーツ教室やレクリエーション教室の開催」(15.6%)が続く。

過去の調査と比較すると、「趣味・教養講座の開催」は、1位は変わらないものの大幅に減少している。「公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供」、「スポーツ教室やレクリエーション教室の開催」、「学習情報やスポーツ・レクリエーション情報の提供」なども年々減少傾向にある。反対に、「特にない」は増加傾向となっている。



【性別・年齢別】自由時間(余暇)を過ごすために必要な施策・施設

性別・年齢別にみると、全体で1位であった「趣味・教養講座の開催」は、男性よりも女性で比率が高く、特に女性の50歳代、60歳代で4割を超える高い比率となっている。反対に男性の18～29歳で10%台と比率が低いのが目立つ。

全体で2位であった「スポーツ施設の整備」は、男性の30歳代で57.9%と比率が高いのが目立つ。ほとんどの年代で女性よりも男性の比率が高くなっているが、18～29歳は女性の比率が高い。

(その1)

%		全 体 【実 数】	イ ス ポ ー ツ の 開 催 や 文 化	ス ポ ー ツ 施 設 の 整 備	提 習 ・ 文 化 活 動 の 場 の 学	公 民 館 ・ コ ミ ュ ニ	開 学 校 施 設 な ど の 一 般	学 習 情 報 や ス ポ ー ツ 情 報 の 提 供	学 習 ・ ス ポ ー ツ の 指 導 レ	開 催 ス ポ ー ツ 教 室 や レ
全 体		1,031	12.1	30.8	25.5	10.9	11.3	4.5	15.6	
性別・年齢	男性	全体	472	15.9	36.4	23.9	14.8	12.3	3.6	13.1
		18～29歳	35	22.9	45.7	20.0	17.1	5.7	20.0	2.9
		30～39歳	57	19.3	57.9	12.3	28.1	10.5	1.8	14.0
		40～49歳	72	19.4	40.3	19.4	8.3	9.7	2.8	22.2
		50～59歳	75	16.0	46.7	20.0	10.7	10.7	-	8.0
		60～69歳	110	12.7	31.8	32.7	14.5	23.6	1.8	13.6
		70歳以上	122	13.1	18.9	27.9	14.8	7.4	3.3	13.1
		無回答	1	-	100.0	-	-	-	100.0	-
	女性	全体	518	8.5	26.3	27.6	7.7	10.4	5.0	18.5
		18～29歳	43	7.0	48.8	25.6	4.7	7.0	2.3	20.9
		30～39歳	68	11.8	35.3	22.1	8.8	7.4	5.9	16.2
		40～49歳	78	11.5	33.3	24.4	11.5	14.1	1.3	19.2
		50～59歳	82	2.4	29.3	26.8	6.1	22.0	7.3	28.0
		60～69歳	121	9.1	18.2	29.8	4.1	6.6	6.6	19.0
70歳以上		126	8.7	15.1	31.7	10.3	7.1	4.8	11.9	
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	

(その2)

%		催 趣 味 ・ 教 養 講 座 の 開 催	活 動 支 援	ス ポ ー ツ ・ レ ク リ の	仕 事 ・ 社 会 奉 献 活 動	国 際 交 流 ・ 環 境 ボ ラ ン ティア	外 「 自 然 の 村 」 な ど 野 外 活 動 施 設 の 充 実	市 民 農 園 の 整 備	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		34.8	5.4	7.0	13.7	15.7	3.5	17.2	4.8		
性別・年齢	男性	全体	30.5	7.4	8.3	15.3	18.9	3.0	14.6	5.1	
		18～29歳	17.1	25.7	5.7	8.6	5.7	2.9	17.1	-	
		30～39歳	29.8	5.3	8.8	15.8	19.3	5.3	10.5	1.8	
		40～49歳	26.4	5.6	4.2	15.3	13.9	4.2	20.8	2.8	
		50～59歳	32.0	12.0	8.0	16.0	17.3	-	17.3	4.0	
		60～69歳	34.5	6.4	12.7	20.0	28.2	1.8	7.3	5.5	
		70歳以上	32.8	1.6	7.4	12.3	18.0	4.1	17.2	9.8	
		無回答	-	100.0	-	-	-	-	-	-	
	女性	全体	39.6	3.9	6.4	12.5	13.3	4.1	19.1	3.9	
		18～29歳	30.2	7.0	14.0	9.3	7.0	7.0	20.9	-	
		30～39歳	32.4	4.4	5.9	19.1	19.1	4.4	23.5	1.5	
		40～49歳	38.5	6.4	5.1	10.3	14.1	5.1	17.9	-	
		50～59歳	48.8	2.4	12.2	11.0	9.8	6.1	13.4	1.2	
		60～69歳	43.8	2.5	6.6	10.7	16.5	4.1	16.5	5.8	
70歳以上		37.3	3.2	0.8	14.3	11.1	0.8	23.0	8.7		
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-		

13 環境問題について

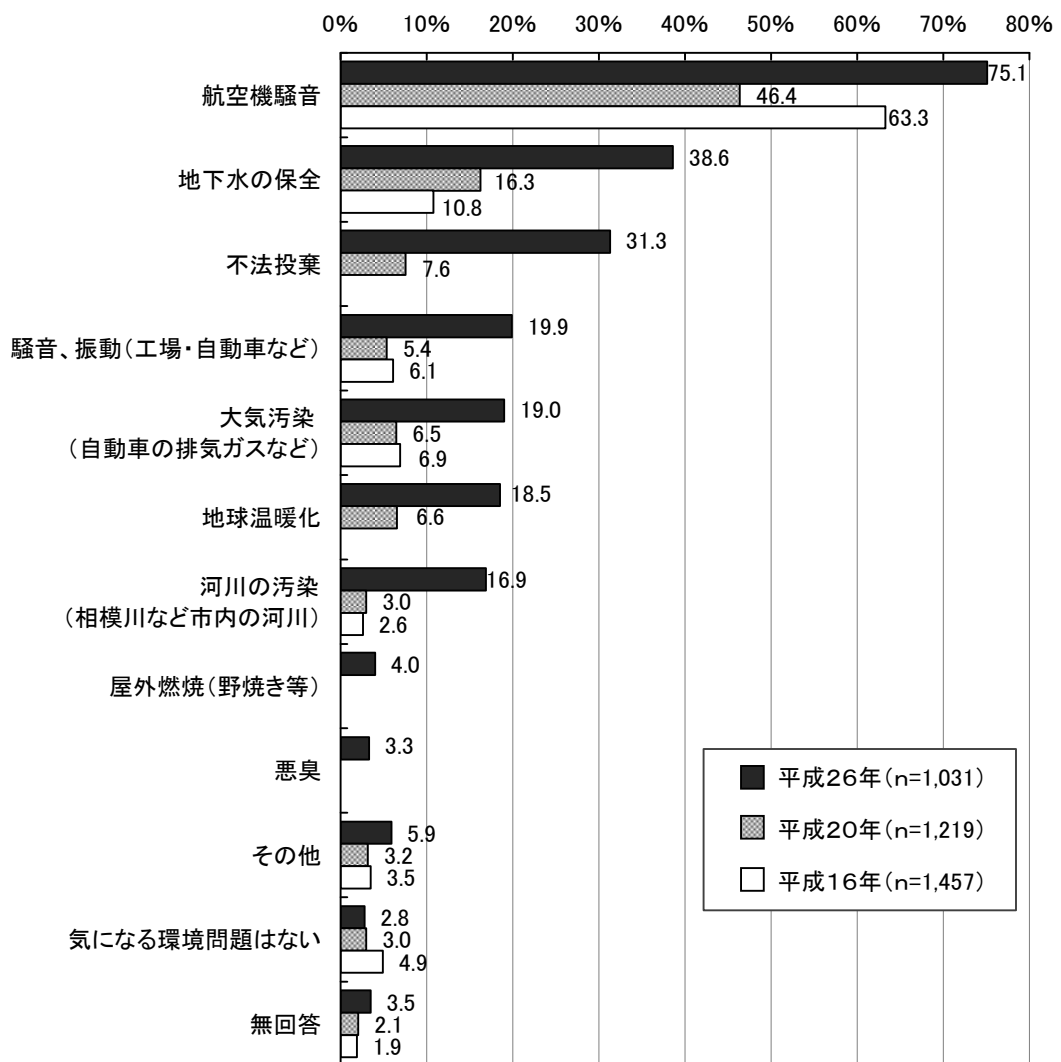
(1) 一番気になる環境問題

問39 座間市に住んでいて、一番気になる環境問題は何ですか。
【3つまで選んでください】

一番気になる環境問題を聞いた結果、最も多かったのは、「航空機騒音」(75.1%)であった。次いで、「地下水の保全」(38.6%)、「不法投棄」(31.3%)、「騒音、振動(工場・自動車など)」(19.9%)、「大気汚染(自動車の排気ガスなど)」(19.0%)、「地球温暖化」(18.5%)が続く。

※前回調査(平成20年)まで、回答の選択は1つの設問であったため、比率を単純に比較することはできない。過去のデータは参考として掲載する。

※「悪臭」「屋外燃焼(野焼き等)」は今回(平成26年)から、「不法投棄」「地球温暖化」は前回(平成20年)から調査項目に加わったため、それ以前のデータはない。



【住まいの地域別】一番気になる環境問題

住まいの地域別にみると、全体で1位だった「航空機騒音」は、すべての地域で1位となっており、栗原中央・西栗原・南栗原が最も高く9割を超えている。反対に、新田宿・四ツ谷では、前回に続き最も比率が低かった。

全体で2位だった「地下水の保全」は、入谷・明王で最も高く、緑ヶ丘、立野台などでも高かった。反対に、新田宿・四ツ谷で比率が低いのが目立つ。

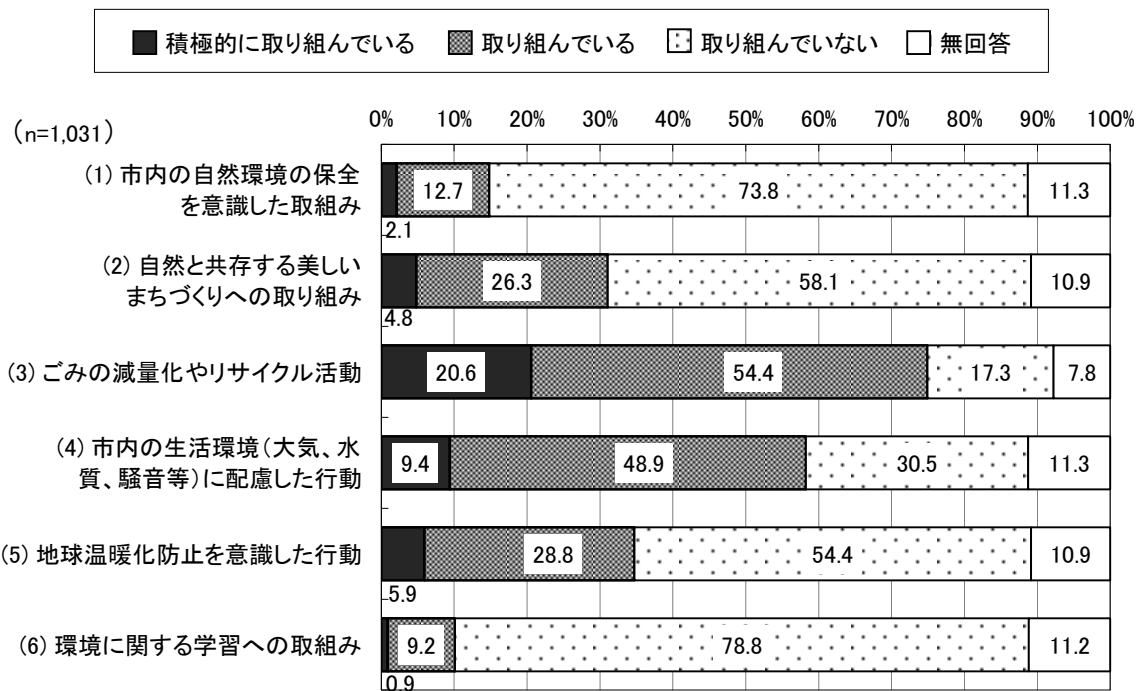
%		全 体 【実数】	大気汚染 (自動車 の排気ガスなど)	悪臭	屋外燃焼 (野焼き等)	地下水の 保全	河川の汚染 (相模川など 市内の河川)	騒音、振動 (工場・自動 車など)	航空機騒音	地球温暖化	不法投棄	その他	気になる 環境問題 はない	無回答
全 体		1,031	19.0	3.3	4.0	38.6	16.9	19.9	75.1	18.5	31.3	5.9	2.8	3.5
住 ま い の 地 域	新田宿・四ツ谷	42	7.1	7.1	35.7	21.4	33.3	16.7	40.5	16.7	38.1	11.9	7.1	2.4
	座間	53	18.9	1.9	3.8	37.7	22.6	22.6	49.1	22.6	30.2	5.7	5.7	1.9
	入谷・明王	152	14.5	4.6	3.3	55.3	20.4	11.8	63.8	18.4	36.8	8.6	5.9	2.0
	立野台	42	9.5	2.4	-	45.2	26.2	16.7	71.4	21.4	28.6	7.1	4.8	2.4
	緑ヶ丘	64	18.8	1.6	3.1	45.3	18.8	20.3	79.7	12.5	26.6	6.3	-	3.1
	相武台・栗原・広野台	110	23.6	5.5	3.6	30.9	16.4	20.0	76.4	16.4	29.1	3.6	3.6	3.6
	相模が丘	205	21.0	3.9	2.9	38.0	10.2	24.4	77.6	22.4	30.2	7.3	0.5	3.9
	小松原	30	20.0	-	3.3	30.0	10.0	40.0	83.3	3.3	30.0	3.3	3.3	6.7
	ひばりが丘	121	23.1	2.5	0.8	36.4	14.0	21.5	79.3	17.4	25.6	3.3	-	8.3
	東原・さがみ野	89	22.5	2.2	2.2	31.5	10.1	20.2	86.5	20.2	27.0	4.5	4.5	2.2
	栗原中央・西栗原・南栗原	117	17.9	0.9	2.6	36.8	22.2	15.4	92.3	18.8	38.5	4.3	1.7	1.7
	無回答	6	16.7	16.7	-	16.7	-	33.3	66.7	16.7	50.0	-	-	-

(2) 環境に配慮した取組みを行ったかどうか

問40 あなたは最近1～2年の間に、次のような環境に配慮した取組みを行いましたか。

最近1～2年の間に、環境に配慮した取組みを行ったかどうかを聞いた結果、「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいる」を合わせた《取組みを行った》とする回答が最も多かったのは、「(3)ごみの減量化やリサイクル活動」で、7割を超えている。次いで、「(4)市内の生活環境(大気、水質、騒音等)に配慮した行動」(58.3%)、「(5)地球温暖化防止を意識した行動」(34.7%)、「(2)自然と共存する美しいまちづくりへの取組み」(31.1%)が続く。「(6)環境に関する学習への取組み」(10.1%)、「(1)市内の自然環境の保全を意識した取組み」(14.8%)は比較的低い結果となった。

- (1) 市内の自然環境の保全を意識した取組み
(例:緑化イベントや自然観察会への参加、農業とのふれあい等)
- (2) 自然と共存する美しいまちづくりへの取組み
(例:地域や社会での美化活動、クリーンキャンペーン等への参加)
- (3) ごみの減量化やリサイクル活動
(例:製品の unnecessary な買い替えの自粛、ごみの排出ルールの徹底)
- (4) 市内の生活環境(大気、水質、騒音等)に配慮した行動
(例:環境に配慮した生活用品の使用、エコドライブの実践等)
- (5) 地球温暖化防止を意識した行動(例:省エネ対策、住宅用太陽光発電設備の設置等)
- (6) 環境に関する学習への取組み(例:講演会、学習会、自然観察会等への参加)

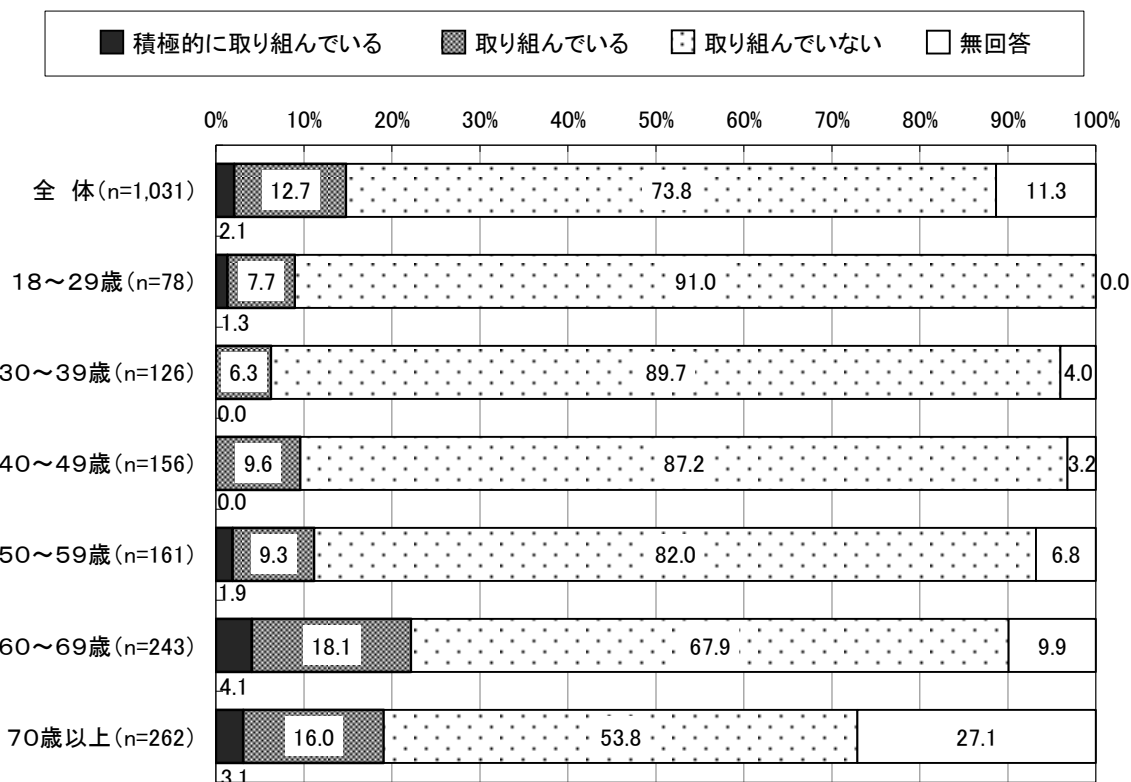


【年齢別】環境に配慮した取組みを行ったかどうか

(1) 市内の自然環境の保全を意識した取組み

(例:緑化イベントや自然観察会への参加、農業とのふれあい等)

《取組みを行った》とする回答は60歳代と70歳以上で比較的高くなっている。反対に、30歳代と40歳代は「積極的に取り組んでいる」が 0.0%となっているため、《取組みを行った》割合は低くなっている。

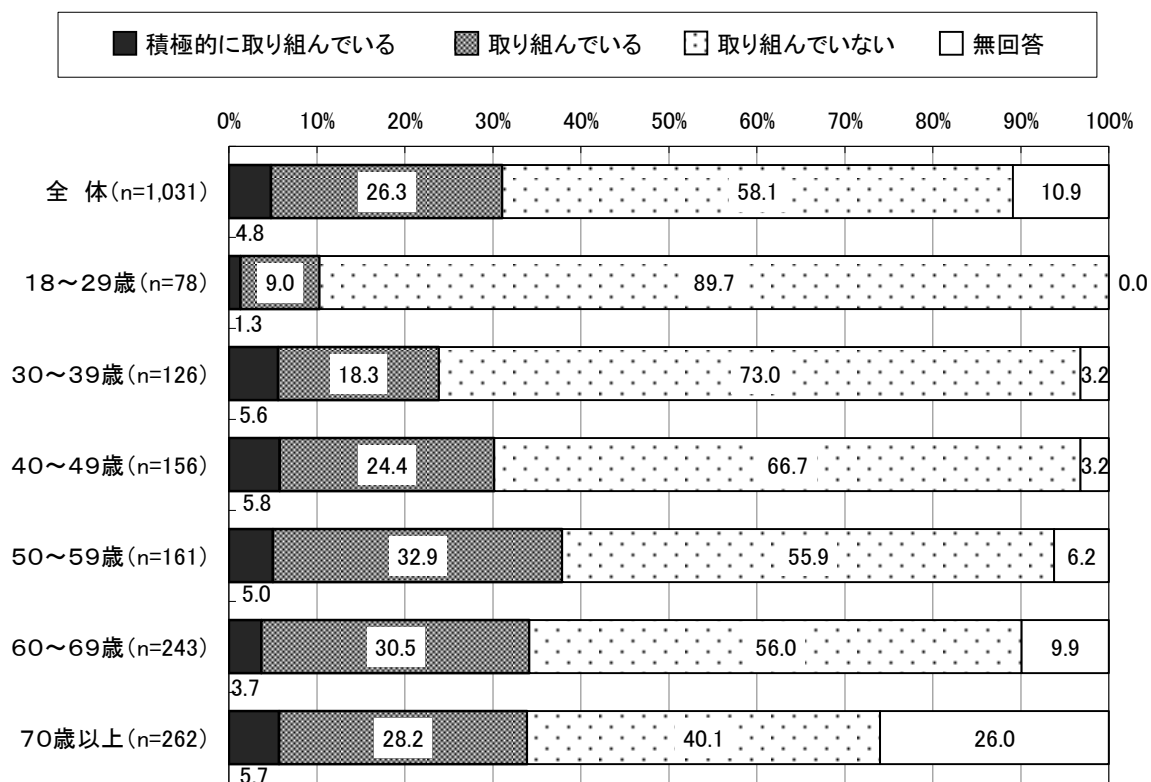


【年齢別】環境に配慮した取組みを行ったかどうか

(2) 自然と共存する美しいまちづくりへの取組み

(例: 地域や社会での美化活動、クリーンキャンペーン等への参加)

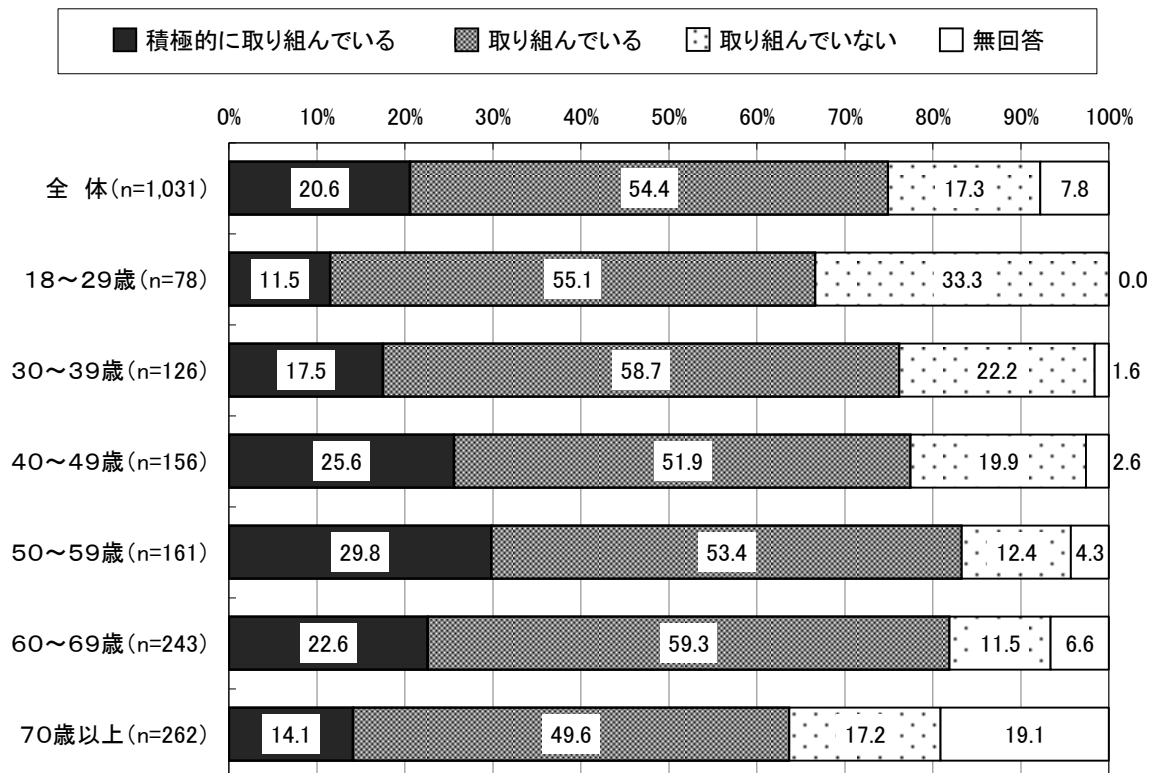
《取組みを行った》とする回答は50歳代が最も高くなっている。反対に、18～29歳で比率が低いのが目立つ。



【年齢別】環境に配慮した取組みを行ったかどうか

(3)ごみの減量化やリサイクル活動(例:製品の不必要な買い替えの自粛、ごみの排出ルール徹底)

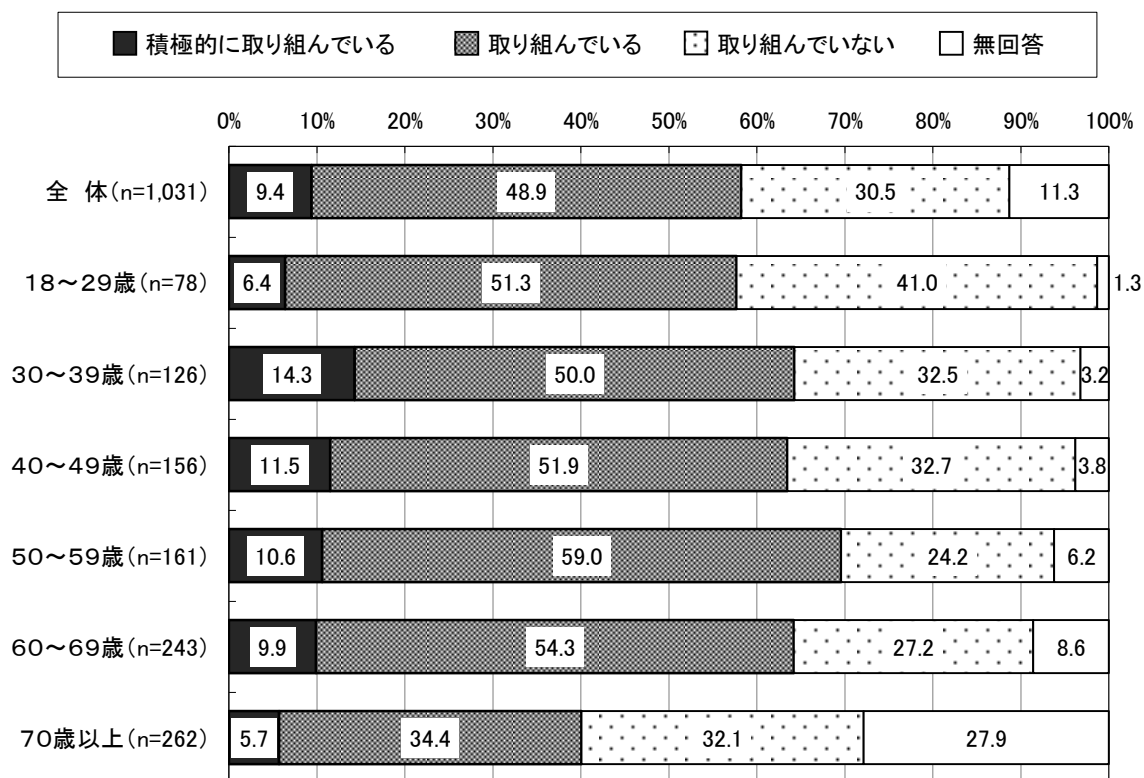
《取組みを行った》とする回答は全体的に高く、すべての年代で6割を超えている。その中では、70歳以上で比較的比率が低くなっている。



【年齢別】環境に配慮した取組みを行ったかどうか

(4) 市内の生活環境(大気、水質、騒音等)に配慮した行動
(例:環境に配慮した生活用品の使用、エコドライブの実践等)

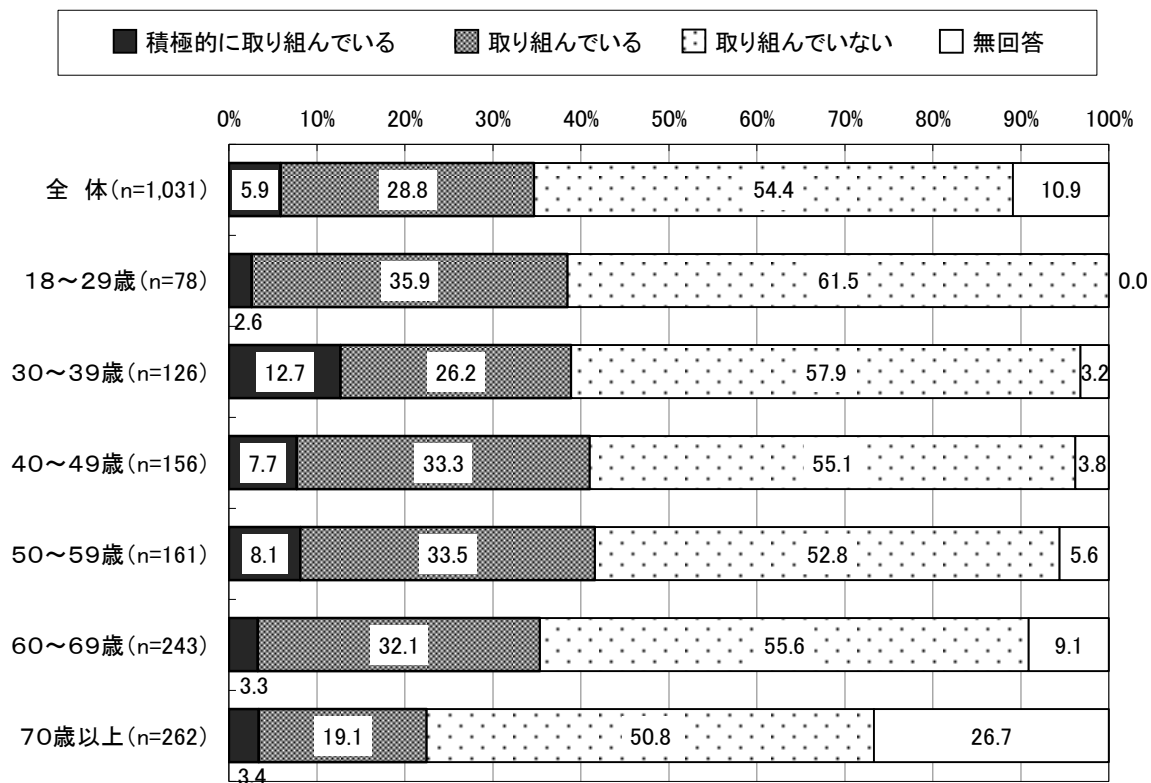
《取組みを行った》とする回答は全体的に高く、70歳以上を除くすべての年代で 5 割を超えている。
反対に、70歳以上は 40%台と比較的低くなっている。



【年齢別】環境に配慮した取組みを行ったかどうか

(5) 地球温暖化防止を意識した行動(例:省エネ対策、住宅用太陽光発電設備の設置等)

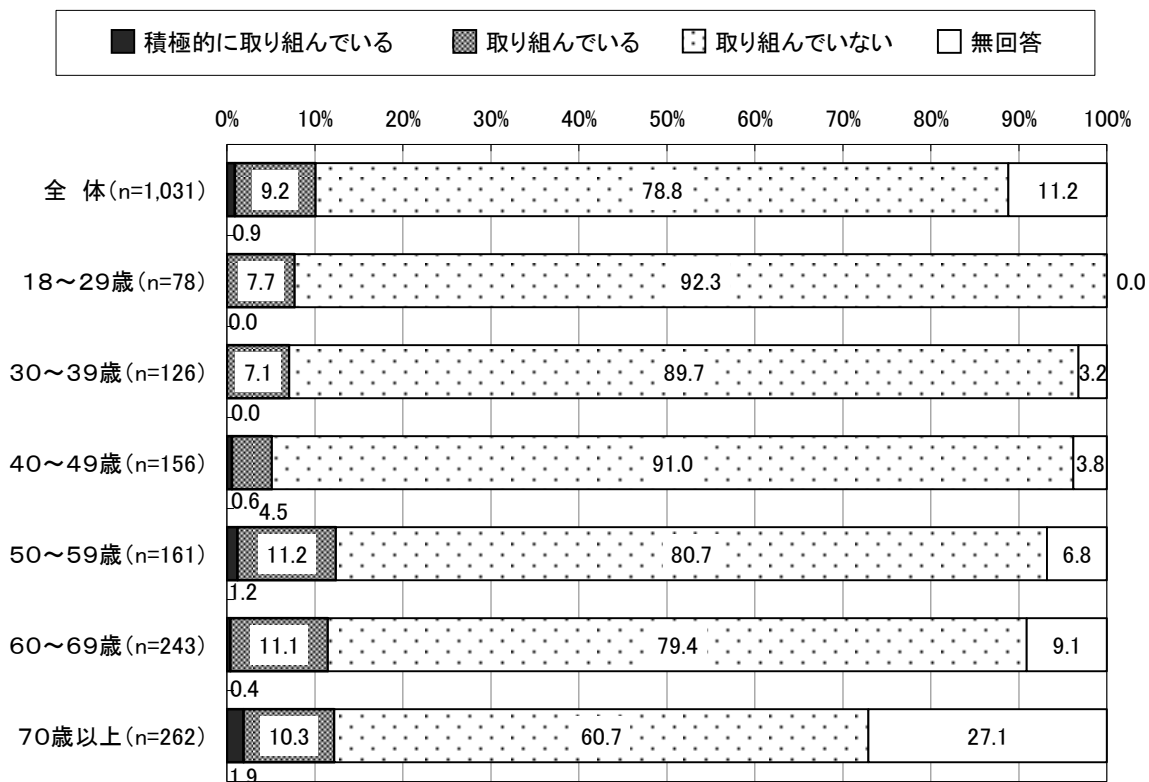
《取組みを行った》とする回答は、比率にそこまでの差がないものの50歳代までは増加しており、60歳以降で減少している。



【年齢別】環境に配慮した取組みを行ったかどうか

(6) 環境に関する学習への取組み(例:講演会、学習会、自然観察会等への参加)

《取組みを行った》とする回答は50歳以降で10%を超え、50歳未満は10%未満となっている。



14 自由意見

問41 最後に、あなたのお住まいの地域、あるいは座間市全体で、今後どのような市民生活が送れるようにしていけば良いか、ご意見、ご提言などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見を記入してもらった結果、546人の回答者から1,135件の意見が寄せられた。意見を要旨にまとめて項目別に整理し、件数の多い順から掲載した。※複数の意見を記入してあるものは意見ごとに1件とした

道路に関する意見

【186件】

道路を整備してほしい	40
道路の幅を広くしてほしい	29
歩道を整備してほしい	20
歩道を増やしてほしい	10
歩道の幅を広くしてほしい	9
歩道の段差をなくしてほしい	8
自転車用通路を増やしてほしい	8
側溝・排水溝を整備してほしい	8
雨のあと道路の水はけが悪い	5
ミラーや案内表示を整備してほしい	5
新しい建物やまちづくりは道路や駐車場のことを考えて計画を立てるべき	4
高齢者・車いす・子ども(ベビーカー)でも通行しやすい歩道にしてほしい	4
道路公共工事の期間が長すぎる	3
道路の視界を妨げる草木がないように管理してほしい	3
私道を公道にしてほしい	2
行き止まり道路の解消	2
スクールゾーンの拡大を望む	2
道路の充実(幹線道路等)	2
急な坂道が多く歩きづらい	2
細い道の一方通行化	2
相模が丘のさくら道は整備されて利用しやすくなった	1
整備されている所とされていない所の差が大きすぎる	1
圏央道のインターチェンジがなくて不便	1
手すりを設置してほしい	1
鉄道による道路の分断をなんとかしてほしい	1
道路工事は税金の無駄遣いになっていないか検討すべき	1
道路に関わる市の取り組みが市民に伝わっていない	1
圏央道厚木インターチェンジから座間方面への直接降り口がほしい	1
車道・歩道を区別化するとよい	1
自転車に関わる問題の対策	1
道路清掃に重点を置いてほしい	1
大雪のとき除雪してほしい	1
歩道工事がいつもずさんである	1
道路が暗い	1
道路公害が心配である	1
歩道にバンプを設けてほしい	1
道路に木を植えるとよい	1
公道になっているはずの土地が登記処理されていないのではないか	1

健康・医療・福祉に関する意見

【115件】

老人ホーム・施設の充実を望む	12
高齢者に対する施策を充実させてほしい	11
医療機関の充実を望む	10
子育てに関する施策を充実させてほしい	10
総合病院を作ってほしい	9
市立病院を作ってほしい	7
高齢者が安心して地域で暮らせるような施策の充実・まちづくりをしてほしい	7
小児医療助成の対象年齢を延長してほしい	6
医療制度を充実させてほしい	5
ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯に対するサポートが必要	5
救急医療を充実させてほしい	4
福祉関係に力を入れてほしい	3
高齢者にやさしく配慮をもって接するまちになるとよい	3
健康管理・体力向上の啓発	3
保育施設の充実を望む	2
介護制度の充実を望む	2
高齢者の社会的孤立を防止する対策を望む	2
総合病院の健全な運用	1
徘徊する高齢者を保護する対策を望む	1
高齢者がインターネットから情報入手できるようにパソコンの設置・教育をする	1
高齢者に対するインターネットからの情報提供は向いていないので方法を検討すべき	1
ばらまき福祉の中止	1
男性が育児・介護休暇を取得できるよう働きかけを行ってほしい	1
高齢者の買物支援をボランティアなどで行いたい	1
定期健診の基準が高すぎると医療費が負担増となる	1
総合病院の建設に感謝	1
生活保護を受けている人をきちんとチェックしてほしい	1
福祉に関して県と市で連携してほしい	1
福利厚生施設を増やしてほしい	1
不妊治療の助成制度を設けてほしい	1
高齢化社会に向け、高齢者の生活の充実が必要	1

防犯・治安に関する意見

【94件】

街灯の整備をしてほしい	21
治安を向上させ、安心して住めるまちにしてほしい	15
未成年者の非行問題(夜間の徘徊、喫煙など)に対して積極的に取り組んでほしい	6
暗いところが多い	6
防犯カメラを設置してほしい	6
空き屋・廃屋対策に取り組んでほしい	6
治安が悪化している	5
迷惑営業の取り締まりを強化してほしい	5
防犯パトロールをしてほしい	4
路上喫煙防止、喫煙マナー向上の対策に力をいれてほしい	4
放置自転車やバイクに迷惑している	2
市の放送が聞こえにくい	2
交番を増やしてほしい	2
防犯対策を強化してほしい	1
自治体の安全・協力体制のサポートをしてほしい	1
防犯に関する注意喚起の放送を流してほしい	1
マンションののぞき禁止に取り組んでほしい	1
車の無断駐車を取り締まってほしい	1
暴走族を取り締まってほしい	1
街灯のLED化を歓迎	1
警察に相談にいつでも親身になってくれない	1
座間市は近隣他市に比べ治安がよいと思う	1
まちが汚い(落書きやごみの出し方など)	1

交通に関する意見

【81件】

渋滞緩和に取り組んでほしい	13
コミュニティバスの本数を増やしてほしい	8
公共交通の便をよくしてほしい	8
市役所への交通が不便	5
小田急線の踏切待ちが長い、高架などの対策に取り組んでほしい	5
駅へのバスがほしい	5
バスの本数を増やしてほしい	4
コミュニティバスの路線を増やしてほしい	4
バスの路線を増やしてほしい	4
バスの最終便を遅くしてほしい	3
病院への交通の便をよくしてほしい	3
大雨や大雪が降ると交通が大変不便になる	3
コミュニティバスが小さく、定員が少ない	3
相武台駅に急行が停まるように働きかけてほしい	3
スクールゾーンや住宅区域の路地にトラックの侵入制限を設けてほしい	1
コミュニティバスを整備してほしい	1
駐車場の確保を望む	1
都心へのアクセスが容易になるとよい	1
車がなくても生活できるまち	1
ワンコインバスを作してほしい	1
コミュニティバスの利用の仕方がよくわからない	1
高齢者のバス料金を半額にしてほしい	1
市のイベントがあるときは、シャトルバスの運営を検討してほしい	1
足腰が悪くなったため、必要な外出はタクシーを使っている	1

自然環境に関する意見

【78件】

緑地の保全に力を入れてほしい	22
今ある自然環境を守ってほしい	14
緑が以前と比べて少なくなった	6
まちに花を増やしたい	5
緑地や街路樹、花の手入れや管理が行き届くようにしてほしい	4
自然の花や緑で癒されるまちにしたい	3
もっと緑を増やしてほしい	3
桜並木を大切に維持してほしい	3
桜並木を新たに植樹してほしい	2
緑に囲まれたよいまちだと思う	2
畑の土ぼこりで洗濯物が汚れる	1
神社の葉が落ちるため、背の高い木々は切してほしい	1
目久尻川の美化運動を市が中心となって行ってほしい	1
空き地を畑にして、高齢者の活動の場とするとよい	1
日かげとなる大きな木が苦情優先で切られていて残念	1
桜はもっと専門的なアドバイスに基づいて切してほしい	1
道路側の植物の発育不足が気になる	1
花壇にはゆっくり楽しめる花がよい	1
次世代の子ども達のために自然を大切にしてほしい	1
緑だけは他市に対抗できるまちにほしい	1
相模川の整備が問題である	1
自然の良さをアピールするため、散歩・ハイキングコースの整備をしてはどうか	1
もっと街路樹があるとよい	1
オレンジのけしは外来種なので駆除したほうがよい	1

コミュニティに関する意見

【68件】

自治会の加入者を増やす対策が必要	6
地域住民同士が交流できる場がほしい	5
みんなが自治会へ加入するとよい	4
自治会の活動がほとんどなくメリットを感じない	4
横のつながりを大切にし、お互い助け合えるようなまちになるとよい	4
各自自治体がコミュニケーションをもち、市政と連携していくとよい	4
近所づきあいを大切にしまちづくり	3
自治会の運営実態についてもっと広く伝わるようにすべき	3
自治会を通して住民の交流を深めるとよい	3
若い人たちの自治会の加入が少ない	3
年齢の偏りなどを考慮して、自治会の最適な運営方法を検討すべき	3
様々な世代が交流できる場があるとよい	3
挨拶をきちんとするまちであるとよい	2
自治会や隣近所で高齢者への見守り体制を作りたい	2
各世代で交流できる場があるとよい	2
地域のイベントや活動の情報を得る機会が少ない	2
気楽な近所づきあいの静かな生活ができるまちがよい	2
古くから住む人と新しく転入してきた人との親睦がはかれるとよい	2
自治会の活性化が必要	1
自治会の加入が少なく地域住民とのふれあいが少ない	1
市民共通の話題を作るような広報をしてほしい	1
若者の地域離れを減らす取組みをしてほしい	1
子ども会の復活	1
市民が一体となって取り組めるものがない	1
近隣自治会の構成が複雑	1
子どもと親のコミュニティが必要	1
地域の集会に市の援助がほしい	1
子育てや介護の悩みが相談できる場がほしい	1
自治会は古い体制で新しい人が入りづらい	1

まちづくりに関する意見

【59件】

安全で安心して暮らせるまちづくり(高齢者・子ども等)	8
生活しやすく、他市の人に住みたいと思わせるまちづくり	8
座間駅周辺の整備をしてほしい	6
マンションや高層住宅の高さ制限を設けてほしい	4
相武台前駅周辺の整備をしてほしい	3
美しい景観・まち並みを守ったまちづくり	3
駅周辺の整備をしてほしい	2
入谷駅周辺の整備をしてほしい	2
小田急相模原駅周辺の整備をしてほしい	2
まちづくりの方向性・ビジョンをはっきり示してほしい	2
近隣市と合併した方がよい	2
そこに住む人々の意識を啓蒙するような取り組みをしてほしい	2
電線地中化計画の推進と周知徹底を望む	2
活気のあるまちづくり	1
高度利用地域と低層地域との区別	1
座間市全体の区画整理をしてほしい	1
政令指定都市を目指してほしい	1
市役所周辺だけではなく、すべての地域に対して平等なまちづくりをしてほしい	1
皆が楽しめるようなまちにしてほしい	1
基地と市民生活の新しい関係を築いて、モデル都市を目指す	1
特産物や名所が増えると明るい市になると思う	1
座間市の良さをまちづくりに生かしてほしい	1
女性が安心して子育てできるまちづくり	1
まちが古臭い	1
座間市独自のまちづくり	1
緑が少ないので夏が暑く、日かげがほしい	1

公園に関する意見

【59件】

公園を増やしてほしい	18
公園設備・環境の整備をしてほしい	11
子どもが遊べる遊具がある公園がほしい	7
子どもが安全に遊べる場がない	4
子どもが外遊びができる環境を整備してほしい	2
小さい子どもの遊び場がほしい	2
高齢者と子どもと一緒に過ごせるような公園・場所があるとよい	2
芹沢公園を車いすでも行けるようにしてほしい	1
公園をみんなで楽しめる場にしてほしい	1
公園利用のルールをきちんと決めるべき	1
緑地公園の整備	1
富士山公園の状態が悪い	1
散歩ができる公園がほしい	1
開放的な明るい公園がほしい	1
芹沢公園の整備に予算が使われるのはよいと思う	1
かにが沢公園が今のように残り続けてほしい	1
緑ある公園を生かしたまちづくり	1
谷戸山公園付近や沿線沿いの桜や桃が美しい	1
公園では喫煙禁止にしてほしい	1
公園の駐車場で洗車する人がいて迷惑	1

商工業に関する意見

【46件】

スーパーマーケットがほしい(近く・駅周辺)	8
商店街の活性化をはかってほしい	6
商業施設・店舗を充実させてほしい	6
コンビニが近くにほしい	5
お店が少ない	3
大型ショッピングセンターがほしい	2
気軽に立ち寄れるカフェ・おしゃれな喫茶店がほしい	2
本屋・CDショップがほしい	2
パチンコ店はいらない	2
買物を地域内で完結できるようにしてほしい	2
買物が遠くて不便	1
衣料品の購入が不便	1
お店がなくなっていくのが不安	1
道の駅を作るとよい	1
スーパーの営業時間が短い	1
年をとるとつれ買い物が大変になる	1
商業施設以外のことで特色のあるまちづくりをするのがよい	1
ペット同伴可のお店がほしい	1

基地問題に関する意見**【43件】**

航空機騒音を解消してほしい	29
騒音の負担が軽くなるよう、航空機のルートや時間帯、頻度を工夫してほしい	4
基地があることをもっと有効に利用したまちづくり	3
基地と市民がもっと交流できる雰囲気やまちづくりをしてほしい	2
基地の返還を求める	1
基地問題にもっと力を入れて取り組んでほしい	1
座間キャンプ周辺の道を安全に明るくしてほしい	1
航空機騒音の補助金の範囲をもっと広げるべき	1
基地のせいか民法ラジオの電波が時間によって入りづらい	1

ごみ処理に関する意見**【43件】**

ごみ出しに関するマナーが悪く、ルールが守られていない	8
ごみのポイ捨てが多い	5
ごみ集積所の清掃・整備が必要	4
カラスがごみを散らかさないようごみ集積所を整備してほしい	4
ごみの不法投棄が多い。いつまでも残っている	3
粗大ごみなど曜日に関わらずごみを持ち込めるごみ収集場を作ってほしい	3
犬の散歩でのフンの始末をきちんとしてほしい	2
ごみ集積所の問題が改善されるとよい	2
ごみ袋等、ごみ処理費用を有料化すべき	2
ごみの分別を強化すべき	1
大型高性能のごみ処理施設を望む	1
ごみの分別がはっきりしていないものがある	1
各自が家の周りを清掃すれば地域全体が綺麗になる	1
ごみがまちの美観を損ねている	1
ごみに関する問題について行政で取り組んでほしい	1
ごみ回収時間内に出せないときがある	1
ごみ処理費用の有料化には反対	1
コンビニ客の捨てるごみがあふれていて困る	1
ごみ処理場の検討・建設	1

スポーツ・レクリエーションに関する意見

【36件】

スポーツ施設を充実させてほしい	14
他市からもたくさん人が集まるようなお祭り・イベントができればよい	4
室内(温水)プールがほしい	3
運動公園・広場をつくってほしい	3
グラウンドを整備してほしい	1
バーベキュー場がほしい	1
ダンススタジオを増やしてほしい	1
座間のお祭りのさらなる活性化	1
サッカーの町としてアピールしてほしい	1
座間市の観光名所・行事などをもっと売り込んでほしい	1
レジャー施設を充実させてほしい	1
座間市全体が一つになれるようなイベントがほしい	1
文化的活動、スポーツ活動に対する援助がほしい	1
硬式野球ができる球場を作ってほしい	1
マラソン大会などスポーツイベントを開催してほしい	1
スポーツに対する取り組みが悪い	1

交通安全対策に関する意見

【32件】

交通安全対策に力を入れてほしい	7
カーブミラーの整備を徹底してほしい	4
自転車のマナー違反を指導してほしい	4
運転マナーの改善・向上に力を入れて取り組んでほしい	2
通学路の安全対策に力を入れてほしい	2
違法な路上駐車を取り締まりを強化してほしい	2
学校で、自転車の交通ルールを教育するとよい	2
狭い道に速度制限を設けてほしい	2
案内表示を整備してほしい	1
信号がない交差点が不安になる	1
通学路にガードレールを作ってほしい	1
急な坂に手すりがあるとよい	1
事故や事件が少なくなるとよい	1
車優先社会で歩行者が危ない状況が多い	1
座間駅前のスクランブル交差点は必要ない。信号無視をする歩行者もいて危険	1

公共施設に関する意見

【32件】

公共の施設や市役所が自宅から遠い	4
ハローワークを作ってほしい	3
図書館の本を充実させてほしい	2
ざまコミュニティプラザを市民でなくてももっと気軽に利用できるようにするとよい	2
図書館をもっと増やしてほしい	2
ハーモニーホールをもっと活用するとよい	2
文化施設を充実させてほしい	2
有料図書館を検討してほしい	1
市民が一人で行っても楽しめるような場所がほしい	1
現在ある施設をもっと活用できるとよい	1
市役所や図書館を駅の近くに作ってほしい	1
温泉を作ってほしい	1
図書館で本の予約ができるとよい	1
コミュニティセンターでできる役所の手続きを増やしてほしい	1
利用者のためのコミュニティセンター運営をしてほしい	1
出張所の役割が不明	1
駅にエスカレーターがほしい	1
相武台前駅を利用価値の高い駅にしてほしい	1
市の博物館・郷土資料館がない	1
図書館の返却ボックスを駅に設置してほしい	1
いろいろな行政手続きを役所でできるようにしてほしい	1
スカイアリーナの駐車場を増やしてほしい	1

防災に関する意見

【31件】

防災活動に力を入れてほしい	7
防災行政無線が聞こえない・聞きづらい	5
大雨時の排水対策をしてほしい	5
近隣住民の防災集合場所を作ってほしい	1
災害に強いまちづくり	1
地域で協力して避難できる体制強化	1
消防団員が減少している。若者の積極的参加と拡充を望む	1
耐震工事を積極的に行ってほしい	1
緑地が少なくなり火災の際の延焼が心配	1
一斉防災訓練はよい取り組みだと思う	1
税額は高いのに災害時の生活必需品が整備されていない	1
広域避難場所を増やしてほしい	1
防災訓練をシェイクアウトというのはやめてほしい	1
個別に実践的な防災訓練を行ってはどうか	1
減災のモデル地域の自覚をもち、市民の防災意識を向上させるように努めてほしい	1
災害時に争わず助け合う精神を子供たちにも伝えたい	1
正確な情報を迅速に伝える体制づくりを望む	1

上水道・下水道に関する意見**【12件】**

上下水道の完備	3
上下水道代が高い	3
座間のきれいな水がいつまでも使えるようになってほしい	3
座間市の水を使えることに感謝している	1
地下水があるのに県の水を使って水道代が上がるのが納得できない	1
にごりなくおいしい水道水を望む	1

その他の意見**【120件】**

今の座間市に満足している	24
ざまりんの活用	8
市の情報をもっとわかりやすく伝えてほしい	6
ふん害など動物に関わる問題に取り組んでほしい	6
市民一人ひとりが地域のことを考え行動することが大切	5
参加できる事柄にはできるだけ協力していきたい	4
市税収入の激減に備えて市政を考えてほしい	3
住民税が高い	3
成功した他市の事例を参考にすべき	3
このようなアンケートは有意義だと思う	2
市議会議員数が多すぎる	2
市民の意見が伝わりやすくなるようにしてほしい	2
市が市民を守るという意識・前向きな姿勢がほしい	2
税金を無駄づかいしないでほしい	2
桜並木の遊歩道ができてよかった	2
役所に意見を言っても無駄だった	2
市のあるべき方向を明確に示してほしい	2
座間市単独では、あまり多くのことを望むのは無理	2
市政に計画性が感じられない	2

(次頁へ続く)

(続き)

市役所職員の異動の仕方に疑問	1
よく頑張っていると思う	1
基地や原水爆禁止への取り組み方は評価できる	1
「基地のある座間」以外の代名詞がほしい	1
全市で公共の場はすべて禁煙にすべき	1
女性が働かないと生活が成り立たない	1
座間市は科学的根拠のない説に惑わされないでほしい	1
駅前でマイクを使った朝の演説はやめてほしい	1
家賃の安い住宅が増えてほしい	1
アンケートの謝礼があってよいのではないか	1
アンケート選択肢が感覚に合わない	1
お祭りやイベントで地域の暖かさを感じている	1
観光協会の活性化	1
健康づくりは自分でやっている	1
風通しのよい行政を望む	1
車いす生活で社会に溶け込めず今後は不安	1
市の職員数が多すぎる	1
市職員の態度を改善してほしい	1
さがみ野駅近くがきれいになったと思う	1
市政が旧態依然としていて変わろうとしていると思えない	1
地域格差をなくしてほしい	1
必要な事業は経費を惜しまず実施してほしい	1
モニター活動という市役所との関わりが自らの成長になっている	1
市長の「顔」が見えてこない	1
以前より地域の人たちの協力や姿勢がよかった	1
市職員の仕事への取組みが以前と比べよくなったと思う	1
企業の誘致	1
納税をコンビニでできるようにしてほしい	1
歩道にお洒落なベンチがほしい	1
一歩一歩の努力が大切	1
大人が子どもの見本になることをしなくてはいけない	1
マンションで美化活動を行うとよい	1
転入者が少なく、発展性が乏しい	1
住宅地にある企業の移転を望む	1
「座間」という地名があまり好きでない	1
花いっぱい運動はすばらしい	1
歩きたばこを条例で取り締まってほしい	1
駅の近くに役所の出張所を設置してほしい	1

IV 調査票

それぞれ、あてはまる番号を○で囲んでください。

最初に、あなた自身のことについてお伺いします。

問1 あなたの性別はどちらですか。

1. 男 2. 女

問2 あなたの年齢は(平成25年5月1日現在)おいくつですか。

1. 18～29歳 5. 60～64歳
2. 30～39歳 6. 65～69歳
3. 40～49歳 7. 70～79歳
4. 50～59歳 8. 80歳以上

問3 あなたのご職業は何ですか。【兼業の方は、主な職業を1つだけ選んでください】

1. 商工業
2. サービス業
3. 農林業
4. 専門・技術職(医師、教授、技師など)
5. 事務職(一般事務、経理、営業など)
6. 労務職(店員、工員、作業員など)
7. 人材派遣会社への登録
8. パート、アルバイト
9. 学生
10. 専業主婦
11. 無職
12. その他()

問4 問3で1から9とお答えの方にお伺いします。あなたの勤務地(通学地)はどこですか。

1. 自宅 4. 横浜市・川崎市
2. 座間市内 5. その他の県内
3. 相模原市・厚木市・大和市 6. 東京都内
海老名市・綾瀬市・愛川町・清川村 7. その他(県)

問5 あなたの同居の家族構成はどれですか。

1. 単身世帯 4. 三世代世帯(親と子と孫)
2. 夫婦のみ 5. その他()
3. 二世帯世帯(親と子)

問6 あなたのお住まいは次のうちどれにあてはまりますか。

1. 持家(一戸建て) 5. 公営住宅
2. 持家(共同住宅) 6. 官・公舎
3. 民営借家(一戸建て) 7. その他()
4. 民営借家(共同住宅)

問7 あなたはいつごろから座間市にお住まいですか。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 昭和19年以前 | 6. 昭和60年～平成6年 |
| 2. 昭和20年～昭和29年 | 7. 平成7年～平成16年 |
| 3. 昭和30年～昭和39年 | 8. 平成17年～平成21年 |
| 4. 昭和40年～昭和49年 | 9. 平成22年以降 |
| 5. 昭和50年～昭和59年 | |

問8 あなたがお住まいの地域はどこですか。

- | | |
|--------|-----------|
| 1. 新田宿 | 10. 広野台 |
| 2. 四ツ谷 | 11. 相模が丘 |
| 3. 座間 | 12. 小松原 |
| 4. 入谷 | 13. ひばりが丘 |
| 5. 明王 | 14. 東原 |
| 6. 立野台 | 15. さがみ野 |
| 7. 緑ヶ丘 | 16. 栗原中央 |
| 8. 相武台 | 17. 西栗原 |
| 9. 栗原 | 18. 南栗原 |

座間市の生活環境についてお伺いします。

問9 あなたが座間市にお住まいになった主な理由は何ですか。【1つだけ選んでください】

1. 手ごろな家や土地があったから
2. 結婚や家族の転居にともなって
3. 仕事や学校の関係で
4. 自分の生まれ育ったところだから
5. 通勤・通学が便利だったから
6. 親兄弟や親戚が近くにいたから
7. 自然環境や土地柄が良かったから
8. 自分の家や土地があるから
9. その他()

問10 あなたは、これからも今の場所に住み続けたいと思いますか。それとも他へ移りたいと思いますか。【1つだけ選んでください】

1. 住み続けたい
2. 市内で移りたい
3. 市外へ移りたい
4. わからない

問 11 **問 10**で「1. 住み続けたい」とお答えの方にお伺いします。今の場所に住み続けたい理由は何ですか。【1つだけ選んでください】

1. 自分の家や土地があるから
2. 住みなれて愛着があるから
3. 自然環境や土地柄がよいから
4. 自分が生まれ育ったところだから
5. 通勤・通学などが便利だから
6. 仕事や学校の関係で
7. 親兄弟や親戚が近くにいるから
8. 人間関係が良いから
9. 子どもの生活環境、教育環境がよいから
10. 何となくイメージがよいから
11. その他()

問 12 **問 10**で「2. 市内で移りたい」または「3. 市外へ移りたい」とお答えの方にお伺いします。他のところに移りたい主な理由は何ですか。【1つだけ選んでください】

1. 自然環境が悪いから
2. 公共施設や病院が不十分だから
3. 自分の家や土地ではないから
4. 通勤・通学などが不便だから
5. 仕事や学校の関係で
6. 何となくイメージがぱっとしないから
7. 日常の買い物が不便だから
8. 地代・家賃が高いから
9. 人間関係が良くないから
10. 子どもの教育の関係で
11. 高級店や娯楽施設が少ないから
12. 航空機騒音がひどいから
13. その他()

問 13

あなたは、お住まいの周辺の環境にどの程度満足されていますか。

【次の(1)～(18)それぞれの事項について、あてはまる番号1つに○をつけてください】

	満 足	ま あ 満 足	ふ つ う	や や 不 満	不 満
例 地震や火災に対する安全性は	1	②	3	4	5
(1) 飲み水は	1	2	3	4	5
(2) 日当たりや風通しなどは	1	2	3	4	5
(3) 日常の買い物は	1	2	3	4	5
(4) 台所・風呂などの排水処理は	1	2	3	4	5
(5) ごみ処理は	1	2	3	4	5
(6) 周囲の自然環境は	1	2	3	4	5
(7) 雨水の排水処理は	1	2	3	4	5
(8) 通勤・通学の便は	1	2	3	4	5
(9) 市役所や出張所への行きやすさは	1	2	3	4	5
(10) 治安や風紀は	1	2	3	4	5
(11) 病院や診療所などは	1	2	3	4	5
(12) 地震や火災に対する安全性は	1	2	3	4	5
(13) 公園や子どもの遊び場は	1	2	3	4	5
(14) 街並みなどの景観は	1	2	3	4	5
(15) 文化・スポーツ・娯楽などの施設は	1	2	3	4	5
(16) 交通安全について	1	2	3	4	5
(17) 道路の整備状況は	1	2	3	4	5
(18) 騒音・大気汚染などは	1	2	3	4	5

問 14

問 13 の(1)から(18)までの項目を総合的に考えて、あなたのまわりの環境はいかがですか。【1つだけ選んでください】

1. 住みやすい
2. まあ住みやすい
3. どちらともいえない
4. やや住みにくい
5. 住みにくい

健康づくりについてお伺いします。

問 15 あなたは、ご自身の健康づくりのために今後どのようなことが重要だとお考えですか。

【2つまで選んでください】

1. 定期検診などによる健康管理
2. 市の健康相談などで自分に合った健康や医療の情報・知識を得る
3. 食生活と運動習慣の講座等
4. スポーツ・レクリエーションなどでの体力づくり
5. 過労防止のための適切な休養
6. その他()
7. 特にない

コミュニティ活動についてお伺いします。

問 16 あなたは今後どのような近所づきあいをしていきたいと思いませんか。

【1つだけ選んでください】

1. お互いに助け合うなど親密なつきあいをしたい
2. 世間話をする程度の気軽なつきあいをしたい
3. あいさつ程度のつきあいをしたい
4. 近所づきあいはしたくない
5. その他()

問 17 あなたはどのような地域活動に参加していますか。

【実際に参加している団体・活動すべてに○を付けてください】

1. 自治会
2. 子供会
3. 婦人会
4. 老人クラブ
5. PTA
6. ぞま遊友クラブ
7. 青少年の健全育成
8. スポーツ団体
9. 農協・商工会などを通じた地域活動
10. 趣味・学習・伝統文化などの団体活動
11. 高齢者、身体・知的・精神障害者などに対する社会福祉活動
12. 国際交流・環境など社会福祉以外のボランティア(社会奉仕)活動
13. リサイクル、不用品交換会などの消費生活活動
14. その他()
15. 特に活動していない

問 18 問 17 で「15. 特に活動していない」とお答えの方にお伺いします。活動していない主な理由は何ですか。【3つまで選んでください】

1. 家族の世話など家庭の事情で
2. どのような活動が行われているのかあまり知らないから
3. 近くに参加したい団体・活動がないから
4. 活動する時間がないから
5. 健康・体力にあまり自信がないから
6. 知り合いがないから
7. 参加したくないから
8. その他()

市民生活・広報についてお伺いします。

問 19 あなたは身のまわりのことで要求や問題があった場合、それを市政に反映させるためにどのような方法をとりますか。【1つだけ選んでください】

1. 市長あてに手紙・電子メールを出す
2. 自分で直接市役所に連絡する
3. 自治会を通して連絡する
4. 市議会に陳情する
5. 住民運動を通して伝える
6. 地元の有力者に頼む
7. 言っても無駄だと思う
8. その他()

問 20 あなたは現在、自分自身の日常生活に役立つ情報を知るためにどのような媒体(メディア)を使っていますか。【よく使う順に3つ選んで、あてはまる選択肢の数字を下の□の中に1つずつ記入してください】

- | | | |
|-----------------|---------------|----------------------|
| 1. 「広報ざま」などの広報紙 | | |
| 2. テレビ | | |
| 3. ラジオ | 1番よく使う媒体の番号 | <input type="text"/> |
| 4. 新聞・雑誌 | | |
| 5. 書籍・チラシ | | |
| 6. インターネット | 2番目によく使う媒体の番号 | <input type="text"/> |
| 7. ポスター・看板・掲示板 | | |
| 8. 自治会の回覧版 | | |
| 9. テレフォンサービス | 3番目によく使う媒体の番号 | <input type="text"/> |
| 10. ファクスサービス | | |
| 11. ダイレクトメール | | |
| 12. 家族・友人・知人 | | |
| 13. その他() | | |

問 21 市のお知らせについては、「広報ざま」や「市ホームページ」のほか、今後どのようなものを使うと便利だと思いますか。【あてはまるものをいくつでも選んでください】

1. ビデオテープやDVD等などの貸し出し
2. 市役所や各出張所などでのビデオ上映
3. 録音テープによる電話サービス
4. ケーブルテレビ
5. ファクスサービス
6. ツイッターなど
7. その他()

※「広報ざま」や「市ホームページ」のほかに、テレビ「tvkデジタルデータ放送・J:COMのL字放送」、ラジオ「FMやまと・FMカオン」、「座間市緊急情報メール」でも市のお知らせを提供しています。

問 22 座間市のホームページを閲覧したことがありますか。

1. ある
2. ない

問 23 **問 22**で「1. ある」とお答えの方にお伺いします。現在のホームページに満足していますか。【1つだけ選んでください】

1. 満足
2. まあ満足
3. ふつう
4. やや不満
5. 不満

男女共同参画についてお伺いします。

問 24 「男は仕事、女は家庭」といった考えがあります。あなたはどのように考えますか。【1つだけ選んでください】

1. 反対
2. どちらかといえば反対
3. どちらかといえば賛成
4. 賛成
5. わからない

問 25 **問 24**で「1. 反対」または「2. どちらかといえば反対」とお答えの方にお伺いします。その理由は次のどれですか。【1つだけ選んでください】

1. 生まれつき男女の役割は決められているものではないから
2. 従来の経験や習慣では、おしはかれない状況となっているから
3. 現在、仕事の面でも活躍している女性が多くなったから
4. 一般に、家事時間が減って自由時間が増えたから
5. 仕事をもつことは当たり前のことだから
6. その他()

問 26 **問 24**で「3. どちらかといえば賛成」または「4. 賛成」とお答えの方にお伺いします。その理由は次のどれですか。【1つだけ選んでください】

1. それが男女それぞれの生まれつきの特性だから
2. 従来の経験や習慣から
3. 子どもを育てるには、女性が家庭にいたほうがよいから
4. 女性は仕事をもっても不利な条件におかれているから
5. その他()

問 27 あなたはこれまでに、あなたのパートナー(配偶者・恋人)から次のようなことをされたことがありますか。

【次の(1)～(4)それぞれの事項について、あてはまる番号1つに○をつけてください】

	何度もあった	1、2度あった	まったくない
(1) 身体的暴力 (殴る／物を投げる／首を絞める／タバコの火を押し付ける等)	1	2	3
(2) 心理的暴力 (暴言を吐く／大事なものを壊す／交友関係を監視・制限する等)	1	2	3
(3) 性的暴力 (性行為を強要する／避妊に協力しない／ポルノを見せる等)	1	2	3
(4) 経済的暴力 (生活費を渡さない／女性が働き収入を得ることを妨げる／借金を重ねる)	1	2	3
(5) その他の被害()	1	2	3

防災・減災についてお伺いします。

問 28 あなたの家では、現在、地震や火災に備えてどのような対策をとっていますか。

【あてはまるものをいくつでも選んでください】

1. 近くの学校や公園など避難場所を決めている
2. 家具を固定している
3. 飲料水や食料を準備している
4. 消火器の設置や水のためおきをしている
5. 医薬品や非常持ち出し品を準備している
6. 地域の防災訓練に参加、または隣近所との協力について話し合っている
7. 火災警報器を設置している
8. その他()
9. 特に何もしていない

問 29 あなたは、防災・減災対策として座間市が一番力を入れるべき施策は何だと考えますか。

【1つだけ選んでください】

1. 市民の防災・減災意識の高揚
2. 自主防災組織づくり
3. 避難場所の確保
4. 飲料水、食料などの確保
5. 正確な情報を伝達する体制づくり
6. その他()
7. 防災対策として力を入れるべき施策はない

問 30 あなたは、座間市が提供・実施している、防災・減災対策や災害時の情報伝達手段についてご存じですか。

【所有や登録の有無にかかわらず、ご存じのものをいくつでも選んでください】

1. 市ホームページ災害関連情報
2. 防災行政無線(スピーカー放送)
3. 音声自動応答サービス(フリーダイヤル 0120-673-679)
4. 緊急情報いさまメール
5. 緊急速報メール
6. 防災マップ(配布)
7. 総合防災ガイド(配布)
8. 座間市いっせい防災行動訓練(シェイクアウト)

喫煙マナーについてお伺いします。

問 31 あなたは、路上での喫煙防止に係る条例の必要についてどう思いますか。

【喫煙年齢や喫煙の有無にかかわらず、いくつでも選んで記入してください】

1. 市で路上喫煙防止の条例を検討すべきだ
2. 公共の場所を路上喫煙防止の場所として検討すべきだ
3. 全ての路上を路上喫煙防止の場所として検討すべきだ
4. 市で路上喫煙防止の条例を検討すべきではない
5. タバコのポイ捨て防止の啓発や喫煙マナーの指導をすべきだ
6. その他()

景観形成についてお伺いします。

問 32 良好な都市景観、都市環境を形成するためには、どのようなことが必要だと思えますか。

【1つだけ選んでください】

1. 建築物の高さ規制の導入
2. 緑地の保全
3. 農地の保全
4. 並木の創出
5. 身近な地区を対象としたルールづくり
6. 屋外広告物対策
7. 色彩のルールづくり
8. 公共施設における景観への配慮
9. その他()

問 33 住まいの近くに中高層建築物が建っていること、または建った場合、どう感じますか。

【1つだけ選んでください】

1. 大変気になる
2. 気になる
3. 全く気にならない
4. どちらともいえない
5. その他()

問 34 中高層建築物の具体的な問題点は何だと思えますか。【いくつでも選んでください】

1. 日照
2. 圧迫感
3. 電波障害
4. 風害
5. 周辺との不調和
6. 街並み
7. その他()

問 35 建築物の高さ制限の必要性についてどのように思えますか。

【1つだけ選んでください】

1. どの地域でも建つ可能性があるため市街地全域に必要である
2. 現在の法規制で十分なので、建築物の高さ制限は必要ない
3. どちらともいえない
4. わからない
5. その他()

公園・広場・緑地についてお伺いします。

問 36 自宅周辺の緑に満足していますか。【1つだけ選んでください】

1. 満足
2. まあ満足
3. ふつう
4. やや不満
5. 不満

資源循環社会についてお伺いします。

問 37 今後、ごみの減量化や資源化を推進していくうえで座間市が力を入れていくべき施策は何だと考えますか。【2つまで選んでください】

1. ごみ処理費用の有料化
2. 戸別収集の実施
3. 分別品目の拡充
4. 周知、啓発活動の推進
5. 講座や見学会の実施
6. 生ごみの減量化、資源化対策
7. デポジットや拡大生産者責任など新たな制度の検討
8. レジ袋や食品ロスの削減など事業者と連携した取組の推進
9. その他()

自由時間(余暇)についてお伺いします。

問 38 今後、あなたが自由時間を過ごすために、どのような施策・施設が必要だとお考えですか。【3つまで選んでください】

1. スポーツ大会や文化イベントの開催
2. スポーツ施設の整備
3. 公民館・コミュニティセンターなど学習・文化活動の場の提供
4. 学校施設などの一般開放
5. 学習情報やスポーツ・レクリエーション情報の提供
6. 学習、スポーツ・レクリエーション指導者の養成・紹介
7. スポーツ教室やレクリエーション教室の開催
8. 趣味・教養講座の開催
9. スポーツ・レクリエーション団体への活動支援
10. 国際交流・環境など社会福祉以外のボランティア(社会奉仕)活動
11. 「自然の村」など野外活動施設の充実
12. 市民農園の整備
13. その他()
14. 特にない

環境保全についてお伺いします。

問 39 座間市に住んでいて、一番気になる環境問題は何ですか。【3つ選んでください】

1. 大気汚染(自動車の排気ガスなど)
2. 悪臭
3. 屋外燃焼(野焼き等)
4. 地下水の保全
5. 河川の汚染(相模川など市内の河川)
6. 騒音、振動(工場・自動車など)
7. 航空機騒音
8. 地球温暖化
9. 不法投棄
10. その他()
11. 気になる環境問題はない

問 40 あなたは最近1～2年の間に、次のような環境に配慮した取組みを行いましたか。
【次の(1)～(6)それぞれの事項について、あてはまる番号1つに○をつけてください】

	積極的に取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいない
(1) 市内の自然環境の保全を意識した取組み (例:緑化イベントや自然観察会への参加、農業とのふれあい等)	1	2	3
(2) 自然と共存する美しいまちづくりへの取組み (例:地域や社会での美化活動、クリーンキャンペーン等への参加)	1	2	3
(3) ごみの減量化やリサイクル活動 (例:製品の unnecessary な買い替えの自粛、ごみの排出ルールの徹底)	1	2	3
(4) 市内の生活環境(大気、水質、騒音等)に配慮した行動 (例:環境に配慮した生活用品の使用、エコドライブの実践等)	1	2	3
(5) 地球温暖化防止を意識した行動 (例:省エネ対策、住宅用太陽光発電設備の設置等)	1	2	3
(6) 環境に関する学習への取組み (例:講演会、学習会、自然観察会等への参加)	1	2	3

全体を通した自由意見をお聞かせください。

問 41 最後に、あなたのお住まいの地域、あるいは座間市全体で、今後どのような市民生活が送れるようにしていけば良いか、ご意見、ご提言などがありましたら、ご自由にお書きください。

(1) あなたのお住まいの地域のまちづくりについて

(2) 座間市全体のまちづくりについて

(3) その他

ご協力ありがとうございました。

調査はこれで終わります。調査票は同封の返信用封筒(切手不要)に入れて5月30日(金)までにご投函ください。

平成26年8月
座間市「市民意識調査」報告書

発行 座間市企画財政部企画政策課
〒252-8566 神奈川県座間市緑ヶ丘一丁目1番1号
電話 (046) 255-1111 (代表)
